小学校国語科における「書くこと」の指導方法の研究 一意見文を書く過程に「ワークシート」を取り入れることを通して一

山梨県総合教育センター 一般留学生 山本 聖

研究の概要

本研究は、小学校国語科における「書くこと」の指導方法の研究である。「書くこと」領域の中でも「意見文」に焦点を当てて研究を進めていく。児童は様々な文章を書くときに、「何を書いたらよいのか」「どのように書けばよいのか」という点に悩んでいる。小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説国語編においては、考えの形成の学習過程が重視され、何ができるようになり、何がわかったのかということに力点が置かれている。意見文を書く学習過程において、自分の意見が伝わるように段落構成を考えたり、表し方を工夫するだけでなく、その考えに至る過程で、事実を整理したり、考えたり、意見を明確にする活動が一層重視される。

そこで、本研究では、児童が自分の考えをより明確にし、相手に分かりやすく伝える意見文を書くために「ワークシート」を活用し、文章を書くことができることを目指す。ワークシートを活用した指導方法が自分の考えを明確にした意見文を書くことができるようになるために有効であったかを検証する。

キーワード

「書くこと」領域 自分の考えを明確にする 意見文 ワークシート

I 主題設定の理由

(1) 普段の授業(児童の様子と自分自身の経験) から

これまでも「書くこと」の授業において、既存のワークシートを活用しながら文章を書かせることに 取り組んできた。しかし、児童は必要な情報や自分で調べたことをシートに書き出し、構成を考えなが ら文章を書きあげることが困難であった。

児童らは、書くことに対する苦手意識があり、何を書けばよいのか(内容)、どのような順序で書けばよいのか(構成)、誰に伝えるのか(相手意識)、なぜこの文章を書くのか(目的意識)などが明確にされていないことにより、自分の考えを文章に表すことに抵抗感を感じてしまうのではないかと考えた。少しでも、これらの課題を解決するための手立てはないだろうかと思った際に、今までの経験を振り返った。

そのため「ワークシート」を書けるようになるための手立てとして、シートの構成を組み立て作成し、 児童が自分の考えをより明確にし、相手に分かりやすく伝える意見文が書けるように授業の流れも考え、 実践を行った。

(2) 今日的課題・学習指導要領の目指すところから

全国的に見て、「書くこと」における課題はどんなことが挙げられているのであろうか。

全国学力・学習状況調査の小学校国語の報告書を基に考察する。

「書くこと」に関する課題 (H30年, H31年, R3年, R4年の全国学力・学習状況調査 小学校国語報告書より抜粋)

平成30年度

◆ 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題がある。

平成 31 年度

- ◆ 情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることに課題がある。
- ◆ 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。

令和3年度

◆目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する ことに課題がある。

令和 4 年度

- ◆ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題がある。
- ◆ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。

これらのことから、「書くこと」における経年的な課題として、自分の考えの理由を明確にして書く ことや理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することなどが挙げられて いる。

次に、学習指導要領の目指すところから考える。

小学校学習指導要領解説(平成 29 年度告示) 国語編 第 2 章 第 1 節では、国語科の目標は、「国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力」を育成することを目指すと掲げている。

第2節 国語科の内容 3 [思考力,判断力,表現力等]の内容の指導事項では,学習過程が提示されている。その中で,「今回の改訂では,学習過程をより一層明確にし,各指導事項を位置づけた。」とあり,前回の指導要領との違いを述べている。(表1)

また,「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」領域において「考えの形成」を重視し,指 導事項に組み込まれている。私は,この「考えの形成」に着目することにした。

「考えの形成」について藤森(2019)は、「子どもの深い学びを実現するための大切な学びの過程であり、子どもたちが失敗やつまづきを恐れずに、それらから豊かな意味を見いだすことができる」ことであると述べている。つまり、単に文章を書く活動をすることが大切なのではなく、文章を書く活動からどのようなことを学び、どのようなことが分かったのかを児童が自覚することが大切であると考える。

表 1 小学校学習指導要領 B書くこと 小学校第5学年及び第6学年の指導事項 新旧学習過程比較表

| 小学校学習指導要領(平成20年告示) 旧 | | 小学校学習指導要領(平成29年告示) 新 | | 要領(平成29年告示) 新 |
|----------------------|---|----------------------|-------------------------|---|
| 学習過程 | 内容 | | 学習過程 | 内容 |
| 課題設定や取材に 関する指導事項 | ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、各事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 | | 題材の設定 情報の収集 内容の検討 | ア 目的や意図に応じて、感じたこと や考えたことなどから書くことを選 び、集めた材料を分類したり関係 付けたりして、伝えたいことを明確 にすること。 |
| 構成に関する指導 事項 | イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 | | 構成の検討 | イ 筋道の通った文章となるように、 文章全体の構成や展開を考えること。 |
| 記述に関する指導事項 | ウ 事実と感想,意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。 | | 考えの形成記述 | ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 |
| 推敲に関する指導 事項 | オ 表現の効果などについて確かめ たり工夫したりすること。 | | 推敲 | オ 文章全体の構成や書き表し方な どに着目して,文や文章を整えるこ と。 |
| 交流に関する指導 事項 | カ 書いたものを発表し合い,表現の 仕方に着目して助言し合うこと。 | \Longrightarrow | 共有 | カ 文章全体の構成や展開が明確に なっているかなど、文章に対する 感想や意見を伝え合い、自分の文 章のよいところを見付けること。 |

このように、児童の「書くこと」における課題、自身の抱えている「書くこと」領域の課題や全国学力・学習状況調査における経年的な課題、指導要領が目指すところから、本研究では、児童が自分の考えを明確にし、相手に分かりやすく伝える意見文を書くことができることを目指していきたい。そのために、児童が意欲的に取り組めるワークシートを開発し、それを活用し指導することで、文章が書けるようになったという成功体験を積ませたいと考える。

Ⅱ 本研究の目標

小学校国語科の書くことにおいて、自分の伝えたいことを明確にした意見文を書くことができる児童を育成するためにワークシートを開発し、それを活用することの有効性を検証し、書くことの指導の方法を明らかにする。

Ⅲ 研究の基本的な考え方

1. 「書くこと」について

(1) 小学校6年間を見通した「書くこと」について

小学校では、どのような種類の文章を学習しているのだろうか。観察記録文、体験報告文、観察 記録文、説明文、紹介文、手紙、日記、報告文、その他たくさんの種類がある。これらを低学年か ら繰り返し学習し経験を積んでいる。

では、実際の教科書(光村図書)では、どのような文章を学習するのか系統表を示す(表2)。

表2 国語 光村図書(1~6年生)教科書の「書くこと」単元系統表

| | | 1 | 1 |
|--------|-------------------------|---|---|
| 314 | | | たいせつ |
| 学 | 単元名 | 内容 | (単元末に載って |
| 年 | | | いるポイント) |
| | ぶんをつくろう | 文の構造 | 主語と述語 |
| | おおきくなった | 観察文を書く(観察記録) | |
| | はをへをつかおう | 文の構造 | 修飾語 |
| | すきなもの, なあに | 二文 | 12 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 |
| | こんなことがあったよ | 一へ 報告文を書く(体験報告) | |
| | 27073 C 2 3748) 3 7 C 3 | | 文章を書いたら、確 |
| | しらせたいな, みせたいな | 観察文を書く(観察記録) | かめる(句読点,助 詞) |
| | じどう車ずかんをつくろう | 説明する文を書く (説明) | 説明の順に気をつけると,分かりやすく 書くことができる |
| | ともだちのこと, しらせよう | 報告文を書く(紹介) | 友達の文章を読ん で、思ったことや分 かったことを伝える |
| | てがみでしらせよう | 手紙を書く(手紙) | 手紙の書き方 |
| | いいこといっぱい, 一年生 | 一年生の出来事を思い出して書く(体験 報告) | 分かりやすく書く |
| | きょうのできごと | 日記を書く(日記) | 日記に書くこと |
| 2 | かんさつ名人になろう | 観察したことを書く(観察記録) | 観察したことを書く |
| 年 | こんなもの、見つけたよ | 組み立てを考えて書き、知らせる(報告) | 組み立てを考えて 書く |
| | おもちゃの作り方をせつめいしよう | おもちゃの作り方を説明する(指示) | 順序が分かるよう に書く |
| | お話のさくしゃになろう | まとまりに分けて、お話を書く(物語) | お話を書くとき |
| | 見たこと、感じたこと | 詩に書くことを見つけ、詩を書く(詩) | 詩に書くことを見 つける |
| | すてきなところをつたえよう | 思いを伝える手紙を書く (手紙) | 読む人に分かりや すい文章を書く |
| | 気もちをこめて「来てください」 | 大事なことを考えて,案内の手紙を書く (手紙) | 案内の手紙を書く |
| | 仕事のくふう、見つけたよ | 仕事の工夫を見つけて,友達に報告する 文章を書く(報告) | 組み立てを考えて, 報告する文章を書く |
| 3 年 | 食べ物のひみつを教えます | すがたをかえて食品になる材料につい て、説明する文章を書く(説明・報告) | 例を挙げて書く |
| | たから島のぼうけん | 組み立てにそって、物語を書く(物語) | 物語の組み立てを 考えて書く |
| | これがわたしのお気に入り | 作品の中から一つ選び,理由とともに紹介する文章を書く(紹介) | 感想を伝え合う |
| | お礼の気持ちを伝えよう | 気持ちの伝わる手紙を書く(手紙) | 手紙で気持ちを伝 える |
| 4 | 新聞を作ろう | 事実を分かりやすく報告する新聞を作る (報告) | 事実を分かりやす く伝える |
| 年 | 伝統工芸のよさをつたえよう | 伝統工芸のよさについて調べ,理由や例と ともにリーフレットにまとめ,友達に知ら せる(説明・報告) | 理由や例を挙げて 考えを伝える |
| | 感動を言葉に | 心の動きを言葉詩にして,詩を書く (詩) | 読み返して, 書い たものを整える |

| | もしものときにそなえよう | 自然災害への備えについて調べ、考えた ことを書き、読みあう(意見) | 文章の感想を伝え 合う |
|--------|--------------|--|------------------------------|
| | 日常を十七音で | 言葉をよりすぐって俳句を作る(俳句) | 表現を工夫する |
| | みんなが過ごしやすい町へ | 身の回りの工夫について調べたことを正 確に報告する(報告) | 調べたことを正確 に伝える |
| 5 | グラフや表を用いて書こう | 自分の意見を,グラフや表などの統計資料を用いて書く(説明・報告) | グラフ や 表を用い て書く |
| 年 | あなたは、どう考える | 読み手が納得する意見文を書く(意見) | 説得力のある意見 文を書く |
| | この本、おすすめします | 相手や目的を明確にして、推薦する文章を書く(推薦) | 相手や目的に合わせて書く |
| | たのしみは | 言葉を選んで、「たのしみ」を短歌に表 す (短歌) | 言葉を選んで,短 歌を作る |
| | 私たちにできること | 具体的な事実や考えをもとに、提案する 文章を書く(提案) | 提案する文章を書 く |
| 6 年 | 日本文化を発信しよう | 日本文化について調べ、そのよさが読み手に伝 わるように構成や絵、写真の見せ方を工夫し て、パンフレットにまとめる(解説) | 伝えたいことに合わ せた構成を考える |
| | 大切にしたい言葉 | 書き表し方を工夫して,経験と考えを伝える(経験) | 考えたことや感じ たことを伝える |
| | 思い出を言葉に | 形式と表現を工夫して書く(創作など) | 伝えたい思いを明 確にして書く |

(注) ()の中は、文章の種類を表している。

は、4年生のときに意見文を学習した単元。 は、授業を実施した単元。

低学年では、文の作り方から始まり、中学年では、経験したことや報告したいことなど、身近なことを題材にし、文章を書く学習を行う。そして高学年では、説明する文や意見文、解説する文など自分の考えを論理的にわかりやすく他者に伝える文章が書けるようになっていく。発達段階に応じて文章の書き方を学ぶことで、前学年で学んだことを生かしながら学習を進めていく。

(2) 本研究で扱う文章について

「書くこと」の授業1回だけでは児童の変容が見られるとは考えにくい。そのため、研究対象の学年の先生方と話し合いをする中で、11月の授業だけではなく、7月にも授業を行えることになった。それは、研究対象の児童の実態を把握するためと、書くことに対する児童の変容をより見取りやすくするため、また自作のワークシートを活用して文章が書けるようになるのかどうかを見るためである。

1学期の授業では「調査報告文」を書く授業を実施する。本研究で書くことを目指している「意見文」とは文の種類は違うが、児童の実態を把握するためには有効だと考える。「調査報告文」とは、児童の関心のある物事について調べ、調べたことから分かったことや気が付いたことをまとめ、他者へ報告する文章のことである。「報告文」は、低学年から形を変えながらもずっと学習してきているものになる。そのため、これまでの学習の知識を活用しながら文章を書けるのではないかと考える。この「調査報告文」の授業を行った後、「意見文」を書く授業を行っていく。

2学期の検証授業では、「意見文」を書かせる。「意見文」とは、「読み手が納得すること、すなわち、説得力のある文章」を目指して書く文章である。光村図書 五年 銀河の教科書には、「意

見文」の文例が掲載されている。この文例には、説得力を増すために文章の中に主張・理由・根拠・ 反論が入っている。そして、初めと終わりの部分に主張が書かれている双括型となっている。児童 は、この文例を参考に、意見文を書いていく。

児童は、「意見文」を4年生のときに学習している。4年生では、文献調査を取り入れながら、主張を支える理由や具体例を引用して、考えを文章にまとめた。この経験を活かし、5年生では自分の主張に対して想定される反論を予想して、それに対する理由や根拠も盛り込み、「意見文」としてまとめていく。つまり、4年生で学んだ意見文の書き方を踏まえながら、5年生で新たな「意見文」の書き方を学んでいく。前述のように書くことの系統性を意識して、書くことの力を身につけていけると考える。

2. 本研究における「ワークシート」の基本的な考え方

光村図書の小学校国語 学習指導書には「小学校国語授業に役立つワークシート集」が付属されている。既存のワークシートのよい点は、授業の時間ごとに分けられていること、質問が簡単になっていて児童の思考を広げられるものになっていることである。内藤(2014)の研究では、ワークシートを活用することで、期待されることとして次の5つを挙げている。

- 情報を整理できる。
- ・考えを焦点化できる。
- ・学習の成果を一覧でき、確認できる。
- ・子どものつまずきに気づき、支援することができる。
- ・授業評価の材料を収集する機会となる。

ワークシートを活用することで、このような効果が期待されるが、今までワークシートを活用したと きには課題も挙げられた。それは、ワークシートに記入しても、文章につなげられないという大きな 課題である。

これらのことを踏まえ、自作のワークシートを作成した。

作成したときのポイントとして、書くことが明確になるところを作成、1枚で書く内容が全てわかるようにまとめた。児童は情報をたくさん集めてくるので、付箋紙を使い情報をまとめられるようにした。そして付箋紙を使い構成を考えるようにした。

また、ノートではなく、ワークシートを活用するのは、限られた時間の中で、効率的に活動ができるようになると考えたからである。また、ノートでは構成が1ページの中に収まらずに複数ページにわたってしまい見えにくくなってしまう恐れがあるからである。クラスの全員が同じフォーマットで学習することで、クラスの仲間で意見交流をしたときに見やすかったり、授業者が評価に活用しやすかったりすることも利点であると考える。

これらのことから「ワークシート」を手立てとすることで、自分の伝えたいことを明確にし、相手 に分かりやすく伝える意見文を書くことができるようになるのではないかと考えた。

Ⅳ 研究仮説

小学校国語科の書くこと領域において、書くために必要な情報を整理して考えを書くことを促すワークシートを活用することによって、自分の考えを形成し、記述ができる児童になるであろう

V 研究の方法と内容

1. 研究の方法

- (1) 児童実態把握
- (2) 7月の授業から見られたワークシートの有効性
- (3) 検証授業の実施
- ア 研究の対象 県内公立小学校 第5学年
- イ 単元名・教材名 読み手が納得する意見文を書こう 「あなたは、どう考える」(光村図書 五年 銀河)
- ウ 検証授業の期間及び時間数令和4年11月11日(金)~令和4年11月30日(水) 計7時間
- 工 検証方法
 - ・ワークシート・児童の書いた意見文(指導前・指導後)・事後アンケート

2. 研究の内容

(1) 児童実態把握

ア アンケートの実施

検証授業を行う5年生の実態を知るために、事前に意識調査を行った。(図1)児童に、「文章を書くことは、得意か苦手か」「文章の種類をどれだけ知っているか」を選択肢の中から選び回答してもらった。

そして、書きやすい文章と書くのが苦手な文章を記述式で回答してもらった。このアンケートから、児童の国語の書くことに対する意識を知ることができた。

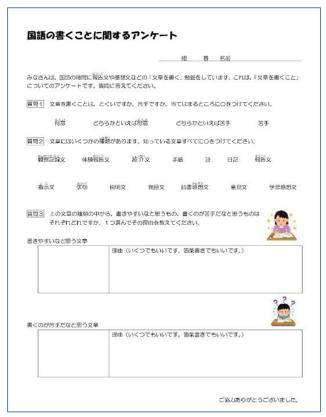


図1 事前アンケートの内容

アンケート結果(県内公立小学校 5年A組 24人6月10日実施,5年B組 21人6月9日実施)





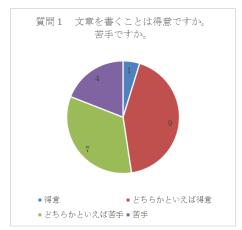


図3 5年 B組アンケート結果

「質問1 文章を書くことは得意ですか。苦手ですか。」の項目では,どちらのクラスも「得意」「どちらかといえば得意」を合わせた人数と「苦手」「どちらかといえば苦手」を合わせた人数が半分ずついた。(図2,3)「どちらかといえば得意」という児童が多いことに驚いた。私の予想は,書くことが苦手と感じる児童が7割~8割近くいるのではないかと考えていたからだ。予想とは違う結果になった。

「質問2 文章にはいくつかの種類があります。知っている文章すべてに○をつけてください。」の項目では、種類によって偏りはあるが、児童は多くの文章の種類を知っているということが分かった。 (表3) 「手紙」「日記」「詩」「俳句」「説明文」「読書感想文」という、経験をしたことがあるものは、知っていると回答した数が多い。

| 観察記録文 | 29 |
|-------|----|
| 体験報告文 | 16 |
| 紹介文 | 37 |
| 手紙 | 42 |
| 詩 | 40 |
| 日記 | 43 |
| 報告文 | 18 |
| 指示文 | 14 |
| 俳句 | 43 |
| 説明文 | 43 |
| 物語文 | 34 |
| 読書感想文 | 44 |
| 意見文 | 17 |
| 学習感想文 | 34 |

は、回答数が多かった文章

| 表 | 3 |
|---|----|
| 質 | 問 |
| 2 | 0) |
| 結 | 果 |
| 表 | 4 |
| 質 | 問 |
| 3 | 0) |
| 結 | 果 |

| | 書きやすい | 書くのが苦手 |
|-------|-------|--------|
| 観察記録文 | 2 | 1 |
| 体験報告文 | 0 | 0 |
| 紹介文 | 3 | 6 |
| 手紙 | 6 | 2 |
| 詩 | 0 | 3 |
| 日記 | 11 | 1 |
| 報告文 | 0 | 0 |
| 指示文 | 0 | 1 |
| 俳句 | 12 | 3 |
| 説明文 | 2 | 10 |
| 物語文 | 3 | 1 |
| 読書感想文 | 4 | 13 |
| 意見文 | 0 | 2 |
| 学習感想文 | 2 | 1 |

は,回答数が多かった文章

「質問3 上の文章(質問2)の種類の中から、書きやすいなと思うもの、書くのが苦手だなと思うものはそれぞれどれですか。1つ選んでその理由を教えてください。」の項目では、「書きやすい文章」として、「日記」「俳句」「手紙」が挙げられていた。(表4)「日記はその日の出来事を書けばいいから、一番書きやすいのは日記。」「五七五の短い言葉で自分の気持ちやいろいろなことを書けるから。」「何回か手紙を書いたことがあるから。」という理由が挙げられていた。

一方、「書くのが苦手な文章」では、「読書感想文」「説明文」「紹介文」が挙げられていた。(表 4) 理由を見ると、「(読書感想文は)考えにくいから。長いから。」「物の説明をするのが苦手だから。 どういうふうに説明をしていいのかが分からないから。」「(紹介文は)長い文だから。紹介をうまくできないから。」という理由が挙げられていた。

これらのことから、研究の対象の児童は、文章を書くことが得意と思う子が多い。特に、経験したことを文章にすることには得意と思っているようである。しかし、文の量や形式にこだわってしまって文章が書けないために苦手と思う児童がいる。このような実態から、ワークシートを活用して、目的を意識した書き方も指導していこうと考えた。

イ 授業の実施

7月に「みんなが過ごしやすい町へ」(光村図書 5年 銀河)の単元を学習した。この授業は、 意見文ではなく、調査報告文を書くものである。この授業で自作のワークシート作成し、それを活用 しながら、学習を進めていく。

単元名 みんなが過ごしやすい町になるための工夫を調べ隊!

~調べたことを正確に報告する文章を書こう~

第5学年 〔知識及び技能〕(1)カ

〔思考力,判断力,表現力等〕B書くこと(1)ア・イ・エ言語活動例 B(2)ア

1 単元の目標

- (1) 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。[思考力、判断力、表現力等] B(1)エ
- (2) 文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。 [知識及び技能](1)カ
- (3) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 B(1)ア
- (4) 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ
- (5) 言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

2 教材名

調べたことを正確に報告しよう みんなが過ごしやすい街へ (光村図書 5年 銀河)

| 3 | 指導と評価の計画 (B) 書くこと | | == /= 1 · \land += == /= 1 · \land += |
|-------|--|---|--|
| 時 | 学習活動 ①みんなが過ごしやすい町のエ | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
| 1 . 2 | まを親や友達に報告するという学習の見通しをもつ。 ②報告する文章の書き方についてイメージをもち、学習計画を立てる。 ③自分が調べようと思うことを決める。 ④調べ方の特徴を整理し、自分に合った調べ方を決める。 | ・児童の伝えたいという思いを引き出すために、自分が住んでいる家の近くいという思いを思いしている家の近くいとのなどを思いしたり、数師が紹介などしたり、教師欲を高め、学習のようにする。題材があるようにする。といるな事でとかられるようにかられるようにからないといるようになるといるようになるといるようにではいるというにでいる。というになるというになるというになるというになるというになるというになるというにないというにないというにないというにないというにないというにないというにないというにないというにないというにはいるなどのではいるではいるではいるではいるなどのではいるなどのではいる。というにはいるなどのではいるなどのではいるではいるではいるなどではいるなどではいるなどではいるなどのではないなどのではいるなどのではいるなどのではいるなどのではないないではないないというにないないというにないないというではないないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないではないないないない | [知識・技能①] 発言・観察 ・調査報告文の特徴に つて,作例を通して考 えている。 [思考・判断・表現①] ワークション ・目的や意図に応じて, 感じたことや考えた ことなどからま とを選んでいる。 |
| | | ・これまでに調べる字質をしたとさに使った方法やその注意点を整理する。 | [主体的に学習に取り 組む態度①] 発言・ワークシート ・調査報告文を書く学 習について,見通しを もって取り組もうと している。 |
| 3 | ⑤各自調査を進める。 | ・報告する文章を書くときに用いる可能 | [知識・技能②] |
| 9 | ⑥調べたことを分類,整理し, 伝えたいことの中心となる事 柄を決める。⑦ワークシートに貼った付箋紙 を基に,構成メモを作る。⑧構成メモを基にして,下書き | 性がある情報は付箋紙にまとめる。 ・情報の整理や報告文の方向性を決める。 ・前時整理した付箋紙を見ながら、中心的に伝えたいことを意識して構成を検討していく。 | ワークシート・発言 ・調査報告文の構成や 展開と捉え、その特徴 について理解してい る。 |
| | をまとめる。 ⑨観点に沿ってペアで下書きの 文章を読み合って意見を伝え 合い、下書きを修正する。 ⑩清書する。 | ・引用のしかた、図表の用い方、筋道の 通った文章になっているかに注意して まとめる。・自分の意図が伝わるにはどうしたらい いか相談する。・情報をもう少し集めたいときは、もう | [思考・判断・表現②] ワークシート ・集めた材料を分類し たり,関係づけたりし て,伝えたいことを明 確にしている。 |
| | | ー度調査をする。 ・報告する相手と自分が報告したい内容を改めて確かめることで、丁寧に書く意欲につなげる。 | [思考・判断・表現③] ワークシート ・筋道の通った文章と なるように,文章全体 の構成や展開を考え ている。 |
| | | | [思考・判断・表現④] ワークシート ・引用したり、図表やグ ラフ等を用いたりし て、自分の考えが伝わ るように書き表し方 を工夫している。 |
| | | | [思考・判断・表現⑤]発言・ワークシート・文章に対する感想や意見を伝え合ってい |

| 10 | ①感想を交流する。 ②単元の学習を振り返り、今後 への生かし方を考える。 | ・友達の文章のまねしたいところを記録 させておくと、今後の学習にいかすこ とができる。 | [主体的に学習に取り 組む態度②] 発言・ワークシート ・粘り強く、自分の考え が伝わるように書き 方を工夫し、調査報告 文を書こうとしてい る。 |
|----|--|---|--|
| | | | [主体的に学習に取り 組む態度③] 発言・ワークシート ・調査報告文を書くと きの,書き表し方の工 夫を振り返ろうとし ている。 |

本授業は、自分たちの住んでいる町が過ごしやすい町になるために、どのような工夫があるのかを 見付け、調べ、報告する文章を書く授業である。

4 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|--------------------|----------------|
| ①文章の構成や展開, 文章 | ①「書くこと」において,目的や意図に | ①粘り強く,自分の考えが伝わ |
| の種類とその特徴につ | 応じて感じたことや考えたことなど | るように書き表し方を工夫 |
| いて理解している。 | から書くことを選び, 集めた材料を分 | し、学習の見通しをもって、 |
| ((1)力) | 類したり関係づけたりして, 伝えたい | 報告する文章を書こうとし |
| | ことを明確にしている。(B(1)ア) | ている。 |
| | ②「書くこと」において,筋道の通った | |
| | 文章となるように, 文章全体の構成や | |
| | 展開を考えている。 (B(1)イ) | |
| | ③「書くこと」において、引用したり、 | |
| | 図表やグラフなどを用いたりして,自 | |
| | 分の考えが伝わるように書き表し方 | |
| | を工夫している。 (B(1)エ) | |

*本単元では、〔思考力・判断力・表現力等〕B(1) エを特に重点的に指導し評価する。



《自作ワークシート》

このワークシートは、表裏1枚で学習を進められるようにし、指導要領の学習過程(P3参照)の「題材の設定」から「構成の検討」までができるように作成した。表面(図4)は、何を書きたいのか明確にする部分、情報をたくさん集めて付箋紙に書いて貼る部分と考えたことを付箋紙に書いて貼る部分があるのが特徴である。

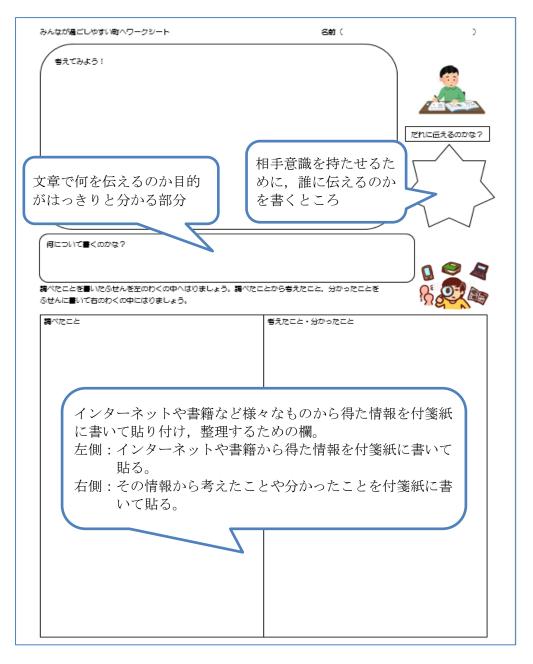


図4 ワークシート(表面)



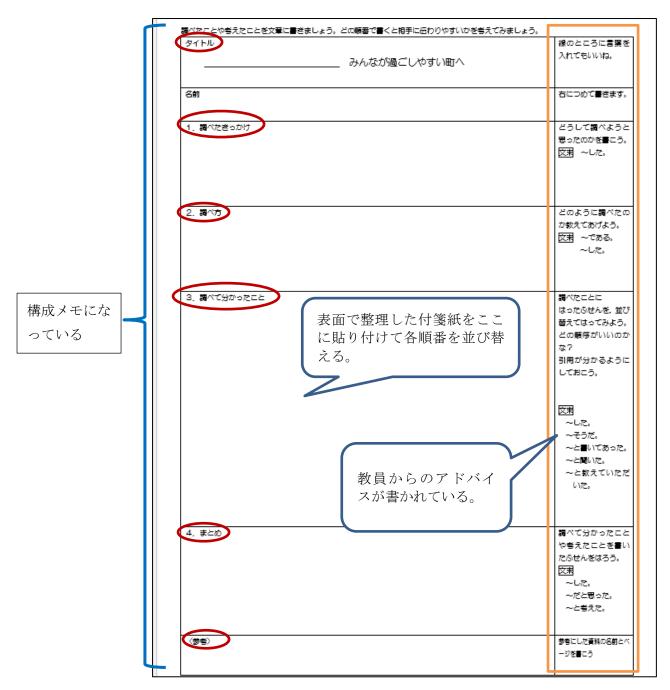


図5 ワークシート(裏面)

裏面(図5)は、全体が構成メモになっている。この構成メモに書き込んでいったり、付箋紙を貼り付けたりしていくことで、構成メモが完成し、調査報告文へとつながっていくようになっているのが特徴である。また、文章にするときにヒントとなることが、右の欄にまとめてある。これを参考にしながら文章を書き進めていくことができる。ヒントを入れることで、これまで授業者が児童一人一人に書き方などの対応をしていたことを、児童が右の欄を見て自分の力で文章が書けるようになる。



(2) 7月の授業から見られたワークシートの有効性

ア ワークシート・文章から

7月の授業で活用したワークシートについて、児童 A の様子を見ていく。

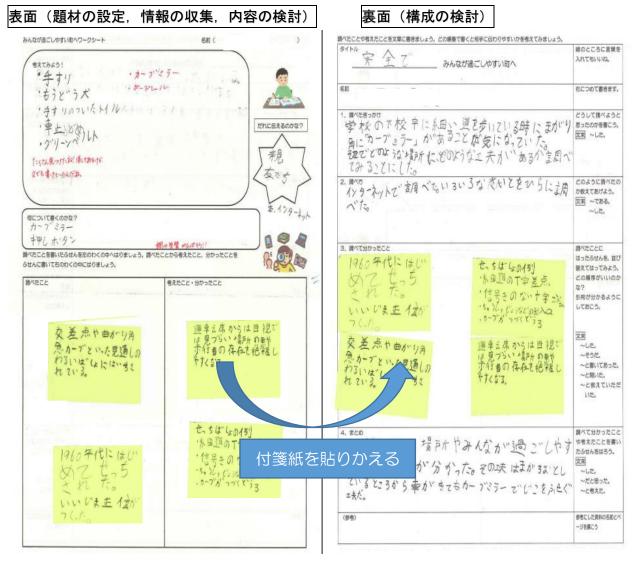


図6 児童 Aのワークシート (表面)

図7 児童 A のワークシート(裏面)

児童は、ワークシートの表面(図6)で集めた情報とそこから分かったことを付箋紙に書いてまとめた。その中から必要な付箋紙を裏の構成メモ(図7)へと移動させた。付箋紙を活用するのは、ノートなどに情報を書いてしまうと、構成メモを作成するときにもう一度情報を書かなくてはいけなくなり、児童にとって作業が煩雑になってしまうからである。付箋紙を使うことで、構成メモを作成するときに調べた情報を書き直さなくても付箋紙を移動するだけで簡単に構成メモを完成させることができる。また、情報を並べ替えるときも簡単に行うことができる利点がある。児童 A は集めた情報が書かれた付箋紙2枚とそこから分かったこと2枚、計4枚を裏の構成メモへと移動させていった。そして、付箋紙の順序も入れ替えをし、分かりやすい文章の調査報告文へとつなげていった。

構成メモから清書へ

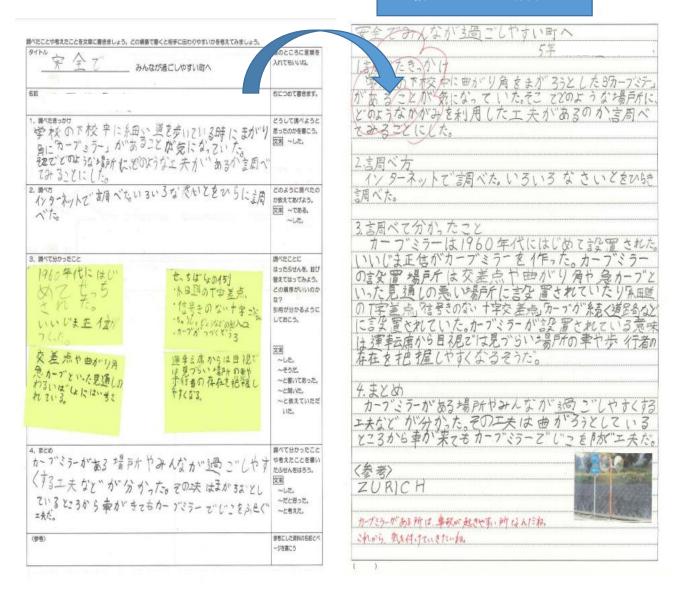


図8 児童 A の書いた構成メモ

図9 清書の作文用紙

図8を見ると、付箋紙を使って構成を考えたが、図9の清書の作文用紙では付箋紙に書いた言葉を そのまま文章に書き写してしまっている。この調査報告文で、児童 A は何を伝えたいのかが読み手に 伝えられていない。そして、ワークシートを活用しながら、調査報告文を書くという目的が余り達成 されていないことが分かる。

授業を行った5年児童の様子から、ワークシートのよかった点と改善すべき点を挙げた。

【ワークシートのよかった点】

- ・文章を書く目的(町の中にある過ごしやすい工夫を報告する)を明確にしながら文章を書くことができた。
- ・付箋紙を活用して調べたことを書いたので、たくさん情報を集めることができた。
- ・文章の構成を考えるときに、付箋紙を並び替えることで簡単に構成を考えることができた。
- ・ワークシート1枚の中に授業の展開があったので、児童が見通しをもって学習を進められた。

【ワークシートの改善すべき点】

- ・1枚のワークシートの中に、情報量が多すぎた。
- ・表面の「考えたこと・分かったこと」の欄と裏面の「調べて分かったこと」は、言葉が似ていたため 何をしていいのか分からず戸惑ってしまった児童がいた。
- ・ワークシートから文章を書くときに、裏面右端のヒントを見ても文章につなげることができなかった。

【児童のワークシートからみえてきたこと】

児童の書いたワークシートと調査報告文からワークシートの効用を見ていく。

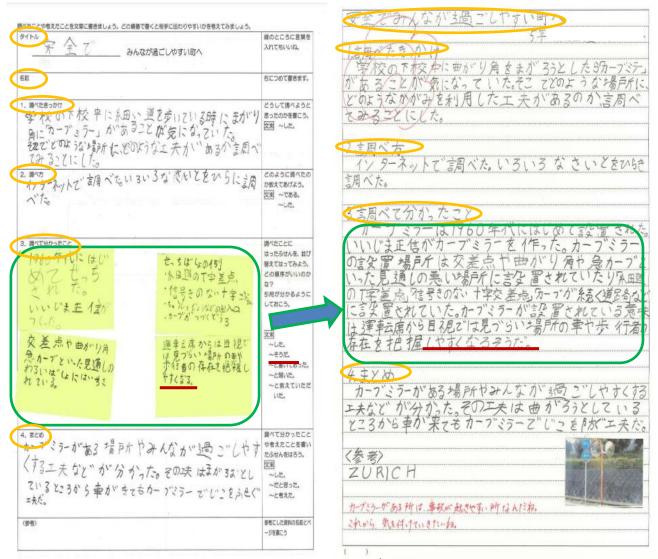


図 10 ワークシートの効用

のように、ワークシートには構成を意識させるために項目立てがしてある。前述のように、児童はどのように書けばよいかが分からないと文章が書けなくなる恐れがあるので、構成メモには調査報告文に書く項目を提示した。この構成メモと同じように清書でも項目を書くことで調査報告文を書くことができるようにしている。児童 A も構成が整った文章を書くことができている。

のように、集めてきた情報を付箋紙に書き、順序を考えて貼り替えている。それを清書では、 言葉を補いながら文章に書くことができている。また、_____のように付箋紙では、「しやすくなる。」 と文末を表現していたが、ヒントの「~そうだ」を見て清書には「しやすくなるそうだ。」と文末表現 を工夫している。このように、ワークシートを活用することで、児童 A は形式的には調査報告文を仕上げることができた。

しかし、5年児童の書いた調査報告文を読むと、町の中の工夫を伝えられていなかった児童が多かった。町の中の工夫されていることを報告しているのではなく、町の中で使われている物を報告している児童が多かったのだ。そして、児童は情報をたくさん集めることはできていたが、その集めたものが目的に合ったものではなかった。さらに、「先生、付箋はどの順番で貼ればいいですか」「先生、清書はどう書けばいいですか」と質問してくる児童が多かった。これは、構成を分かっていなかったといえる。また、調べたことと分かったことが同じ色の付箋紙だったので、どちらが調べたことか迷ってしまっている児童もいた。ワークシートを活用することで、目的に合った文章を書くことができると思っていたが、実際はそうではないことが多かった。

これらのことから、次の3つのことが分かった。1つ目は、ワークシートは1枚にまとめるより、一つ一つ段階を踏んで学習を進めていける方がよいこと。2つ目は、付箋紙の色分けがされていないため情報なのか分かったことなのかが混乱してしまった。付箋紙の色を工夫した方がよいこと。3つ目は、文章の型を児童が理解できるように示した方がよいこと。これら3つのことを考えたワークシートを作成することを目指した。

また、今回の授業から、文章を書くときには、目的を意識しながら書いていかなければならないということが分かった。また、情報を集める段階から、目的を意識し調べ学習をしたり、目的を意識できるような発問や声掛けをしたりしていかなければならないことが分かった。授業を行うときに授業者が意識していかなければいけないことも反省点である。

イ ワークシートの改善

ワークシートを作成してみて、何を書かせたいのか、何をさせたいのかをよく熟考することが大切だと感じた。枠だけ作成しても、児童は何をしていいのか分からなくなってしまう。ワークシートの内容には、それぞれ意味があり、それが児童に伝わるかどうかをよく考える必要がある。今回の授業を受けて、ワークシートを作成するときの改善点を4つ挙げたいと思う。

- ① 何を伝えたいのか、自分の考えを明確にする部分を作ること。
- ② 活動ごとに1枚ずつの内容を考え作成すること。
- ③ 付箋紙を色分けすることにより、事実や調べたことなどの違いを明確にすること。
- ④ 文章の組み立て方が分かるシートの形にすること。

以上のことを,11月に活用するワークシートを作成するときに改善していきたいと考えた。また,授業をする中で,教科書に掲載されている文例を生かせていないことに気づいた。検証授業で文例をより生かしていけるようにできないかと考えた。文例を生かすことも次のワークシートを作成するときの手立てとすることを考えた。

(3) 検証授業について

ア 検証授業の方法

① 単元が始まる前に題材を選び、朝の活動を使って意見文を書いてみる

検証授業を考えていく上で、意見文を授業前の朝の活動に1回目を書き、授業で意見文の書き方を学習してから2回目を書くということを考えた。理由として、子どもたちに自分の文章の改善点やよさに気付かせるためである。指導前に書いた意見文と教科書の文例を比較することで、自分の文章に足りない内容を自覚し、よりよい文章を書こうとすることができるからである。そして、指導前の1回目の意見文と指導後に書いた2回目の意見文と比較することで、自分の書いた意見文の変容を見取りやすくし、よさを自分で感じることができると考えた。

また、光村図書の教科書では、同じような文の種類を繰り返し学習していくようになっている。 (表2参照) 意見文についても4年生のときに学習をしている。5年生で学習するときに、児童が どれくらい前学年の学習内容を覚えて(定着して)いるかを見るためにも、指導前に文章を書かせ ることが有効だと考えた。このことから2回の意見文を書くことを検証授業の一つの手立てとする。

② 自作のワークシート

【朝の活動の作文用紙】

まずは、授業に入る約2週間前に、朝の活動で意見文を書くための作文用紙(図11)である。題材については、7月の授業で題材を児童に考えさせたとき、内容が多岐にわたり授業者が把握しにくかったということがあった。今回は、その反省を生かし児童の興味関心がありそうな題材を3つに絞り、児童に提示することとした。そして、児童に与える意見文を書くための情報も「4年生のときに意見文を学習したことがあること」、「どちらの立場かをはっきり示すこと」の2つだけに絞った。これは、4年生で学習している意見文の書き方をどれくらい覚えているかを見るために、あえて情報は多く与えないようにした。

《題材》

- ①学校の昼食は、給食がいいかお弁当がいいか。
- ②本やマンガを読むのは、電子書籍がいいか紙がいいか。
- ③スマホは小学生から持つ方がいいか、持たない方がいいか。

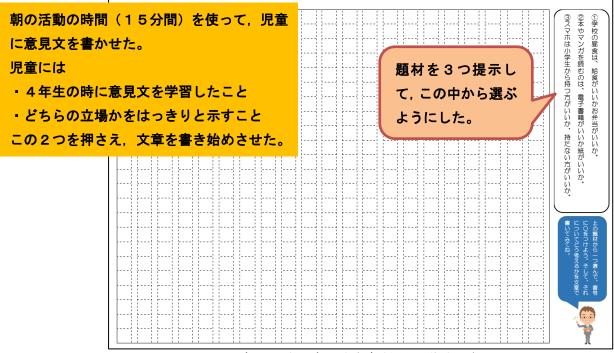


図 11 朝の活動で意見文を書くための作文用紙

【① 教科書の文例を比較できるシート】

1枚目は、「教科書の文例を比較できるシート」(図 12)を用いて、教科書に挙げられている 2 つの意見文の文例を比較しながら、主張・理由・根拠・反論の文章構成を考えさせた。教科書に載っている意見文の文例を上下に配置することで、比較しやすくした。また、それぞれの文の書き方が敬体か常体か、体験による根拠を用いているか見聞きしたことによる根拠を用いているかなど、文例を並べることで、それぞれの文章の工夫にも気付きやすくしている。そして、意見文を書くときに書き方のヒントとして活用する。

教科書の文例を上下に配置し、比較することで、意見文を書く時の工夫を気づきやすくした。



図 12 教科書の文例を比較できるシート



【② 教科書の文例と指導前に書いた自分の文章を比較し、その違いをまとめるシート】

2枚目は、教科書の文例と指導前に書いた自分の文章を比較し、その違いをまとめるシート(図13)になっている。指導前に書いた自分の文章と教科書の文例を比べながら、自分の文章に足りない内容は何かを考え、自ら気付き、児童は、文章で足りない内容を記述する。

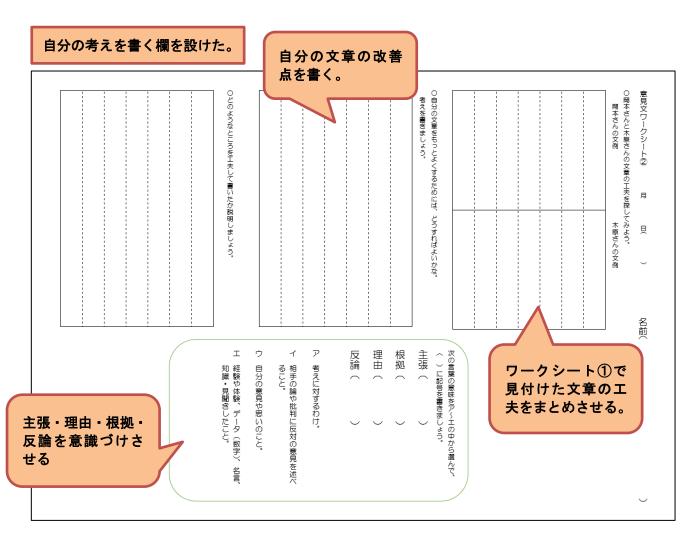
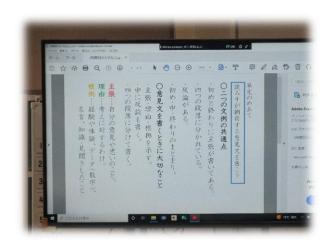


図 13 教科書の文例と指導前に書いた自分の文章を比較し、その違いをまとめるシート



【③ 意見文のテーマに対する主張を明確化し、理由、根拠を集めるシート】

3枚目は、意見文のテーマに対する主張を明確化し、理由、根拠を集めるシート(図 14)になっている。自分の主張は何かをもう一度書かせる欄を用意。そして、その主張に対して、どのような理由が言えるのか、また、その理由に対してどのような根拠があるのかを考えさせ、その考えを付箋紙に書き、貼り付ける欄を用意した。付箋紙は縦に貼るようにし、理由と根拠にはつながりがあるということを意識させるようにした。そして、理由と根拠を貼る欄を4つ用意することで、出てきた考えを比較・検討しやすくした。

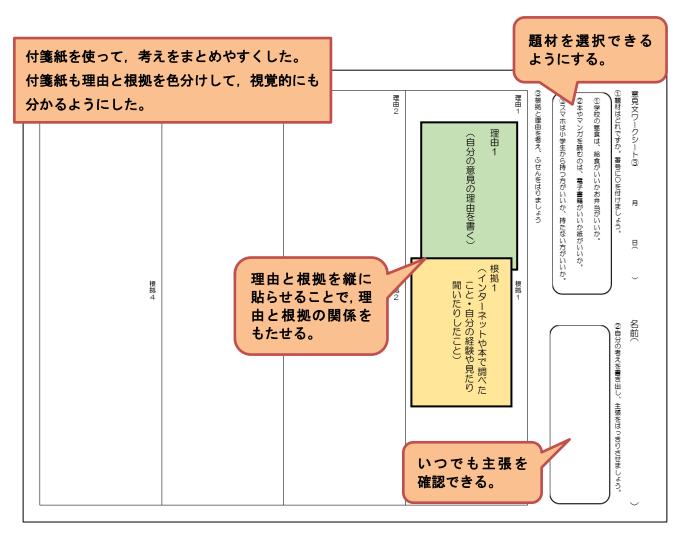


図 14 意見文のテーマに対する主張を明確化し、理由、根拠を集めるシート



【④ 自分の考えに対し、予想される反論をまとめるシート】

4枚目は、自分の考えに対し、予想される反論をまとめるシート(図 15)になっている。自分の考えに対して、どのような反論が出てきそうなのかを考え、その反論に対しての考え(理由や根拠)を書くようにする。反論を考えるのは難しいことが予想されるので、児童同士の交流を取り入れていく。反論を書く付箋紙の色は青色とする。色を変えることによって、構成メモを作るときに視覚的に分かりやすくする効果がある。

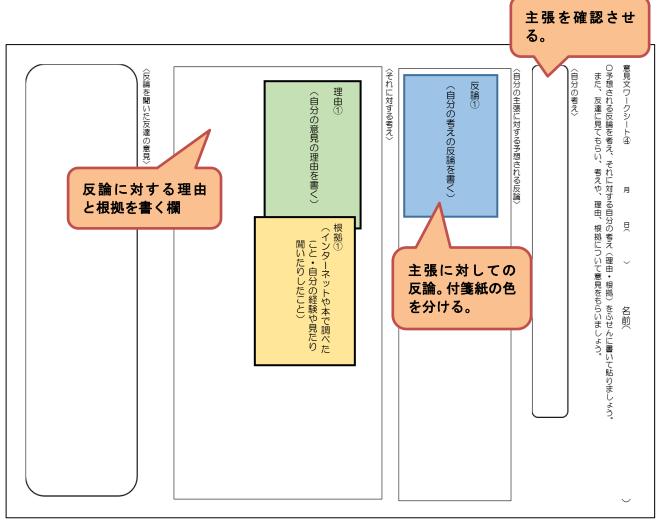


図 15 自分の考えに対し、予想される反論をまとめるシート



【⑤ 文章につながるために、構成を組み立てられるシート】

5枚目は、文章につながるために、構成を組み立てられるシート(図 16)になっている。③、④のシートで集めてきた内容について、このシートを用いて、文章全体の構成を意識しながら、情報の取捨選択ができるようにした。取捨選択する際には、どの情報を用いれば伝えたいことが伝わる文章になるかという点を意識しながら児童同士で交流し、構成を確かめるようにする。

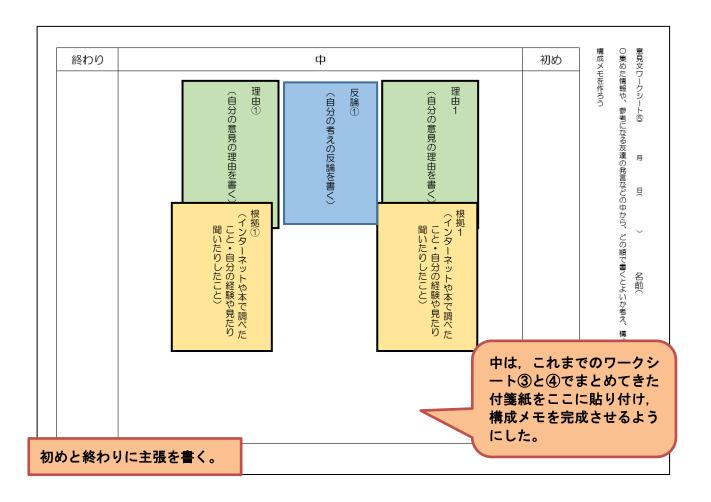


図 16 文章につながるために、構成を組み立てられるシート



【⑥ 友達と読み合い、お互いの文章のよさをまとめるシート】

6枚目は、友達と読み合い、お互いの文章のよさをまとめるシート(図17)になっている。これは、学習過程の「共有」にあたる部分である。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けられるようにしている。友達との交流を通して、自分の文章のよさを知ることができるように、そして、自分自身で自分の文章のよさを感じ、シートにまとめられるようになっている。

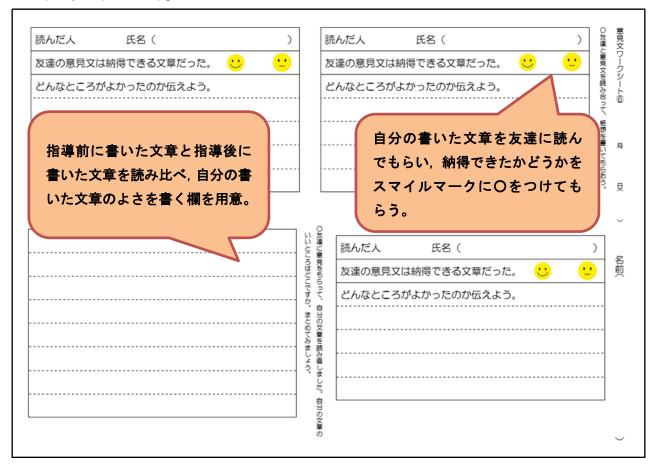


図 17 友達と読み合い、お互いの文章のよさをまとめるシート



【⑦ 毎時間の振り返りが記入できるシート】

7枚目は、毎時間の振り返りが記入できるシート(図 18)になっている。授業で学んだこと、気づいたことを記入できるようになっている。シートには、振り返りの視点を提示し、児童が学習を調整できるようにしている。

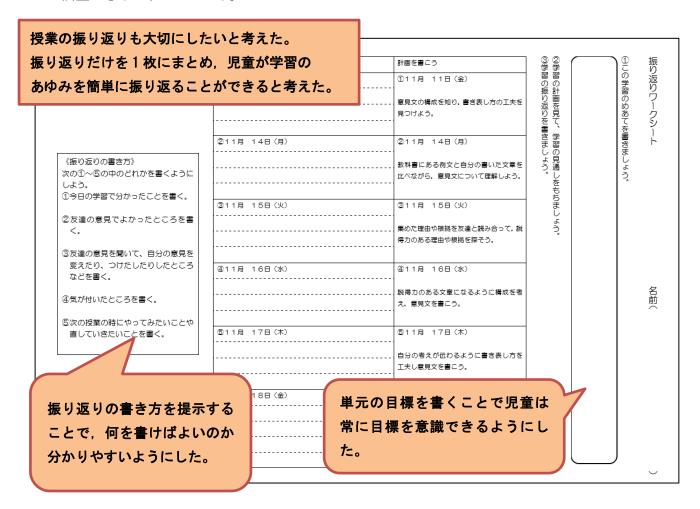


図 18 毎時間の振り返りが記入できるシート

これらのワークシートを作成し、授業の中で活用していく。そして、ワークシートの特徴として、付箋紙の活用がある。理由と根拠、反論の付箋紙を色分けし、視覚的に分かりやすくした。構成を考えるときに、付箋紙を移動させることで、児童は簡単に構成を考えることができるようにした。また、意見文を書くときの型を4年生のときにも触れたことがある「双括型」とする。児童には理解しやすい文章の型だと考える。そして、初めと終わりの部分には主張を書き、中の部分には理由と根拠、反論と反論に対する理由や根拠を書く。この「双括型」を取り入れることで、これまでの知識を活用しながら説得力のある意見文が書けるようになるのではないかと考えた。このワークシートを作成し、11月の検証授業へ臨んだ。

③ 検証授業の指導案(略案を作成し,実践)

第5学年 国語科学習指導案

単元名・めざす言語能力

「読み手が納得する意見文を書こう」 〜伝えたいことを明確にして,

自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く~

第5学年

[知識及び技能](1)カ[思考力,判断力,表現力等]B書くこと(1)ア・ウ・カ言語活動例 B(2)ア

1 単元の目標

- (1) 文の中での語句の係り方や語順,文と文との接続の関係,話や文章の構成や展開,話や文章の種類とその特徴について理解することができる。 [知識及び技能](1)カ
- (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] B(1)ア

(3) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

〔思考力,判断力,表現力等〕B(1)ウ

- (4) 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の 文章のよいところを見付けることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)カ
- (5) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

2 教材名

読み手が納得する意見文を書こう 「あなたは、どう考える」 (光村図書 5年 銀河)

3 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|--------------------|----------------|
| ①文の中での語句の係り | ①「書くこと」において,目的や意図に | ①粘り強く,自分の考えが伝わ |
| 方や語順, 文と文との接 | 応じて, 感じたことや考えたことなど | るように書き表し方を工夫 |
| 続の関係,話や文章の構 | から書くことを選び, 集めた材料を分 | し、学習の見通しをもって、 |
| 成や展開,話や文章の種 | 類したり関係付けたりして, 伝えたい | 意見文を書こうとしている。 |

類とその特徴について 理解している。

((1)カ)

ことを明確にしている。(B(1)ア)

- ②「書くこと」において、目的や意図に 応じて簡単に書いたり詳しく書いた りするとともに、事実と感想、意見と を区別して書いたりするなど、自分の 考えが伝わるように書き表し方を工 夫している。 (B(1)ウ)
- ③「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)カ)



4 指導と評価の計画 (B「書くこと」31時間中の6時間)

| 4 | 1日寺と計画が計画(D・青くこと)3 1 時間下の 0 時間) | | | |
|-------|---------------------------------|---|---|--|
| 次 | 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
| 第 1 次 | 1 | ○教科書 P175 の新聞の投書例を読み意見文について関心をもつ。○単元の見通しをもつ。○教科書 P175 と P178 の文例について、書き表し方の工夫を見付ける。 | ・新聞の投書例から、意見文について分かったことや考えたことを自由に出させ、児童が意見文について関心をもてるようにする。 ・単元の見通しをもてるようにする。 ・教科書の文例から、工夫を見付けるようにする。意見文を書くときに大切な主張、理由、根拠について、その意味や文例の中で書かれている箇所を確認しながら捉えさせる。 | [主体的に学習に取り 組む態度①] 記述・発言 文例と自分の書いたも の,文例と文例を比べ, 書き表し方の工夫を見 付けようとしている。 |

| | | | FFT 1 ()) 1 FF* () = 1, fm1) **have | 1 |
|-------------|--------|--|---|--|
| | 2 【本時】 | ○文例と自分の書いたものを 比べて、違いについて考え る。 | ・岡本さんと木原さんの文例を読み、 どちらの文章が納得できるか意見を 出させる。そのとき、児童にはどう してそう思ったのか理由も聞くよう | 「思考・判断・表現①〕 |
| | | ○教科書 P175 と P178 の文例 を読み、納得のできる書き 方はどちらの文か考える。 | にする。 | 記述 集めた材料を分類した り関係付けたりして, 伝 |
| | | ○予想される反論とそれに対する考えについて知る。○よりよい意見文にするには | ・以前書いた文章の中に、意見文を書くときに大切な主張、理由、根拠、 反論が書かれているか確認させ、文章をよりよくするためにはどうした らよいかを考えさせ、ノートに書か | えたいことを明確にしている。 |
| | | どのような観点が必要か知 る。 | せる。 | |
| 第 2 次 | 3 | ○よりよい文章にするために、内容を考える。・理由や根拠を考える。 | ・題材に対して、どのような理由や根拠が挙げられるか、考えたり調べたりする時間を設ける。 | [思考・判断・表現①] |
| | | ・根拠を調べ選択する。 ○選んだ理由と根拠を友達と | ・理由や根拠は、付箋紙に書かせる。 ・友達と伝え合うときの視点を伝え、 | 記述 集めた材料を分類した り関係付けたりして, 伝 |
| | | 伝え合う。 | 友達と交流する場を設ける。 | えたいことを明確にしている。 |
| | | ○予想される反論とそれに対する考えと理由をワークシートに書く。 | ・反論を想定し、それに対する考えを 付箋紙にまとめさせる。 | |
| | 4 | ○構成メモを作る。 | ・構成メモの作り方を確認し、構成メモを作らせる。 | |
| | | ○友達と構成メモを読み合い,説得力があるか,付け足した方がよいことがあるか伝え合う。 | ・友達と構成メモを読み合うときの視点を確認し、交流させる。 | [知識・技能①] |
| | | ○意見文を書く。 | ・構成メモを基に、言葉を足しながら 文章を書く。文末を整えることや接 続語を使うこと、書き出しの例や事 | 記述 意見文の構成や特徴を 理解している。 |
| | | | 例の述べ方の例など,実際に書くと きの手立てを提示する。 | [思考・判断・表現②] 記述 |
| | 5 | ○意見文を書く。・構成メモを基に下書きをする。・推敲をする。・清書をする。 | ・構成メモを基に、言葉を足しながら 文章を書く。文末を整えることや接 続語を使うこと、書き出しの例や事 例の述べ方の例など、実際に書くと きの手立てを提示する。 ・下書きをした文章を読み直し、誤字 | 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 |
| | | | 脱字がないか、文章が間違えていないかを確認させる。 | [主体的に学習に取り 組む態度②] |
| | | | ・下書きを基に、清書させる。 | 記述 粘り強く,自分の考えが 伝わるように書き表し 方を工夫し,意見文を書 こうとしている。 |
| | | | | |

第 3 次

- ○自分の意見文を読み,よさ を考える。
 - ・友達と読み合い,感想を伝え合う。
 - ・以前書いた文章と読み比べ,自分の文章のよさに気づく。
 - ○学習を振り返る。
- ・文章のよいところを中心に伝え合い,できるようになったことを児童自身が感じられるようにする。また,自分で書いた文章を読み比べ,よくなったところに気づかせるようにする。
- ・振り返りでは、身に付けた力を確認 するとともに、これからの学習で生 かしていきたいことを書くようにさ せる。

[思考・判断・表現③] 発言・記述 文章の説得力などの観 点で、感想を伝え合い、 自分の文章のよいとこ ろを見付けている。







5 各時間の指導案

【1 時間目】

- (1) 日時 令和4年11月11日(金) 1校時 (8:50~9:35)
- (2) 本時の目標 意見文について関心をもち、文例を読んで、書き表し方の工夫を見付けることができる。

(3)展開

| 専力 で、意見文について関心をもつ。 く提示することで、木原さんへの例文への意識を高めるようにする。 ター※ワークシート① 会と 単元の学習課題を設定する。 ☆ワークシート①(文例の提示)・ト① 会授業前に決めた題材で文章を書かせる。(学習後の文章と比べるため) ・次中のめあて 意見文を書こう。 展開 3 文例を読み、書き表し方の工夫を見付けよう。 ※ワークシート①(文例の提示)(図 19)・板書において2つの文例を視覚的に分かりやすく最示することで、児童が比較しやすいようにする。・ 「会見文を引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 「会別でよりまり、方でする。」(図 19)・板書において2つの文例を視覚的に分かりやすくする。 「会別でよりまります」であり、実際は、中小・②を引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 「会別でよりまり、カート②を記述・発言とめる。 [思考カ・規力の]記述・発言とめる。 「会見文を書くときの観点を事後にも使えるように、ワークシートを活用させる。 ☆ワークシート①(文章の構成)・ 今日の学習で学んだことを振り返らせる。 「次時は、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考え トー・②・ 「次時は、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考え | 過 | 学習内容 | 指導上の留意点(・) | 資料 (※) |
|---|----|-----------------------|-------------------------|------------|
| (基示することで、木原さんへの例文への意識を高めるようにする。 ター※ワークシート①(文例の提示) ター※ワークシート② (基示することで、木原さんへの例文への意識を高めるようにする。 マワークシート①(文例の提示) ート① (基業前に決めた題材で文章を書かせる。(学習後の文章と比べるため) 金人要習後の文章と比べるため) ※ワークシート② (事間のあるでである。) 本時のめあてできる。 ※ワークシート②(文例の提示)(図 19)・板書において2つの文例を視覚的に分かりやすく提示することで、児童が比較しやすいようにする。 ※ワークシート② (事本さんの投書例と木原さんの文例の共通点を見付ける。 由、根拠を視覚的に分かりやすくサインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 [思考力・規力の]記述・発言をある。 (事別文の書き表し方の工夫についてまとめる。 ・意見文を書くときの観点を事後にも使えるように、ワークシートを活用させる。 ※ワークシート②(文章の構成)・今日の学習で学んだことを振り返らせる。 ※ボタリクシート③(文章の構成)・次時は、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考え、ト (本) | 程 | 予想される児童の反応(○) | 研究に関するポイント (☆) | 評価 |
| 入 8 2 単元の学習課題を設定する。 ☆ワークシート①(文例の提示) ※ワークシート② 分 分 | | 1 新聞の投書例(教科書 P175)を読ん | ・岡本さんの投書例を児童に分かりやす | ※大型モニ |
| 8 2 単元の学習課題を設定する。 | 導 | で、意見文について関心をもつ。 | く提示することで、木原さんへの例文 | ター |
| 分 ☆授業前に決めた題材で文章を書かせる。(学習後の文章と比べるため) 単元のめあて 読み手が納得する意見文を書こう。 説のを読み、書き表し方の工夫を見付けよう。 (付ける。 30 本時のめあて意見文について知り、書き表し方の工夫を見付けよう。 満足文について知り、書き表し方の工夫を見付けよう。 ※ワークシート①(文例の提示)(図19)・板書において2つの文例を視覚的に分かりやすく提示することで、児童が比較しやすいようにする。・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 ②岡本さんの投書例と木原さんの文例の共通点を問う。 [思考カ・割断力・表別力①]記述・発言とめる。 4 意見文の書き表し方の工夫についてまとめる。 ・意見文を書くときの観点を事後にも使えるように、ワークシートを活用させる。 タワークシート①(文章の構成)・今日の学習で学んだことを振り返らせる。 かワークシート①(文章の構成)・今日の学習で学んだことを振り返らせる。 かけには、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考え | 入 | | への意識を高めるようにする。 | ※ワークシ |
| □ | 8 | 2 単元の学習課題を設定する。 | ☆ワークシート① (文例の提示) | - F(I) |
| 日本 | 分 | | | |
| 単元のめあて 読み手が納得する意見文を書こう。 展 3 文例を読み、書き表し方の工夫を見 付ける。 本時のめあて 意見文について知り、書き表し方の工夫を見付けよう。 | | | ☆授業前に決めた題材で文章を書かせ | |
| 読み手が納得する意見文を書こう。 展 3 文例を読み、書き表し方の工夫を見付ける。 本時のめあて 意見文について知り、書き表し方の工夫を見付けよう。 ※ワークシート① (文例の提示) (図 19) ・板書において2つの文例を視覚的に分かりやすく提示することで、児童が比較しやすいようにする。 ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 | | | る。(学習後の文章と比べるため) | |
| 読み手が納得する意見文を書こう。 展 3 文例を読み、書き表し方の工夫を見付ける。 本時のめあて 意見文について知り、書き表し方の工夫を見付けよう。 ※ワークシート① (文例の提示) (図 19) ・板書において2つの文例を視覚的に分かりやすく提示することで、児童が比較しやすいようにする。 ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 | | 単元のめあて | | |
| 展開 3 文例を読み、書き表し方の工夫を見付ける。 本時のめあて 意見文について知り、書き表し方の工夫を見付けよう。 ※ワークシート① (文例の提示) (図 19) ・板書において 2 つの文例を視覚的に分かりやすく提示することで、児童が比較しやすいようにする。 ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 ◎ (画本さんの投書例と木原さんの文例の共通点を問う) 4 意見文の書き表し方の工夫についてまとめる。 ☆ワークシートを活用させる。 ☆ワークシートで活用させる。 ☆ワークシートで活用させる。 ☆ワークシート① (文章の構成) ・ 本時を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。 ○学習感想を書き、今日の学習を振り返 る。 ・次時は、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考え ト | | | 意見文を書こう。 | |
| 付ける。 | | Pa-> 1 W Wild > @ | | |
| 本時のめあて 意見文について知り、書き表し方の工夫を見付けよう。 ※ワークシート① (文例の提示) (図 19) ・板書において2つの文例を視覚的に分 ※ワークシート② ※ワークシート② ※リークシート② ※リークシート ※リーのジー ※リーのシート ※リーの | 展 | | | |
| 分 意見文について知り、書き表し方の工夫を見付けよう。 ※ワークシート①(文例の提示)(図19) 一ト① ※ワークシート①(文例の提示)(図19) ・板書において2つの文例を視覚的に分かりを視覚的に分かりやすく提示することで、児童が比較しやすいようにする。 ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 [思考力・判断力・表現力①]記述・発言 4 意見文の書き表し方の工夫についてまとめる。 ・意見文を書くときの観点を事後にも使えるように、ワークシートを活用させる。 ※ワークシート① 本時を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。 ・今日の学習で学んだことを振り返らせる。 ※振り返りなる。 ・次時は、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考え。 ・次時は、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考え。 | 開 | 付ける。 | | |
| 岡本さんの投書例を読んで考える。 本原さんの文例を読んで考える。 本原さんの文例を読んで考える。 一ト① ※ワークシート①(文例の提示)(図19) ・板書において2つの文例を視覚的に分かりやすくサート② 一ト② ※ワークシート② 一ト② ※ワークシート② 一ト② ※ワークシート② ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 ⑥岡本さんの投書例と木原さんの文例の共通点を問う。 ・意見文を書くときの観点を事後にも使えるように、ワークシートを活用させる。 ※ワークシート② ※アークシート② ※アークシート② ※アークシート② ※アークシート② ※ボリンの書き表し方の工夫についてまるように、ワークシートの会話用させる。 ・今日の学習で学んだことを振り返らせる。 ・今日の学習で学んだことを振り返らせる。 ・次時は、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考える、 | 30 | 本時のめあて | | |
| 商本さんの投書例を読んで考える。 本原さんの文例を読んで考える。 本原さんの文例を読んで考える。 ・板書において2つの文例を視覚的に分かりやすく提示することで、児童が比較しやすいようにする。 ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 ・ 図画本さんの投書例と木原さんの文例の共通点を問う。 ・ 意見文を書くときの観点を事後にも使えるように、ワークシートを活用させる。 ※ワークシート① ※ワークシート② ・ 意見文を書くときの観点を事後にも使えるように、ワークシートを活用させる。 ・ 今日の学習で学んだことを振り返らせる。 ・ 今日の学習で学んだことを振り返らせる。 ・ 次時は、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考え | 分 | 意見文について知り、書き表 | そし方の工夫を見付けよう。 | ※ワークシ |
| ・板書において2つの文例を視覚的に分かりやすく提示することで、児童が比較しやすいようにする。 ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 ・②岡本さんの投書例と木原さんの文例の共通点を問う。 4 意見文の書き表し方の工夫についてまとめる。 ・意見文を書くときの観点を事後にも使えるように、ワークシートを活用させる。 ・プークシート①(文章の構成) ・今日の学習で学んだことを振り返らせる。 ・次時は、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考え | | 岡本さんの投書例を読んで考える。 | ☆ワークシート① (文例の提示) (図 19) | - F ① |
| 較しやすいようにする。 ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 ②岡本さんの投書例と木原さんの文例の共通点を問う。 4 意見文の書き表し方の工夫についてまとめる。 ※ワークシートを活用させる。 ※ワークシート・① ※ロークシート・② ※カー・② ※カー・② ※カー・② ※カー・② ※ボリ返りないまする。 ・冷日の学習で学んだことを振り返らせる。 ・次時は、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考え。 | | | | ※ワークシ |
| ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 ● はいると見付ける。 ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 ● はいるとしたの工夫についてまとめる。 ・意見文を書くときの観点を事後にも使えるように、ワークシートを活用させる。 ※ワークシート① ※フークシート① ※ボリ返り、次時の学習の見通しをもつ。 ・今日の学習で学んだことを振り返らせる。 ・次時は、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考えとのかを考え。 | | 木原さんの文例を読んで考える。 | | 一ト② |
| 画本さんの投書例と木原さんの文例の共通点を見付ける。 4 意見文の書き表し方の工夫についてまとめる。 ※ワークシートを活用させる。 ※ロークシートの(文章の構成) ※ボリ返り、次時の学習の見通しをもつ。 ※ボリ返り、次時の学習を振り返り、次時は、自分の文章をより説得力のある。 ※振り返りる。 ※ボリンシートので記で学んだことを振り返らせる。 ・次時は、自分の文章をより説得力のある。 ・次時は、自分の文章をより説得力のある。 ・次時は、自分の文章をより説得力のある。 | | | | |
| 通点を見付ける。 | | | | |
| 共通点を問う。 4 意見文の書き表し方の工夫について まとめる。 本時を振り返り,次時の学習の見通 しをもつ。 ○学習感想を書き,今日の学習を振り返 る。 ・次時は,自分の文章をより説得力のある。 ・次時は,自分の文章をより説得力のある。 ・次時は,自分の文章をより説得力のある。 ・次時は、自分の文章をより説得力のある。 | | 通点を見付ける。 | _ | 現力①] |
| まとめる。 | | | | 記述・発言 |
| まとめる。 | | | | |
| る。 | | | | ※ワークシ |
| 終 5 本時を振り返り、次時の学習の見通 しをもつ。 ○学習感想を書き、今日の学習を振り返 る。 ・次時は、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考え | | まとめる。 | | - F(I) |
| 末 しをもつ。 ○学習感想を書き、今日の学習を振り返 る。 ・次時は、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考え ト | | | | |
| * ○学習感想を書き、今日の学習を振り返 ・次時は、自分の文章をより説得力のある。 | | | | ※振り返り |
| る。 る文章にするにはどうするのかを考え ト | 末 | | | ワークシー |
| 7 ○今後の学習の見通しをもつ。 ていくことを確認する。 | | | る文章にするにはどうするのかを考え | |
| | 7 | ○今後の学習の見通しをもつ。 | ていくことを確認する。 | |
| 分 | 分 | | | |

使用したワークシート① (展開で使用)



教科書の文例を上下に配置する ことで、意見文の書き方の工夫を 見付けやすくしている。

図19 授業で使用したワークシート①

【ワークシートのポイント】

- ・2つの文例を提示し、文章の工夫を見付ける。
- 見付けた工夫をまとめる。

【授業の実際】

- ・教科書の文例が上下にあったので、児童は「主張が初めと終わりにある」「反論がある」と気づくことができていた。
- △教科書の文例の工夫は何だろう?と問いかけたが、なかなか答えが出てこなかった。自力解決の時間を取ろうと思っていたが、全体で確認していくことに変更した。段落→初め・中・終わり→主張 →根拠→理由→反論という順で確認をしていった。

【研究に関して ワークシートの有効性】

- ・教科書の文例を上下に並べて配置したことにより、児童は構成を理解できていた。
- ・主張・理由・根拠の書いてある文を色分けして意識させた。児童は、はじめと終わりの部分に主張 が書かれていることに気づいていた。
- ・教科書の文例を比べて読むことで、文例の中にある工夫(より具体的な根拠がある、文末の書き方、 段落が4つ)を見つけることができていた。
- ・教科書の文例を比べ、量の違いに着目した児童がいた。量の多い方が、説得力がありそうと言って いた。

【評価】

本時における評価規準は、「【思・判・表】教科書の文例を比べ、意見文の書き表し方の工夫を見付けている。」である。ワークシートに意見文の工夫が書き込んでいる児童は A とした。

A評価: 3人

B評価:41人

C評価: 3人

【次の授業に向けて】

・教科書の文例を読んで、意見文の書き方の工夫を見付けたが、探すのが難しい様子が見られた。主 張や理由、根拠を意識づけるためにも、問題を使って主張・理由・根拠の理解を深めていきたい。

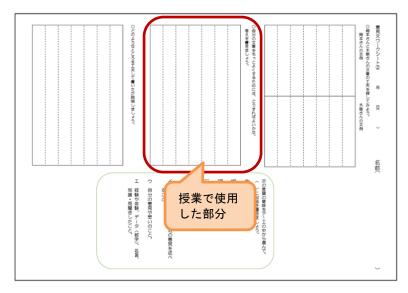
【2時間目】(本時)

- (1) 日時 令和4年11月14日(月) 5校時(13:55:~14:40)
- (2) 本時の目標 文例と最初に書いた文章を比べて、意見文の理解を深めることができる。

(3)展開

| 過 | 学習内容 | 指導上の留意点(・) | 資料 (※) |
|----|----------------------------|---------------------------------------|--------------|
| | , , , , , , , | | |
| 程 | 予想される児童の反応(○) | 研究に関するポイント(☆) | 評価 |
| 導 | 1 前時までの学習を振り返る。 | ・前時におさえた、主張、理由、根拠に | ※大型モニ |
| 入 | | ついて再度確認し、それ以外の部分 | ター① |
| 3 | | (反論とそれに対する考え) があるこ | |
| | | とに気づかせる。 | |
| 分 | 本時のめあて | | |
| | 教科書にある文例と自分の文章をよ | 北べながら、意見文について理解しよっ | ō. |
| | | | |
| 展 | 2 文例と自分が書いた文章を比べて, | ・文例に引いたものと同じように、自分 | ※自分が書 |
| 開 | 違いについて考える。 | の文章にサイドラインを引くことで、 | いた文章 |
| 35 | | 文例がより説得力のある文章であることに気づかせる。 | ※ワークシ |
| 分 | | CICXI DATE DO | - h(I) |
|), | 3 文例を読み、どちらの文例の方が納 | ・教科書 P178 と P175 の文例を読み比 | 1.(1) |
| | 得できる文章か考える。 | べ、児童にどちらの文章の書き方が納 | |
| | | 得できるかを聞くことで、木原さんの | |
| | | 文章の書き方のよさに気づかせる。 | |
| | 4 反論について考える。 | | |
| | | ☆2つの文章の違いに気づくように、ワ | ※ワークシ |
| | 5 よりよい意見文にするには,どのよ | ークシートを工夫する。 ◎よりよい意見文にするためには,どの | - h (1), (2) |
| | うな観点が必要か知る。 | ような観点が必要か問う。 | _ , _ |
| |) ongamin 22 3(11) in a 1 | 5. 7 5. 7 5. 7 5. 1. 1. 4 7 6 | ※拡大した |
| | | ☆ワークシートを使いながら,文章の構 | ワークシー |
| | 6 よりよい文章にするために、理由と | 成に気付かせ、より説得力のある文章 | ト③のヒン |
| | 根拠を選び,分類する。 | にするには何が必要となるのか考えを | <u> </u> |
| | | 深められるようにする。 | 「思考力・ |
| | | (ワークシート①) (ロ・カン・ト②) (図 20) | 判断力・表 |
| | | (ワークシート②)(図 20) ☆ホワイトボードにヒントを掲示し,調 | 現力①] |
| | | ベ学習の手立てを示すようにする。 | 記述・発言 |
| | | | |
| 終 | 7 本時を振り返り、次時への学習の見 | ・今日の学習で学んだことを振り返らせ | ※振り返り |
| 末 | 通しをもつ。 | ప ం | ワークシー |
| | ○学習感想を書き,今日の学習を振り返 | ・次時は,理由や根拠について考えていく | - - |
| _ | る。 | | 1, |
| 7 | ○今後の見通しをもつ。 | ことを確認する。 | |
| 分 | | | |
| | | | |

使用したワークシート② (展開で使用)



指導前に書いた意見文と教科書の文 例を読んで、自分の文章に足りない内 容を考えワークシート②にまとめ、や ることを明確にする。

図20 授業で使用したワークシート②

【ワークシートのポイント】

- ・ワークシート①を振り返り、ワークシート②に自分の考えを記入する。
- ・自分の文章と文例を比べることで、自分の文章で足りない内容が分かる。

【授業の実際】

・主張・理由・根拠・反論の理解を深めるために行った問題で、児童は理解を深めることができた。 △1時間目に学習した内容と似ていることがあったので、テンポよく授業を進めていけばよかった。

【研究に関して ワークシートの有効性】

- ・教科書の文例を比べたときに、子ども達から「反論が入っている方が納得できそう」という意見ができてきた。
- ・自分の意見に足りないところを考えるときに、すぐに「理由しかない」「根拠がないな」「反論がない」ということを気づくことができていた。
- ・自分の書いた意見文をもっとよくするためには、何が必要かというところでは、多くの児童は、「理由しかない」「根拠を書きたい」「反論をいれたい」ということを書いていた。中には、「初めと終わりに主張が書いていない」とか「4段落で書いていない」という構成に着目していた児童もいた。

【評価】

本時における評価規準は、「【思・判・表】文例と最初に書いた文章を比べ、よりよい意見文にするために何が必要となるか考え、自分の経験や体験を付箋紙に書いている。」である。ワークシートによりよい意見文にするための意見を書き込み、調べた情報を付箋紙に書いている児童を A とした。

A評価:0人

B評価:46人

C評価:1人

【次の授業に向けて】

・今回は、主張・理由・根拠を考えさせるところに行くまでに、授業者が話していることが多かった ため、もっと児童の活動を増やすべきであった。また、児童同士の交流も入れていくことで、児童 の思考が広がり、授業が単調にならないであろう。

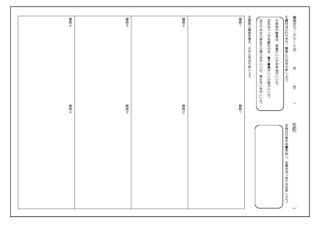
【3時間目】

- (1) 日時 令和4年11月15日(火) 2校時(9:40~10:25)
- (2) 本時の目標 集めた理由や根拠を友達と読み合って、説得力のある理由や根拠を選ぶことができる。

(3) 展開

| 過 | 学習内容 | 指導上の留意点(・) | 資料 (※) |
|----------|---|--|--|
| 程 | 予想される児童の反応(○) | 研究に関するポイント(☆) | 評価 |
| 導 入 | 1 前時までの学習を振り返る。 | ・単元のめあてを確認しながら、今日の 学習活動の目的を確認させる。 | ※大型モニター |
| 5 | 本時のめあて集めた理由や根拠を友達と読み合っ | って, 説得力のある理由や根拠を選ぼう | 0 |
| 展開①20分 | 2 文章に取り上げる理由と根拠を選ぶ。○理由をもっと考えてみよう。○どの理由がいいかな。友達が分かりやすいのがいいかな。○根拠は、どちらがいいかな。具体的なデータの方がよかったな。 | ・前時のワークシートを見て、よい意見 文にするための考えを振り返り、理由 や根拠を集めさせる。 ・集めた理由や根拠は、付箋紙に書かせ る。 理由…緑色の付箋 根拠…黄色の付箋 | ※ワークシート③※付箋紙※拡大したワークシー |
| | | ☆ワークシートに付箋紙を貼りつけ、整理しやすくする。 | F3 |
| 展開② 15 分 | 3 友達と読み合って助言し合い,他の立場から自分の主張を見直す。4 よりよい意見文にするために,反論とそれに対する考えを書く。 | ◎どのような助言をすればよいか考えさせる。 ・友達と交流するときのポイントを確認し、できるだけ多くの友達と交流させる。 ・より説得力のある文章にするために、反論とそれに対する考えを書くことを助言する。 ☆ワークシート④のヒントを掲示することで、反論を考えやすくする。 | ※大型モニター※ワークシート③(図 21)※ワークシート④上馬斯力・表現力・表現力・表現力・表現力・表現力・ |
| 終 末 7 分 | 5 本時を振り返り、次時への学習の見通しをもつ。○学習感想を書き、今日の学習を振り返る。○今後の見通しをもつ。 | ・今日の学習で学んだことを振り返らせる。 ・次時は、反論を仕上げて、構成メモを 作成し、文章を書き始めることを確認 する。 | ※振り返り ワークシー ト |

使用したワークシート③ (展開②で使用)



主張に対する理由と根拠を見付けて付箋紙を貼り付けるときに使用したワークシート。ワークシートでは、主張に対する理由を考えさせ、その後理由に対する根拠を考えさせ、付箋紙を貼り付ける。

図21 授業で使用したワークシート③

【ワークシートのポイント】

- ・付箋紙に書き込み並び替える。
- ・主張・理由・根拠をはっきりさせる。

【授業の実際】

- ・根拠はどのように書いたらいいのかを全体で考えた。根拠にあたるのが「具体的なこと」なので、 何か体験や経験があるかを聞いた。その後に、同じ題材の人が集まって意見交換をした。そのため、 根拠が書きやすくなった児童もいた。
- ・意見交換をしたときに、よく話していた児童は、考えが深まっていた。
- ・児童同士の交流がとてもよかった。書くことに苦手意識をもっている児童も、友達に自分の考えを 伝えられていた。題材がその児童にとって考えやすかったのではないかと考える。課題が自分事に なっていると、自分の伝えたいこともはっきりとするということが分かった。
- △反論まで書かせたかったが、授業がテンポよく進められなかったので、反論についての説明をした ところで終わってしまった。

【研究に関して ワークシートの有効性】

- ・付箋紙を色分けしていたので、理由と根拠を反対に書いていた児童に対して「この意見は逆だよ」 とアドバイスしていた。
- ・付箋紙を活用したので、理由や根拠を複数挙げることができていた児童が多かった。間違えたとき には、付箋紙を書き直していた。
- ・付箋紙を書いて、それを交流させた。給食がよいかお弁当がよいかのグループは、それぞれの付箋 紙を読み、「この意見分かる。」とか「でも、給食のよいところは…」と意見を交わしていた。
- ・根拠が1枚しか書けていない児童が、友達との交流を通して、付箋紙を2枚に増やすことができた。

[郵価]

本時における評価規準は、「【思・判・表】集めた理由や根拠を友達と読み合い、説得力のある理由や根拠を選んでいる。」である。友達と交流し意見をやり取りし、理由や根拠を選んでいる児童は A とした。

A評価: 4人 B評価: 43人 C評価: 1人

【次の授業に向けて】

・反論については説明できたので、次の時間は反論を考える時間になる。苦戦することが予想される ので、教科書の文例を参考にしたり友達との交流を入れたりしていきたい。

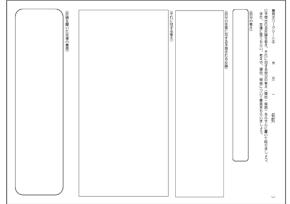
【4時間目】

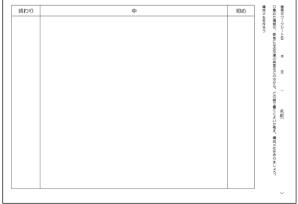
- (1) 日時 令和4年11月16日(水) 2校時 (9:40~10:25)
- (2) 本時の目標 説得力のある文章になるように、文章全体の構成を考え、意見文を書くことができる。

(3) 展開

| 過 | 学習内容 | 指導上の留意点(・) | 資料 (※) |
|-------------|--|---|--|
| 程 | 予想される児童の反応(○) | 研究に関するポイント (☆) | 評価 |
| 導 | 1 前時までの学習を振り返る。 | ・単元のめあてを確認しながら、今日の 学習活動の目的を確認させる。 | ※大型モニター |
| 入 3 分 | 本時のめあて 説得力のある文章になるように | 工構成を考え,意見文を書こう。 | |
| 展開35分 | 2 よりよい意見文にするために,反論 とそれに対する考えを書く。 | ・反論を想定し、それに対する自分の考えをまとめさせ、付箋紙にかかせる。 反論…青色の付箋 理由…緑色の付箋 根拠…黄色の付箋 ・必要に応じて、再度調べ直したり、取材したりするようにする。 | ※拡大したワークシート④※ワークシート④(図 22) |
| | 3 自分で構成メモを作る。 | ◎どうすれば説得力のある文章になるか構成を考えさせる。 ・どうしてその順に並べたのかを考えさせる。また、全員が文例のような順に並べられたときには、反論を初めのすぐ後ろに並べさせ、説得力がある文章になるかを考えさせる。 | [思考力・表 判別力・表 現力①]説がワークシート③④※ワークシート⑤(図 23) |
| | 4 自分の伝えたいことが伝わるように 工夫しながら構成メモから文章にす る。 | ・完成させた構成メモを見ながら、自分の伝えたいことが伝わるように工夫しながら文章を書くようにする。☆1・2時間目にまとめた観点を確認する。 | [知識・技能①] 記述 |
| 終 末 7 分 | 5 本時を振り返り、次時への学習の見 通しをもつ。 | ・今日の学習について、振り返りワークシートにまとめさせる。・次時は、意見文を完成させることを確認する。 | ※振り返り ワークシー ト |

使用したワークシート④ (展開で使用)





使用したワークシート⑤ (展開で使用)

図22 授業で使用したワークシート④

図23 授業で使用したワークシート⑤

自分の意見に対する反論を考えるときに活用したワークシートである。(図 22) 反論に対する理由や 根拠を考えるときにはたくさん付箋紙が貼り付けられるように、広い枠を設けた。また、児童同士の交 流を行い、反論を考えるようにする。そして、文章につなげるために構成を組み立てるのがワークシー ト⑤である。(図 23) ワークシート③④で集めた付箋紙を中の部分に貼り付ける。文章全体の構成を考 えながら、情報を取捨選択できるようにしている。

【ワークシートのポイント】

- ・反論と反論に対する理由や根拠をまとめる。
- ・付箋紙を使いながら文章全体の構成を考える。

【授業の実際】

- ・反論を書かせた後、構成メモを作らせた。ほとんどの児童が、今まで学習してきたとおりの「理由、 根拠、反論、理由、根拠」という順で構成メモを作ることができていた。
- △「初め」を一斉に書くことができた。しかし、「終わり」を一斉に書くときに、どのように書いたら よいのか分からないと困っている児童がいた。(「○○という点から」という部分)

【研究に関して ワークシートの有効性】

- ・ワークシートのヒントを黒板に貼った。それを見ながら付箋を書いている児童が数名いた。
- ・どの児童もこれまでの時間に学習してきた意見文の書き方で,双括型を意識することができていた。
- ・反論に対する自分の考えを考えるときに、ワークシート③に戻り理由と根拠を読み返している児童 がいた。
- ・構成メモのワークシートについては、それを見ながら下書きを書くので、ワークシートの②~④の ようにホッチキスで止めていなかった。ある児童は、付箋紙を張り替えるときにシートをめくらな くてよいので、「楽だな」とつぶやいていた。

【評価】

本時における評価規準は、「【思・判・表】説得力のある文章になるように、構成を考え、意見文を 書いている。」である。説得力のある構成メモを完成させ、そのメモを基に意見文を書いている児童 はAとした。

A評価: 5人

B評価:36人

C評価:6人

【次の授業に向けて】

・付箋紙を書き構成メモも作ることができた。次の時間は下書きをするので、言葉を足しながら文章 を書くことをもう一度押さえていきたい。

【5・6時間目】

(2) 本時の目標 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し意見文を書くことができる。

(3) 展開

| (3 |)展開 | | |
|--------|--|---|---|
| 過 | 学習内容 | 指導上の留意点(・) | 資料 (※) |
| 程 | 予想される児童の反応(○) | 研究に関するポイント(☆) | 評価 |
| 導入 3 分 | 1 前時までの学習を振り返る。○意見文を書くための構成メモを作った。○どのように並べれば自分の伝えたいことが伝わるか考えた。 | 単元のめあてを確認しながら、今日の 学習活動の目的を確認する。前時に出来上がった構成メモを基に、 意見文を書いていくことを確認させ る。 | |
| | めあて 自分の考えが伝わるように書き | 表し方を工夫し意見文を書こう。 | |
| 展開35分 | 2 自分の伝えたいことが伝わるように 工夫しながら構成メモから文章にす る。○事実と意見を分ける。 | ◎教科書の文例を見直し、文章のポイントを探す。・教科書の文例を見させ、どのように書けばよいのかを確認するようにする。 | [思考力・ 判断力・表 現力②] 記述 |
|), | ○文末をそろえるようにする。○段落は4段落で書く。○引用するときには,「」を使う。○接続語を使う。 | ☆ワークシート①を使い、意見文を書く ときに必要なことを思い出させる。 | ※大型モニター※ワークシート①⑤ |
| | ○段落の始まりは1マス空ける。 | | (図 24, 25) ※作文用紙 |
| | 3 下書きを推敲する。○字が間違えていないかな。○もう少し分かりやすい言葉にしようかな。○考えと事実は分けられているかな。○自分の伝えたいことが伝わるようになっているかな。 | ・「構成メモから文章にするときに気を 付けること」の観点や誤字脱字がない かなどをチェックさせる。 | ※作文用紙 |
| | 4 清書をする。 | ・見直しが済んだら,きれいに清書させ て,意見文を完成させる。 | [主体的に 取り組む態 度②] 記述 |
| 終末7分 | 5 本時を振り返り、次時への学習の見通しをもつ。○主張、理由、根拠、反論を入れて書くことができた。○根拠に経験を入れて書けた。○文末をそろえて書くことができた。 | ・記述の際に気をつけたこと,うまく書けたと思うところなどを,振り返りワークシートにまとめさせる。・次時は,意見文を友達と読み合うことを確認する。 | ※振り返り ワークシー ト |

使用したワークシート① (展開で使用)



使用したワークシート⑤ (展開で使用)

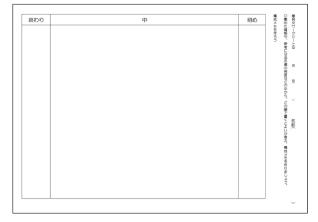


図24 授業で使用したワークシート①

図 25 授業で使用したワークシート⑤

ワークシート⑤の構成メモを見て文章につなげる。(図 25) ワークシート①(図 24) の教科書の文例をヒントとして見ながら文章を書くようにする。

【ワークシートのポイント】

構成メモから文章にする。

【授業の実際】

- ・なかなか書き進めることができず、5時間目だけでは終われなかった。しかし、児童は5時間目までに書き終わらなければいけないという意識はしていた。
- ・6時間目も、下書きから清書を行った。だんだんと書き終えてきた児童がいたので、ミニ先生として分からない児童へ教えるというスタイルをとった。分からない児童にとっては、よかった。
- △付箋から文章へということを教科書に戻って確認するべきだった。この時間で書き終わらなければ という思いが強く出てしまい、確認せずに授業を進めてしまった。
- △推敲をするときに大切なことを押さえたが、誤字脱字、文章のつながりの間違いが多かった。

【研究に関して ワークシートの有効性】

- ・理由や根拠,反論について丁寧に学習を進めてきたので,構成メモから文章を書くことに抵抗を持たずに文章が書けた児童が多かった。
- ・書くのが苦手な児童が、作文を書き終えることができた。ワークシートを活用することで、やることが明確になったり、主張・理由・根拠・反論を用いて自分の伝えたいことが明確になったりしたからである。
- △付箋から文章にするときに、戸惑ってしまっている児童がいた。言葉を付け足して読み手が分かる ように書くということが理解できていなかった。

【評価】

本時における評価規準は、「【思・判・表】自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫している。」 である。読み手を納得させるように、付箋紙に書かれた短文に言葉を足しながら原稿用紙に書いて いる児童は A とした。

A評価: 9人 B評価: 36人 C評価: 1人

【次の授業に向けて】

・友達との共有だけではなく、自分の書いた文章を読み比べることで、自分の書いた文章のよさについて気づけるようにする。

【7時間目】

- (1) 日時 令和4年11月30日(水) 2校時 (9:40~10:25)
- (2) 本時の目標 友達と意見文を読み合って、自分の書いた意見文のよさを知ることができる。

(3) 展開

| 過 | 学習内容 | 指導上の留意点(・) | 資料 (※) |
|----|--------------------|---------------------------------------|---------------------|
| 程 | 予想される児童の反応 (○) | 研究に関するポイント (☆) | 評価 |
| | 1 前時までの学習を振り返る。 | ・前時に仕上がった意見文を、友達と読 | |
| 導 | | み合ったり、自分で読んだりすること | |
| 入 | | で、文章のよさに気付くことを確認させる。 | |
| 3 | めあて | | |
| 分 | 友達と意見文を読み合って, | 自分の文章のトさを知るら | |
| | 久足と思われた。 にあって、 | | |
| 展 | 2 ペアで意見文を読み合い,感想を伝 | ◎文章のよさとは何か気づかせる。 | ※作文用紙 |
| 開 | え合う。 | 見加は、気は知上ととさばに大法とは | |
| 35 | | ・最初は、何も視点を与えずに交流させる。視点をもって読むことの大切さを | |
| 分 | 全体で交流したことを出し、どのような | 実感できるようにする。 | |
| | 視点がよいか考える。 | | |
| | | ☆意見文を書くときに大切なことを確認 する。 | |
| | もう一度、ペアで意見文を読み合い、感 | ・「納得できる書き方だと思ったとこ | ※ワークシ |
| | 想を伝え合う。 | ろ」など,よいところを中心に伝え合 | - ▶ 6 |
| | | うようにする。内容と書き方の両面から感想を伝え合えるようにする。 | (図 26) |
| | 3 授業前に書いた文章と今回書いた文 | り思想を伝え合えるようにする。 | (2 20) |
| | 章を読み比べて、自分の文章が変わっ | ・授業前に書いた文章と今回書いた文章 | [思考力・ |
| | たところを見付ける。 | を読み比べるようにし、自分の文章の | 判断力・表 |
| | | 変わったところに気づくようにする。 | 現力③] ワークシー |
| | | ☆授業前に書いた文章と今回書いた文章 | ト・作文用 |
| | | を比べることで、自分の成長を感じら | [[紙 |
| | 4 光一の光辺を持いにて | れるようにする。 | |
| 終 | 4 単元の学習を振り返る。 | ・P179「たいせつ・いかそう」を参照して、本単元で身に付いた力を確かめさ | ※振り返り |
| 末 | | せる。 | ワークシー |
| | | ・P179「ふりかえろう」を参照し、本単 | |
| 7 | | 元の活動全体を振り返る。考えと事実の区別のしかたや納得するための工夫 | |
| 分 | | についてまとめさせる。 | |
| | | | |

使用したワークシート⑥ (展開で使用)



友達に自分の書いた意見文を読んでもらい、その文章のよさを書いてもらうワークシートである。友達にコメントを書いてもらうことで、自分の文章のよさを自覚できる。そして、友達のコメントや指導前と指導後の意見文を読んで、自分の文章のよさをまとめられるように枠を配置している。

図26 授業で使用したワークシート⑥

【ワークシートのポイント】

- ・クラスの仲間からの意見を記入してもらい、自分の文章のよさに気づく。
- ・自分の書いた意見文を読み比べて、よくなったところを記入し、自分の文章のよさに気づく。

【授業の実際】

- ・授業の最初にこれまでの復習を少し入れ、単元のめあて、相手意識は誰かということを確認した。 児童は、よく覚えており、主張、理由、根拠についても覚えているようだった。
- ・意見文の判断基準を納得できるかどうかにした。多くの児童が納得できる文章だと言っていた。中 には、分かりにくいところがあるとそこを指摘している児童もいた。
- ・友達との共有は、とても有効だったようだ。友達に褒めてもらえたことがうれしかったと言っていた。
- △・友達同士で共有をしたときは、最初より交流が盛り上がっていた。しかし、文章をじっくりと読んでいるというより、ざっと読んでいるような感じがあった。

【研究に関して ワークシートの有効性】

- ・授業の中で、主張・理由・根拠・反論と繰り返し学習してきたので、それらを入れながら意見文を 書き終えることができた。
- ・クラスの仲間へ向けて書く意見文だったので、誰が読んでも分かる言葉を使っていたり、根拠を選ぶときも友達が分かりやすいものを選んだりしていた。
- ・自分の文章を読み比べるときは、多くの児童が「文章が短いな」と言っていた。足りないところも 実感できているようだった。
- ・自分の文章のよさを書けている児童が多かった。
- ・クラスの仲間に文章を読んでもらい、その感想をワークシートに書いてもらうのがうれしい様子だった。3人に書いてもらえるようにしたが、時間的にもちょうどよい人数だった。

【評価】

本時における評価規準は、「【思・判・表】自分の書いた文章のよさをワークシートに記入している。」である。ワークシートに自分の文章のよさを具体的に書き込んでいる児童は A とした。

A評価: 8人 B評価: 33人 C評価: 2人

【次の授業に向けて】

・児童の共有をしている様子を見ていると、自分の書いた文章がよくなっていることに気付いている 児童が多かった。「前の文と比べると、主張・理由・根拠が入っていて、説得力のある意見文になっ た。」と、自分の文章がよりよくなったことを実感している児童もいた。また、「みんなから『主張・ 理由・根拠』が分かりやすく詳しく書けていたと言ってもらえてうれしかった」というクラスの仲 間からの言葉から、自分の文章のよさを感じている児童もいた。これまで文章を書く授業は、書い て終わってしまったり、友達と読みあうだけで終わってしまったりしていた。自分の文章のどこが よいのか、どこが成長できたのかを実感できるようにすることも、大事なことであり大切にしてい きたいと感じた。



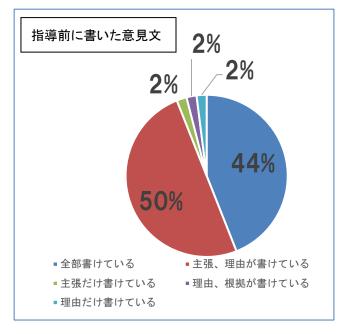
VI 研究の結果と考察

小学校国語科「書くこと」領域において、自分の伝えたいことを明確にし、相手に伝わりやすい意見文を書くことができる児童の育成のため、理由・根拠・反論の考えを自由に出させ、それを取捨選択できるワークシートを活用した指導方法を用いた授業が有効であるか検証した。検証方法は、「児童の書いた意見文」「ワークシート」「児童の振り返り」「アンケート」とし、対象は研究協力校第5学年の児童50人である。

1 「児童の書いた意見文」について

ここでは、自分の伝えたいことを明確にし、相手に伝わりやすい意見文を書くことができたか、また児童が書いた事前・事後の意見文を比較しながら検証していく。

(1) 主張・理由・根拠について



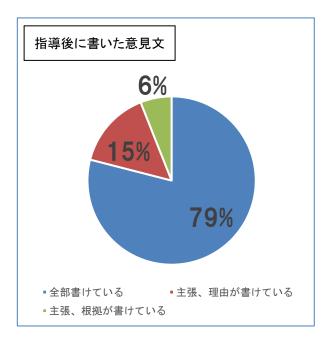


図 27 指導前に書いた意見文

図 28 指導後に書いた意見文

図27の指導前に書いた意見文からは、「主張・理由・根拠」すべてが書けている児童は44%いた。50%の児童は、根拠が書けていないことが分かる。児童の書いた意見文を読むと、「私は、○○だと思います。理由は・・・だから。」という、意見と理由を述べる文章を書いている児童が多く見られた。

図 28 の指導後に書いた意見文からは、79%の児童が「主張・理由・根拠」すべて入れて書くことができた。指導前に書いた意見文と比べると、35%も増加した。これは、授業の中で「主張・理由・根拠」を意識して取り上げ、ワークシートを活用することで、それらの考えを出させる活動を取り入れ、意識づけができたからだと分かる。

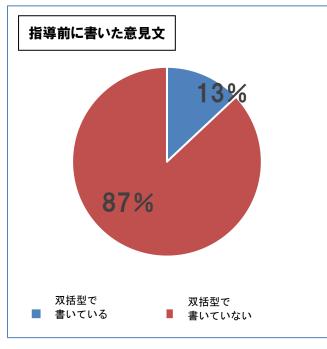
また、児童の感想からも、「読み手が納得する意見文を書くときは、主張・理由・根拠・反論が大切である。」「意見文には、主張・理由・根拠・反論を入れ、四段落で書くといい。」など、「主張・理由・根拠」という言葉が多くみられる。このことからも、児童は、説得力のある意見文を書くために、「主張・理由・根拠」を入れて書くことがよいということを理解していることが分かる。そして、「主張・理由・根拠」を入れて書くことで、自分の伝えたいことも明確にできることを理解しているといえる。

【考察】

これらのことから、説得力のある意見文の要素として「主張・理由・根拠」を用いたことは、児童の伝えたいことを明確にする手立てとして有効であったといえる。ワークシート①の教科書の文例で「主張・理由・根拠」について色分けを行って理解を深めた。また、ワークシート②では指導前に書いた意見文の中で足りない内容は何かを考えさせワークシートに記入させることで、「主張・理由・根拠」について意識することができた。ワークシート③、④では付箋紙の色を変えてそれぞれの考えを区別することで、児童は視覚的にも「主張・理由・根拠」を意識しながら意見を考えることができた。そして、児童はワークシートを活用したことで、自分の伝えたいことを明確にし、相手に伝わり

やすい意見文を書くことができたといえる。つまり、ワークシートを活用し、順を追ってスモールス テップを踏み、書く内容を整理したことで、より主体的に書くことができるようになったといえる。

(2) 双括型について



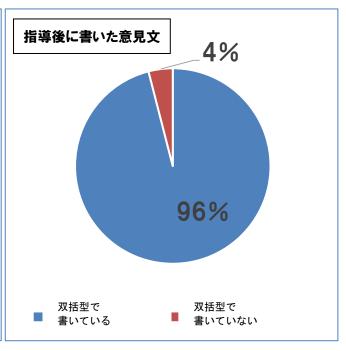


図 29 指導前に書いた意見文

図30 指導後に書いた意見文

前述したように、4年生で、初め、中、終わりの段落構成から、初めと終わりに自分の伝えたいことを書くことで考えを明確にすることは、学習してきている。これは、「読むこと」領域でも学習してきているので、児童にはとてもなじみの深い書き方ともいえる。しかし、指導前に書いた文章(図29)からは、双括型で意見文を書いる児童は、13%しかいなかった。多くの児童が型を意識せずに、主張と理由しか書いていなかったのである。

この単元を通して、「双括型」について繰り返し触れてきた。それによって、4時間目の構成メモを組み立てるときには、初めと終わりに主張を書くということを理解していた。中の部分に関しても、理由と根拠を述べた後、反論を書くということが、付箋紙を移動させ、並ばせたときに順序どおりに貼り付けることができていたため理解したと思われる。授業者が理由・根拠と反論を入れ替えて、「この構成は説得力があるかな。」と児童に問いかけてみると、児童は「それでは説得力がない。」「主張の後に、すぐ反論が来てしまうと、分かりにくい。」と発言をしていた。このことからも、双括型の組み立て方を理解しているということが分かった。そして、児童は説得力のある文章を書くためには、双括型で書くのがよいことが分かった。そのため、図30の結果からも意見文を双括型で書いている児童が96%になっていることが分かる。指導前と比べると、83%も増えている。

【考察】

ワークシートは、意見文の型を意識するように作成した。1時間目の教科書の文例を読み比べて工夫を探すときにも、主張はどこにあるのかに気づかせて、教科書の文例のどちらも初めと終わりに主張が書かれているということを理解できるようにした。そして、中には、主張に対する理由と根拠、反論と反論に対する自分の考え(理由と根拠)を書くということにも注目させ、文の構成を意識づけた。このように、授業の中の活動やワークシートで構成に着目させまとめていくことで、児童が「双

括型」を理解できていったのではないかと考える。構成メモを作るとき、児童は双括型の組み立て方を理解し、付箋紙を貼ることができていたことが、児童が自分の考えを明確に伝えるための方法として「双括型」を取り入れることのよさを分かっていたといえる。ワークシートを活用して双括型の意見文を学習する指導方法は、児童が双括型を理解するのに効果的だったといえる。

しかし、意見文は必ず双括型で書かなくてはいけないわけではない。双括型も一つの表現方法である。児童には、双括型だけではなく、様々な表現方法があることを知らせていくことも必要だと考える。今回は、型を意識して指導をしていったが、型が書けることが重要なのではなく、どのような内容を落とさずに書いていくと、自分の伝えたいことを明確にした意見文を書くことができるのかに気づかせることが重要になってくる。このような指導を心がけていくことが必要である。

また、授業者が前年度にどのような内容を学習しているのかを考えて児童を見ていくことも大切である。そのことで、児童に合わせた授業を進めていくことができるのである。そして、ワークシートを作成する上で、前年度までに何を学び、身に着けているかを理解しておくことも必要である。児童の学びが途切れないようにするためにも、授業者の系統性の理解が大切である。





2 実際の児童の「ワークシート」について

ここでは、児童Bの使用したワークシートと意見文とのつながりを見ていく。

児童 B は学習評価が A の児童である。児童 B は,題材を「スマホは小学生から持つ方がいいか,持たない方がいいか」について選択し,スマホは「持たない方がいい」という立場で意見文を書くことを決めた。

【ワークシート②】

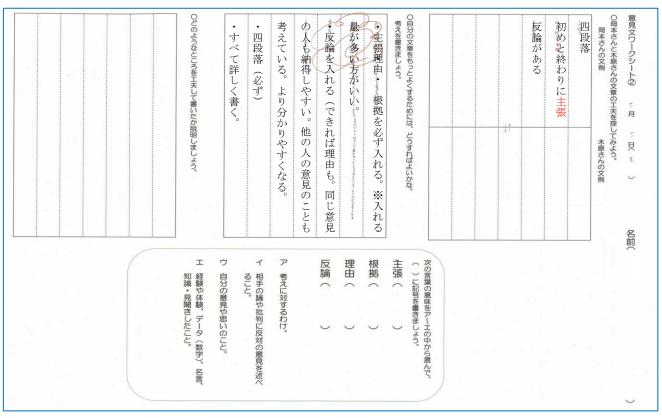
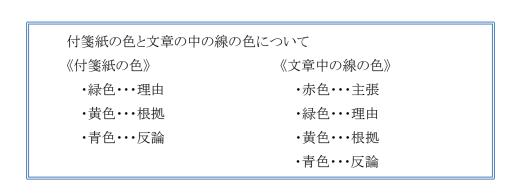


図 33 児童 B ワークシート②

※児童の字がとても小さいため、読みやすくするために打ち直している。

児童は、教科書の文例と指導前に書いた意見文を比べてみて、意見文をもっとよくするためにはどのようにすればいいかを考えた。「主張・理由・根拠を入れる」こと、「反論を入れる。同じ意見の人にも納得してもらえるように。」「4段落で書く。」と、考えたことを記述していた。ワークシート②を学習したときは、学習内容が多く、ワークシートをすべて埋めることができなかった。



【ワークシート③】

児童は、ワークシート②を受けて、理由と根拠を集めた。児童は、スマホは持たない方がいいという主張に関する理由と根拠として、スマホの所持が危険につながるという理由を挙げた。その根拠として、「スマホの課金問題」と「事件に巻き込まれた事例」を挙げた。児童 B は、理由を「スマホを持つことが危険につながる」とし、根拠を「スマホの課金問題」を選択した。

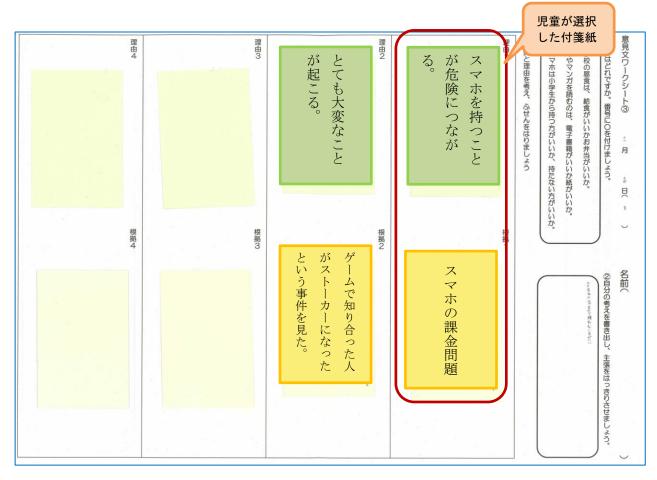


図 34 児童 B ワークシート③

※児童の字がとても小さいため、読みやすくするために打ち直している。



【ワークシート④】

児童は、反論を考えるワークシート④(図 35)では、反論を 3 つ考えた。「本人が気を付けていれば大丈夫ではないか。」「緊急のときに父や母をスマホで呼ぶことができる。」「ひまなときスマホで遊べる。」ということを挙げ、その中から、「本人が気を付けていれば大丈夫ではないか。」を選択した。反論に対する自分の考えとして、「スマホを持っているだけで危険な目に遭う可能性がある。」「バッグなどにばんそうこうなどを入れておくといい。」「夜にスマホで遊んでしまい早起きができなくなるから持たない方がいい。」という 3 つを挙げ、その中から「スマホを持っているだけで危険な目に遭う可能性がある。」を選択していた。

児童が選択 した付箋紙 〇予想される反論を考え、それに対する自分の考え(理由・根拠)をふせんに書いて貼りましょう。 意見文ワークシート④ 危険な目に遭う可能性があ 「反論を聞いた友達の意見) スマホを持っているだけで 自分の主張に対する予想される反論〉 自分の考え〉 また、友達に見てもらい、考えや、理由、 ば大丈夫ではないか。 月 うなどを入れておくとい 0 バッグなどにばんそうこ 根拠について意見をもらいましょう。 ホで呼ぶことができる。 名前 特たない方がいい。早起きができなくなるから夜にスマホで遊んでしまい ひまなときスマホで遊 る。

図 35 児童 B ワークシート④



【ワークシート⑤】

児童 A は、⑤のシート(図 36)で、実際の文章につなげるために付箋紙を使いながら構成を考えていた。初めと終わりの部分は、クラス全員で一斉に書いた。終わりの部分は特に難しく、何を書いていいのか分からない児童が出てきていたが、児童 A は、「小学生がスマホを持つと危険なことをしてしまう」ということを伝えたいと考えていたので、スムーズに書くことができた。

| 終わり | Ф | | | 初め成立 |
|------------------------|---|--------------------|----------|-----------------------------|
| う点から、小学生からスわたしは、小学生がスマ | | か。本人が気を付けていか。 | 危険につながる。 | 初いかについて、持たない方がわたしは、スマホは小学生か |
| マホは持たない方がホを持つと危険なこ | | う可能性がある。 スマホを持っている | スマホの課金問題 | いいと考える。 |
| いいと考える。とをしてしまうとい | | 内容を見た本の | | か、持たない方がい |

図 36 児童 B ワークシート⑤



【朝の活動で書いた意見文】

朝の活動で書いた意見文(図37)では、主張と理由しか書かれていない。主張は、「小学生からスマホは持たない方がいい。」という文だ。理由として「宿題に集中できなくなり、終わらせられなくて学校で宿題を出す人が少なくなったり、夜にスマホをいじってしまって早ね・早起きできなくてね不足になってしまい学校の勉強に集中できなくなる人が出てくるんじゃないかと思う。」と挙げていた。スマホを持つことで、宿題より遊びを優先してしまうこと、夜更かしをしてしまって早寝早起きの生活リズムが崩れてしまい、授業に集中できないことを考えた。スマホを持つことの弊害を訴えている。

| | | | | | | から | 起 | 出 | ķΞ | | 40 | い | 9 | す | 中 | ₩. | ス | 理 | |
|-----|-------|---|-----|--------|------|------|-----|----------|-------|----------|----------|---------------------------------------|----|------------|-----|---------|----|----------|------------|
| | | | } | | | 出 | ŧ | | 集 | ŧ | な | 学 | 7 | 人 | が | 話 | マ | 由 | ス |
| | | | | | | 来 | か | | 中 | 4b | V | 校 | 早 | カs | Ш. | を | ホ | は | マ |
| | | | | - | | | 出 | ط | カs | | <i>p</i> | 0 | ね | 少 | 来 | l | ゲ | | ホ |
| | | | ļ ļ | - - | | 1 4 | 来 | が | 出 | 100 | ے ا | 勉 | | な | な | - | | z | は |
| | | | ļ | 4 | | ' | ļ ļ | | | ļ | | | | | ļ | | | | |
| | | | | | | ļ | 7 | 出 | 来 | 7 | 思 | 強 | 早 | \ | \ \ | l | 4 | ₹ | 小 |
| | | | | | | | ね | 来 | る | マ | <i>V</i> | (C | 起 | な | な | ま | を | ホ | 学 |
| | | | | | | | 不 | T | J | ホ | ま | 集 | ŧ | 7 | Ŋ | 5 | t | を | 生 |
| | | | | | | | 足 | , | う | خ | l | 申 | が | た | 終 | た | te | 小 | か |
| | | - | i i | | | | ic | 夜 | i⊂ | 持 | た | で | 出 | Ŋ | わ | Ŋ | ŋ | 学 | Ď |
| | | | | 1 :- | | | な | | な | 7 | | * * * * * * * * * * * * * * * * * * * | 来 | | B | l | | 生生 | 持 |
| { | | | | 11- | | | , | Ċ | 'n | 7 | | な | な | 夜 | 世 | 7 | 友 | か | た |
| | | | | - - | | | な | | 終 | V | | | | ic | n | 遊 | 達 | , | な |
| | | | ļ | - - | | | | | | | | ļ | ļ | \ <u>-</u> | ļ | | | | |
| | | ļ | | 11. | | | V | † | わ | な | | な | 7 | ス | な | λ | ٤ | 持 | ν, |
| | | | | Ш | | L | で | b | ß | け | | ð | ね | マ | < | で | × | 2 | 方 |
| | | | | | | | 学 | ٤ | 난 | れ | | 人 | 不 | ホ | て | l | | ٤ | が |
| 1 | | - | | | | | 校 | ね | て | ば | | から | 足 | を | 学 | ま | ル | 宿 | Ŋ |
| | } | - | } | 1 }- | | | 0 | n l | 学 | 宿 | | 出 | 15 | لا | 校 | つ | | 題 | ₩. |
| | | | } | | | | 勉 | 7 | 校 | 題 | | 7 | な | ا اتا | で | 7 | | <u>を</u> | ح |
| { | | | | - - | | | 強 | 早 | で | * | | 来 | | | 宿 | 宿 | 7 | + | 思 |
| | | | | - - | | | | | | ļ | | | | | ļ | | | | |
| | | ļ | ļ ļ | .] . | | | (C | | 宿 | † | | る | T | τ | 題 | 題 | ホ | 5 | <i>V</i>) |
| | | | ļ ļ | | | | 集 | | 題 | 8 | | \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ | l | l | を | ζC | で | 前 | ま |
| - 1 | | | | | | | 中 | 早 | を | 0 | | じ | ま | ま | 出 | 集 | か | に | す |

③スマホは小学生から持つ方がいいか、持たない方がいいか。②本やマンガを読むのは、電子書籍がいいか紙がいいか。

書いてみてね。 書いてみてね。 書いてみてね。



図 37 児童 B 朝の活動で書いた意見文



【指導後に書いた意見文】

ワークシートを活用し、考えをまとめてきた。それを文章にしたのが図 38 の作文である。児童は、双括型の構成ができており、初めと終わりの部分には、スマホを「持たない方がいい」という主張をしている。中の部分では、根拠を「スマホの課金問題」とし、付箋紙に書いていた文より詳しく分かりやすく書いていることが分かる。反論に対しての自分の根拠では、付箋紙にはなかった「図書室の本で見つけたスマホのアプリで出会った人に誘拐されそうになった」という根拠を挙げている。これにより、より説得力が増したといえる。

| | | | | | , , | | | | | | | | | | , | | | , , | - | | | |
|-----|----------------|---|----------------|--------|--------------|----|------------|-----|----|------|-----|----------|-------------|---------|-------|----------|---|----------|---|-------------|-------------|--|
| か | | で | ٤ | 見 | = | ま | ま | 待 | 7 | 図 | | IC | l | ŧ | 高 | が | 中 | | Ž | 持 | | |
| ò | 多 | l | , | ₺ | ٤ | す | ħ | ち | ホ | 書 | 気 | 合 | た | 大 | が | ŀΞ | で | 2 | ŧ | た | わ | |
| 小 | < | £ | 安 | 理 | 办字 | 0 | | 合 | の | 室 | を | 7 | 0 | 変 | < | t | 小 | の | Ť | な | † ∈ | |
| 学 | の | 3 | 心 | 解 | あ | 大 | ゆ | わ | ア | la | 5 | τ | だ | な | ě | < | 学 | 前 | ۰ | 65 | l | 安 |
| 生 | 小 | か | | で | ŋ | 人 | う | せ | プ | 最 | け | l | ħ | 目 | ゎ | τ | 生 | | | 方 | は | 心 |
| か | 学 | | 安 | ŧ | ŧ | で | か | ŧ | ŋ | 近 | ħ | ま | が | ιc | た | た | 0 | 学 | | カギ | - | |
| ĥ | 生 | | 全 | ŧ | す | ₺ | <i>۱</i> ، | l | で | 入 | ば | う | `` | 合 | خ | < | 男 | 校 | | V | ス | 安 |
| л | の | | ع | す | 0 | 7 | ÷ | 7 | 知 | | 大 | の | ۲۷ | つ | な | * | の | で | | V | 7 | 全 |
| 7 | 安 | | W | か | 7 | マ | れ | ア | Ŋ | た | t | カ | 7 | τ | ψ, | ん | 子 | 総 | | か | ホ | l la |
| ホ | 心 | | 3 | | マ | ホ | そ | プ | 合 | 本 | 1 | 分 | ス | L | ځ | か | が | 合 | | la. | は | 生 |
| は | | | | 便 | ホ | で | ر خ | 1) | | lc l | j | カュ | 7 | ま | γ, | 金 | ス | 番 | | 2 | 小 | 活 |
| 100 | 安 | | ح ا | 利 | ě | * | 10 | 7 | た | は | 135 | 'n | ホ | 2 | け | ě | 7 | 組 | | 10 | 学 | ************************************** |
| | | | | | | } | | | | 497 | | | | | | | | įį | | | | |
| 持 | 全 | | 0 | ځ | 持 | け | な | 知 | 人 | | か | ま | 0 | た | な | L | ホ | を | | 7 | 生 | す |
| た | な | | 方 | 安 | 2 | 7 | っ | ŋ | 논 | - | € | せ | 2 | 논 | < | て | ゲ | 見 | | 持 | 加 | る |
| な | 生 | | か | 心 | た | な | て | 合 | 会 | 小 | l | ん | の | テ | な | l | T | ŧ | | た | ĥ | た |
| 6.7 | 活 | | 大 | | 方 | 目 | l | 70 | 2 | 学 | ħ | ۰ | J | レ | 5 | ま | A | l | | な | 持 | 85 |
| 方 | を | | 切 | 安 | カギ | (C | ま | た | τ | 生 | な | | 3 | ピ | τ | V) | の | た | | 6. | つ | la. |
| か | 守 | | な | 全 | <i>ل</i> ايا | 合 | っ | 人 | み | の | V) | | <i>ts</i> : | で | l | ``` | 中 | | | 方 | 方 | - |
| よ | る | | の | を | 47 | 7 | た | ic. | る | 女 | | | ŧ | 言 | ŧ | け | の | そ | | か | かゞ | |
| ν· | ځ | | で | ě | ځ | τ | 0 | 手 | た | の | t | | け | 7 | 6. | 2 | ァ | 0 | | <u>ل</u> ان | ادیا | |
| で | ٠.٠ | | は | 比比 | b | ī | ځ | ŧ | め | 子 | か | | 7 | 7 | | 2 | 7 | 番 | | V | | |
| -j | <u>ئے ۔۔۔۔</u> | | な | ~ | | ま | あ | 7 | 10 | が | 1 | | な | <u></u> | ځ | j | | 組: | | ځ | <i>7</i>)2 | |
| | 点 | | γ ₁ | る る | 意 | 3 | Ŋ | か | - | | | | 目 | ま | τ | な | <u>ــــــــــــــــــــــــــــــــــــ</u> | <u>の</u> | | 考 | | |

図38 児童B 指導後に書いた意見文

【考察】

これらのことから、自分の伝えたいことを明確にし、相手に分かりやすく伝える意見文を書くために、単元を通してワークシートを活用しながら学習を進める指導をすることの有効性が分かった。また、ワークシートだけではなく、意見文を指導前に書かせ、その意見文を指導後に取り上げること、授業者が活動の目的を児童に持たせること、理由や根拠、反論について意識づけをしたり、児童同士の交流の場面を設定したりして学習を進めていく方法も、意見文を書くことの学びを深めていくのに有効だといえる。ワークシートを活用した指導方法を取り入れることで、順を追って一つ一つ段階を踏んで、書く内容を整理したことで、より主体的に書くことができるようになったといえる。書くことに苦手意識を持っている児童も、双括型の意見文を書くことができたため、効果的だったといえる。

3 児童のアンケートから

検証授業後に、国語の書くことアンケートを行った。(図 39)児童に「意見文の書き方が分かったか」「付箋を使った活動は、自分の考えをまとめるために役に立ったか」などの質問を選択肢の中から選び回答してもらった。そして、「ワークシートを活用してみて、使いやすかったところ、直してほしいところ」の質問では、自由記述で回答してもらった。

国語の書くことアンケート (FORMS)

- 国語の授業は楽しかったですか?
 ①楽しかった ③まあまあ楽しかった ②あまり楽しくなかった ①楽しくなかった
- 2. 意見文の書き方 (主張、理由、根拠、反論を入れて書く) が分かりましたか? ④よく分かった ③まあまあ分かった ②あまり分からなかった ①分からなかった
- 3. 意見文には、どのような根拠を入れて書きましたか?①経験や体験 ②データ(数字など) ③見聞きしたこと、知識 ④名言
- 4. ふせんを使った活動は、自分の考えをまとめるために役に立ちましたか? ③役に立った ③まあまあ役に立った ②あまり役に立たなかった ①役に立たなかった
- 5. ワークシートは、意見文の書き方を学ぶのに役立ちましたか? ④役に立った ③まあまあ役に立った ②あまり役に立たなかった ①役に立たなかった
- 6. 自分の意見を深めるとき、友達との意見交流は役に立ちましたか? ④役に立った ③まあまあ役に立った ②あまり役に立たなかった ①役に立たなかった
- 相手(クラスの仲間)を意識しながら意見文を書きましたか?
 ①意識した ③まあまあ意識した ②あまり意識しなかった ①意識しなかった
- 8. クラスの仲間の意見文を読んで、納得できたと思うところがありましたか? ④あった ③まあまああった ②あまりなかった ①なかった
- 9. 自分の意見文を比べて読んで、内容がよくなったなぁと思うところがありましたか? ④あった ③まあまああった ②あまりなかった ①なかった
- ワークシートを活用してみて、使いやすかったところはどこでしたか? (自由記述)
- 11. ワークシートのここを直してほしいと思ったところはどこでしたか? (自由記述)

図 39 国語の書くことアンケート

アンケート項目の中でも、ここでは、質問2、4、9、10、11 について見ていく。質問2の「意見文の書き方(主張、理由、根拠、反論を入れて書くこと)が分かりましたか?」という項目では、よく分かったとまあまあ分かったを合わせて44人の児童が分かったと回答している。(図40)

図 43 のテキストマイニングを見ると、主張、根拠、理由という言葉が表れている。このことから、 児童は主張、理由、根拠を意識していたことが分かる。しかし、反論という言葉が表れていない。児 童にとって、反論に対しての意識は、まだ不十分であったと考える。

質問4は「ふせんを使った活動は、自分の考えをまとめるために役立ちましたか?」という項目である。アンケートの結果(図41)を見ると、役に立ったとまあまあ役に立ったを合わせると40人の児童が好意的な回答をした。本研究で作成したワークシートのポイントでもある付箋紙が、児童の考えをまとめたり、構成を考えたりするときに有効だったといえる。また、児童の回答からも付箋という言葉が大きく表されており、付箋紙を活用したことが効果的だったといえる。

質問9は、「自分の意見文を比べて読んで、内容がよくなったなぁと思うところがありましたか?」という項目の結果(図42)を見ると、あったとまあまああったを合わせると、37人の児童が、内容がよくなったと実感していることが分かった。指導前と指導後の意見文を読み比べることで、児童は自分の書いた意見文が内容、量ともに向上しているということを感じることができた。これは、自分の意見文を読み比べるという手立てによさがあったといえる。

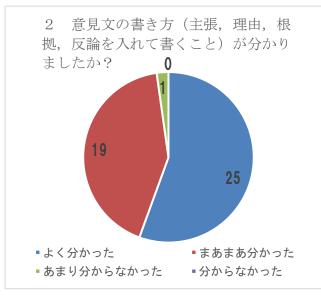


図40 質問2の結果

図41 質問4の結果

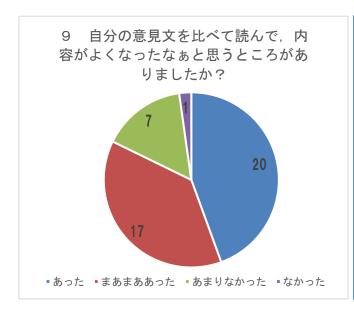


図42 質問9の結果

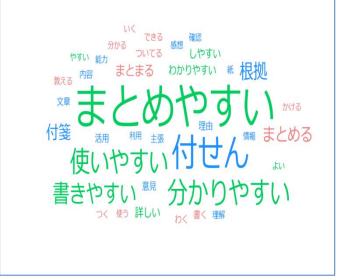


図 43 質問 10 テキストマイニング結果

そして、質問 10 の「ワークシートを活用してみて、使いやすかったところはどこでしたか?」という項目では、自由記述で回答してもらった。その結果をテキストマイニングしてみると、図 43 のようになった。児童はワークシートに対して、「ワークシートを使ったからまとめやすい」「内容が分かりやすくまとめやすい」「プリントを1つ1つにされていたから分かりやすかった」という好意的な回答をしていた。ワークシートを活用したことで、児童はまとめやすい、分かりやすいと感じていたことが分かった。

しかし、質問 11 の「ワークシートのここを直してほしいと思ったところはどこでしたか?」の項目では、「ワークシートの量が多くて何が何だかわからなかった。」「ワークシートじゃなくてノートのほうがわかりやすいからノートにしてほしい。」という意見が出された。ワークシートで学習を進めることにはよさがある。しかし、これから先もずっとワークシートに頼りながら文章を書くことはできない。文章を書くためのポイントを知り、ノートなどを使って構成をまとめ、文章を書けるようになることが、自立した学習者といえる。自立した学習者を育てていくためには、少しずつワークシートから離れていけるように指導していく必要がある。

【考察】

アンケート結果から見ても、ワークシートを活用した授業に対して好意的な感想を持っていることが分かる。児童が「主張、理由、根拠、反論」を入れた意見文の書き方が分かったのは、ワークシートでステップを踏み整理しながら行ったから書けたといえる。ワークシートのよさとして、児童は「何を書けばいいのかわかりやすくなったところ。」「どのようなことを書いてほしいか細かく書いてるところがいいと思った。」と回答していた。それは、1学期のワークシートに比べると、ワークシート1枚の中でやることが明確になり、何をしたらよいのかが分かりやすくなっていたからではないかと考える。そして、付箋紙を活用したことについても、意見を変える時に付箋をはがして変えればよいので思考するのが簡単だったこと、色分けをすることで何を書くのかと区別できたことが有効だったといえる。また、「書くこと」の学習では、文章を2回書いて比べるという活動はあまりしない。本研究では、意見文を指導前と指導後の2回書いて、教科書の文例や自分の意見文と比べるという手立てを講じた。そのことにより、児童に思考を促すことができ、児童がよりよい意見文を書くことができたと考える。意見文を書くときに、本研究のワークシートを活用して指導していくことは、意見文の書き方を学ぶのに有効であるといえる。

Ⅷ 研究のまとめ

本研究では、小学校国語科「書くこと」領域において、自分の伝えたいことを明確にし、相手に分かりやすく伝える意見文を書くことができる児童を育成するためのワークシートの活用の仕方について研究を進めてきた。そして、それを活用することで有効性を検証し、書くことの指導方法についても検証してきた。その検証結果を基に成果と課題をまとめる。

1. 研究の成果

本研究では、「意見文ワークシート」を作成、活用することにより、児童に身に着けさせたい力を明らかにし、授業を進めることができた。ワークシートには、児童が自分の伝えたいことを明確にし、相手に分かりやすく伝えることができるよう工夫をした。

まずは、単元を通して「主張・理由・根拠・反論」を意識させるようにした。教科書の文例を並べて提示することで、文章を比較しやすくした。見比べてどのような工夫がされているか、「主張・理由・根拠・反論」はどこにあるのかを気づきやすくした。そして、その文例を使って「主張・理由・根拠・反論」を見付け色分けをして、意識づけるようにした。このように、「主張・理由・根拠・反論」の指導後に何度も繰り返しワークシートなどを通して触れさせることで、児童は意見文を書くと

きに必要なことに自然と気がついていくことができた。そして、意識しながら意見文を書くことができた。

次に、児童の変容が見られるように指導前に書いた意見文を使って学習を進めたことである。自分の書いた意見文を基に、説得力のある意見文を書くにはどのような内容が足りないのかを気づかせることで、意見文を書くことをより深く考えさせることができた。自分の書いた意見文なので、違いにも気付きやすいという面もある。多くの児童は、自分の書いた意見文の足りない内容に気づき、「根拠を入れたい」「主張・理由・根拠・反論を入れた文章がよい」ということをワークシート②に書いていた。自分で足りない内容に気づき、それをよりよい文章へ生かそうと考えていくことができたというところが、作成したワークシートのよさであり、指導の効果を上げる手立てとなったといえる。そして、意見文の構成について理解を深めさせたことである。意見文の書き方には、様々な方法があるが、本研究では双括型を取り上げた。初め・中・終わりの3つのまとまりをつくり、その初めと終わりには主張を書く。中の部分には、理由と根拠、反論とそれに対する自分の考え(理由と根拠)を書くという構成を、授業やワークシートを通して意識させ、付箋紙を使って組み立てていった。多くの児童が、付箋紙を並べ替えたときに、双括型を理解し構成メモを完成することができていた。指導後に書いた意見文を書くことができたといえる。

さらに、付箋紙を活用したことも、児童の学習を深めることの一助となった。構成を考えるときに、ワークシートに直接書き込んでしまうと、書き直したり付け足したりするのがとても煩雑になってしまう。しかし、このワークシートでは、思考を深めるところ(理由・根拠・反論を考えるところ、構成を考えるところ)では、付箋紙を活用し、それに書き込むことで書き直したり付け足したりすることが簡単にでき、並び替えも手を煩わせずに行うことができた。児童の感想からも「付箋紙を使ったからまとめやすかった」「意見を変えるときに付箋紙をはがして張り替えればよかったから簡単だった」という意見が出された。このことから、思考を深めるときに付箋紙を活用することが効果的だったといえる。

また、このワークシートの基になっているものは、光村図書のワークシート集である。そのワークシート集を活用したことにより、1時間の中で考えさせるべきところはどこなのかをはっきりさせたり、授業者が一からワークシートを作らずに準備ができたりと、効率的に作業ができるところがよいところである。

これらのことから、児童が自分の伝えたいことを明確にし、相手に分かりやすく伝える意見文を書くためには、授業者が当該単元で児童に身に付けさせたい力を明確にし、授業者がねらいたいところをワークシートに盛り込みながら児童を指導することが有効である。また、児童にとってもワークシートや付箋紙を活用することで、自分の伝えたいことを明確にし、よりよい意見文を書くことができたといえる。

2. 研究の課題

(1) 自分の伝えたいことを明確にした意見文を書くことについて

本研究では、自分の伝えたいことを明確にし、相手に分かりやすく伝える意見文を書ける児童の育成について、ワークシートを活用した指導をすることで、目指す児童に近づくのではないかと考え、研究してきた。本研究で作成したワークシートを活用した指導をすることで、意見文を書くことがで

きるようになったといえる。しかし、私たちが目指すのは、ワークシートがなくても文章が書ける児童である。児童は、学習を通して文章を書くための要素を理解していく必要がある。それは、文章を書く目的と意図、型である。それらが分かっていれば、ワークシートがなくても文章を書くことができる。新しい文章を学習するときは、本研究で活用したワークシートなどを使い学習を進め、徐々にワークシートから離れ、自立した学習者になれるように指導していく必要がある。そのためには、授業者が様々な文章の種類や特徴を知り、指導に生かしていく必要がある。また、前年度にどのような学習を積み重ねてきたのかも理解したうえで、児童の指導ができるようにしていきたいと考える。

(2) 主張・理由・根拠・反論について

本研究では、説得力のある意見文の要素として、主張・理由・根拠・反論を提示してきた。しかし、これは、児童にとってとても難しいものだった。主張を支える理由と根拠。違う立場から述べる反論を、言葉として理解できた。しかし、それらの言葉の意味を理解できたかというと、そうではなかった。

特に反論については、捉えが難しく、授業者が児童に伝えるときに注意を払っていかなければならないと感じた。検証授業では、児童に「反論とは違う立場から意見を述べること」と伝えた。児童は、違う立場から意見を述べ、反論を書いていた。しかし、それが自分の主張に対応したものになっていなかった児童が多かった。そして反論に対する理由や根拠を書けていない児童も多かった。反論を書くことで重要なのは、反論を述べるだけではなく、反論に対する理由や根拠を用いて、自分の主張をより説得力のあるものへとすることである。授業者がそのことを理解して児童に指導していく必要がある。

主張・理由・根拠・反論を理解させるのには、時間がかかる。本研究でも検証授業の中で取り上げ 学習を進めたが、やはり7回の授業だけでは限界があった。これは、普段の授業「書くこと」領域だ けではなく、「読むこと」領域の中でも主張・理由・根拠・反論を意識的に使い、児童に触れさせる ことで、より身についていくと考える。よりよい意見文を書くためには、普段の授業から主張・理由・ 根拠・反論を取り入れていく必要があると考える。

最後に、本研究に関わり、熱心に指導してくださった指導主事の先生方、お忙しい中、快く協力して くださった研究協力員の先生方、研究協力校、並びに研究の場を与えてくださった全ての皆様に感謝し、 本研究のまとめとする。

【引用·参考文献】

- · 文部科学省(2018)「小学校学習指導要領解説 国語編」同省
- ・国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」同研究所(2018~ 2022)
- ・内藤 成子 (2014)「学習内容の定着をめざす授業改善に関する研究 ワークシートの有効な活用を通して- 」山梨大学大学院教育学研究科教育実践創成専攻
- ・藤森裕治(2019)「小学校 国語教育相談室 no. 96 特集『考えの形成』を促す指導の工夫」光村図 書
- ・文部科学省国立教育政策研究所(2020)「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する 参考資料【小学校 国語】」東洋館出版社
- ・山梨県総合教育センター (2018)「平成 29 年度 一般留学生研究報告書」
- ・篠原京子(2021)「小学校国語科『書くこと』 における論理的思考力の育成―小学校からの 小論文指導を通して―」東京未来大学
- ・亀安正朗(2019)「小学校国語科における自分の考えをよりよく書くことができる児童の育成―『伝え伝わるシート』を活用した考えの形成,推敲を通して―」群馬県総合教育センター
- ・鶴田清司(2017)「授業で使える! 論理的思考 力・表現力を育てる三角ロジック」図書文化社
- ・中村和弘・大塚健太郎 (2019) 「考える力を高 める国語科の授業づくり」文溪堂
- ・中村和弘・東京学芸大学附属小学校国語研究会 (2018) 「見方・考え方 [国語科編] |
- ・中村和弘・清水良編著(2019) 「小学校国語指導スキル大全」明治図書
- ・「子どもの論理」で創る国語授業研究会 (2020) 「『子どもの論理』で創る国語の授業」明治図 書
- ・横浜市小学校国語教育研究会(2014)「小学校 国語 6年間でみるみる『思考力』がつく!『書 くこと』の授業プラン&ワークシート」明治図 書

- ・長谷川祥子編著(2020)「小学校国語科 どの 子も必ず書けるようになる『書くこと』の授業 づくり」明治図書
- ・長谷川祥子(2017)「小学校国語科論理的文章 を書く力を育てる書き方指導 論理的思考力・ 表現力を身につける小論文指導法」明治図書

【研究協力校】

笛吹市立一宮西小学校 校長 内藤 光洋

【研究協力員】

石井 輝彦 上野原市立島田小学校 大久保 明子 甲府市立千塚小学校 木崎 綾 都留市立禾生第二小学校 斉藤 千里 南アルプス市立白根飯野小学校 望月 翔太 笛吹市立一宮西小学校

【研究指導者】

興水 美香 調査研究課 副主幹・指導主事 (主担当指導主事・国語)

角田 恵一 調査研究課 副主幹・指導主事 (留学生担当・主担当指導主事・英語)

西谷地 力也 調査研究課 副主査・指導主事 (世話人)

三枝 敦子 研修指導課 副主幹・指導主事 三枝 朋佳 研修指導課 副主査・指導主事 中村 忠廣 情報教育部 副主幹・指導主事

令和4年度 山梨県総合教育センター

一般留学生研究報告書

執 筆 者 一般留学生 山本 聖

補助資料

小学校国語科における「書くこと」の指導方法の研究 一意見文を書く過程に「ワークシート」を取り入れることを通して—









山梨県総合教育センター 令和4年度 一般留学生 山本聖

| | 1 | 事前アンケート |
|----|---|------------------------|
| | 2 | 7月の授業実践学習指導案 |
| | 3 | 7月のワークシート 検証授業学習指導案 |
| 目次 | 4 | 検証授業学習指導案 |
| | 5 | 検証授業のワークシート |
| | 6 | 12月の児童へのアンケート |
| | | |

国語の書くことに関するアンケート

| | | | 想文などの「文章を 質問に答えてくだ | | をしていま | きす。これは | は,「文章を書 | | |
|------------------------|---|----------|-----------------------|--------|-----------|--------|------------|--|--|
| 質問1 文 | 章を書くこ | とは, とくいで | すか。苦手ですか | 。当てはまる | ところに(| ○をつけて | ください。 | | |
| | 得意 | どちらかと | いえば得意 | どちらか | といえばき | 苦手 | 苦手 | | |
| 質問2 文 | 章にはいく | つかの種類があ | ります。知ってい | る文章すべて | 「にのをつり | けてくださ | UN. | | |
| かんさつき ? 観察 記 | 録文 | 体験報告文 | 紹介文 | 手紙 | 詩 | 日記 | 報告文 | | |
| 指崇文 習感想文 | į dė | 句 説明 | 到文 物語文 | 了 読書点 | 遂想文 | 意見又 | 文 学 | | |
| ے أ | 質問3 上の文章の種類の中から、書きやすいなと思うもの、書くのが苦手だなと思うものはそれぞれどれですか。1つ選んでその理由を教えてください。 書きやすいなと思う文章 | | | | | | | | |
| | | 理由(ル | くつでもいいです | 。箇条書きて | きもいいで | 'ব.) | | | |
| 書くのが苦 | 手だなと思 | う文章 | | | | 4 | ??? | | |
| | | 理由(ル | ハくつでもいいです | る簡条書きて | ごもいいで | ਰ,) | | | |
| L | | I | | | ご協力あり | | ざいました。 | | |

組 番 名前

第5学年 国語科学習指導案

みんなが過ごしやすい町になるための工夫を調べ隊! ~調べたことを正確に報告する文章を書こう~

第5学年 [知識及び技能](1)カ [思考力,判断力,表現力等]B書くこと(1)ア・イ・エ

1 単元の目標

(1) 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。[思考力、判断力、表現力等] B(1)エ

言語活動例 B(2)ア

- (2) 文章の構成や展開, 文章の種類とその特徴について理解することができる。 〔知識及び技能〕(1)カ
- (3) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思考力、判断力、表現力等] B(1)ア
- (4) 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ
- (5) 言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

2 教材名

調べたことを正確に報告しよう みんなが過ごしやすい街へ (光村図書 5年)

3 児童の実態

男子 名,女子 名,計 名のクラスである。特別支援学級に在籍している児童が 名いる。その 児童は、国語の時間には支援学級での学習になるため、計 名となる。

書くことに関するアンケート(6月9日実施)から、文章を書くことが得意な児童が1名いる。どちらかといえば得意という児童は9名、どちらかといえば苦手は7名、苦手という児童が4名いる。文章を書くのが苦手だなと思う文章と理由を聞いてみたところ、読書感想文では「考えにくいから。長いから。」「本を読んで感想を書くのが苦手。」、説明文では、「何を調べるかずっと悩むし文章が分からないから。」「説明する順番が分からないし、とにかく難しい。」という理由が書かれていた。

これは、「自分の思いを分かりやすく相手に伝える」ということや「文章の構成や書き方が分からない」ということが原因なのではないか。 児童は、二~三文で意見を書いてみようというと、上手に書けるが、長い文章を書かせてみると、 途端に書けなくなってしまう。 文章を書かせるためには、手立てが必要である。

- 4 指導の内容と言語活動, 教材のかかわり
- (1) 言語活動設定の意図

目的意識 みんなが過ごしやすい町の工夫を報告するために

相手意識 クラスの友達や親に対して

場面状況意識 みんなが過ごしやすい町の工夫を知らせる報告書を書く

場面で

方法意識 調べてきたことを正確に文章に書き表す活動を通して 評価意識 引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが

伝わるように工夫して文章を書くことができた

(2) 教材の特徴

本単元では、調べたことを報告する文章を書く活動を行う。主に、適切に引用しながら書くことが ねらいとなるが、調査の目的に合う方法を選ぶ取材のしかたにも着目して取り組む必要がある。

教科書では、自分たちの住む地域の福祉・共生に関わる問題を扱っている。このように、身近であり、かつ調べて分かることを題材にしたい。身近な問題から離れてしまうと、自分たちの目で確認ができないため活動の必然性に乏しくなり、表面的な報告文になる。また、壮大なテーマだと一定の結論に導けず、これも深い学びにつながらない。

5 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|--------------------|----------------|
| ①文章の構成や展開, 文章 | ①「書くこと」において,目的や意図に | ①粘り強く,自分の考えが伝わ |
| の種類とその特徴につ | 応じて感じたことや考えたことなど | るように書き表し方を工夫 |
| いて理解している。 | から書くことを選び, 集めた材料を分 | し、学習の見通しをもって、 |
| ((1)力) | 類したり関係づけたりして, 伝えたい | 報告する文章を書こうとし |
| | ことを明確にしている。(B(1)ア) | ている。 |
| | ②「書くこと」において,筋道の通った | |
| | 文章となるように, 文章全体の構成や | |
| | 展開を考えている。 (B(1)イ) | |
| | ③「書くこと」において、引用したり、 | |
| | 図表やグラフなどを用いたりして,自 | |
| | 分の考えが伝わるように書き表し方 | |
| | を工夫している。 (B(1)エ) | |

*本単元では、〔思考力・判断力・表現力等〕B(1) エを特に重点的に指導し評価する。

6 指導と評価の計画 (B「書くこと」31時間中の10時間)

| 0 | 描写と評価の計画 (B 香くこと | | 式压40% 式压1.VI.65 |
|--------|--|--|--|
| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
| 1 . 2 | ①みんなが過ごしやすい町の工夫を親や友達に報告するという学習の見通しをもっ。 ②報告する文章の書き方についてイメージをもち、学習計画を立てる。 ③自分が調べようと思うことを決める。 ④調べ方の特徴を整理し、自分に合った調べ方を決める。 | ・児童の伝えたいという思いを引き出すために、自分が住んでいる家の近くいかに、自分が住んでいる家を思いいでいるなどを思いいでいる公共施設などしたり、教師が紹介などしたり、教育なる高いである。というではなるようにする。というでは、調できるようになる。というでは、これできるようにできるようにする。というできるようにする。というになるようにでは、調できるようにする。というになるようにはなるときには、できるようにはなるときには、の注意にををを理する。 | 「知識・技能①」 発言・観察 ・調査報告文の特徴に つている。 「思考・判断・表現①」 ワークシート ・目のでたことを選んでいる。 「主体的に学習に取り 組む態度①」 発言・ワークシート |
| 3 ~ | ⑤各自調査を進める。 ⑥調べたことを分類,整理し, | ・報告する文章を書くときに用いる可能 性がある情報は付箋紙にまとめる。 | ・調査報告文を書く学習について,見通しをもって取り組もうとしている。 [知識・技能②] ワークシート・発言 |
| 9 | 伝えたいことの中心となる事柄を決める。 ⑦ワークシートに貼った付箋紙を基に、構成メモを作る。 ⑧構成メモを基にして、下書きをまとめる。 ⑨観点に沿ってペアで意見を伝え合い、下書きを修正する。 ⑩清書する。 | ・情報の整理や報告文の方向性を決める。 ・前時整理した付箋紙を見ながら、中心的に伝えたいことを意識して構成を検討している。 ・引用のしかた、図表の用い方、筋道のである。 ・自分の意図が伝わるにはどうしたらいい情報をもう少し集めたいときは、もう一度調査をする。 ・報告する相手と自分が報告したい内容を改めて確かめることで、丁寧に書く意欲につなげる。 | ・調査報告文の構成や展開と捉え、そのでである。 「思考・判断・表現②」 ・集カーを材料をける。 「思考・力を材料がである。 「思考・力を対解がいことをである。 「思考・力を対解がいことをがある。 「思考・力のである。 「思考・力の通に、関サートを文章を表して、大変を表して、大変を表している。 |
| | | | [思考・判断・表現④] ワークシート ・引用したり、図表やグ ラフ等を用いたりし て、自分の考えが伝わ るように書き表し を工夫している。 [思考・判断・表現⑤] 発言・ワークシ感想ト ・文章に対する感想や 意見を伝え合っている。 |

| 1113-2. | | | |
|---------|--|---|--|
| | | | [主体的に学習に取り 組む態度②] 発言・ワークシート ・粘り強く,自分の考え が伝わるように書き 方を工夫し,調査報告 文を書こうとしてい る。 |
| 10 | ①感想を交流する。 ②単元の学習を振り返り、今後 への生かし方を考える。 | ・友達の文章のまねしたいところを記録 させておくと、今後の学習にいかすこ とができる。 | [主体的に学習に取り 組む態度③] 発言・ワークシート ・調査報告文を書くと きの、書き表し方の工 夫を振り返ろうとし ている。 |

目 標 身の回りの工夫について、考えたことなどから題材を選び、調査方法を検討することが できる。

評価基準・身の回りの工夫について、考えたことなどから題材を選んでいる。[発言]

・調査方法について整理し、自分の目的に合った調査方法を選んでいる。〔発言・記述〕

日 時 令和4年7月 日() 1·2校時 第1次 2時

| 展開 | | | |
|----|---|--|---|
| | 主な学習活動とその意図・留意点 | 主な発問・指示(○)個別の支援(☆) | 評価方法等 |
| 導入 | ①本時の学習課題を確かめる。身の回りの工夫について、知りたいことを選んで、調べる方法を考えよう。 | ○前回は、身の回りの工夫に目を向けて、報告する文章を書くことを確認しました。○今日は何について調べるのか、どんな方法で調べるのか、その二つを決めます。これまで学習したことを思い出しながら学習しましょう。 | ワークシート |
| 展開 | ②調べようと思う工夫を出し合って交流し、自分が調べようと思うテーマを決定する。 ・前時以降に見つけたものを出し合う中で、自分が興味持ったものを見付けていく。 ・見つけた工夫を出し合って交流することで、調べたいことが明確でない児童も参考にできるようにする。 | ○前回の授業や今日までの時間で見つけた工夫を出し合いましょう。みんなで出し合いながら、自分が調べてみたいものを選んでいきます。 ○調べたいものがはっきりした人は、ワークシートにまとめましょう。もう少し考えたい人は何に困っているのかを明らかにして、友達と相談してみましょう。 ☆調べたい工夫が決められない児童には、気になるもの、おもしろいものといった観点で選ばせる。 | ワークシー ト [思考・判 断・表現①] ワークシ ート |
| | ③調べ方の特徴を整理し、自分に合った調べ方を決める。 ・これまでに調べる学習をしたときに使った方法やその注意点を振り返るよう児童に問いかけ、板書にまとめて整理する。 ・必要な手法が提示されない場合には、教師から提示し、児童に補足させる。 ・調べ方が整理できたら、自分の調べたいことに合う調べ方を考えて決める。調べ方については、学習計画の中で、随時見直していく。 | ○これまでに、何かを調べるときどんな方法で調べましたか。 ○それぞれの調べ方のよいところは何ですか。 ○逆に注意するところはどこですか。 ○調べ方の整理ができました。自分が調べたい内容にぴったりのものを選んで、学習計画の中に取り入れましょう。もちろん、計画は進めながら見直して、別の方法で調べてもいいですね。 | 調べ方を書く模造紙 |
| 終末 | ④本時の学習を振り返り,次時への学習の見通しをもつ。・次時以降の活動につなげるため,調べたいことについてもう一度意欲を高めるようにする。・調べ方については,いつでも参照できるように,教室に掲示しておく。 | ○今日の学習で調べたいことや調べ方について決めました。それぞれで、分かったことなどを振り返り、まとめましょう。○次の時間からは、今日、考えた方法で、身の回りの工夫を調べ始めます。 | [主体的に 学習に取り 組む態度①] ワークシ ート |

目 標 調べる目的に応じて材料を集め、分類するなどして伝えたいことを明確にすることができる。

評価基準 ・調べる目的に応じて選んだ方法を適切に用いて、材料を集めている。〔記述・観察〕

・集めた情報を分類するなどして整理し、伝えたいことを明確にしている。〔記述・観察〕

日 時 令和4年7月 日() 校時 第2次 3・4時

| 展開 | | | |
|--------------|---|--|---|
| 展開 導 入 | 主な学習活動とその意図・留意点 ①本時の学習課題を確かめる。 知りたい工夫について調べて整理し、報告したいことを決めよう。 ②調査報告文に必要な情報を確かめる。 | 主な発問・指示(○)個別の支援(☆) ○前回は、調べたい工夫と調べ方を決めました。 ○今日からは計画に沿って調べていきます。調べる目的をはっきりさせ、目的を意識しながら調べられるようにしましょう。 ○調べる前に、教科書 P76 の「音声案内 | 評価方法等 ICT の活用 教科書の拡 |
| | ・調べる前に、教科書 P76 の作例を参照し、調査報告文に必要な要素を簡単に確認することで、限られた時間でまとめられるようにイメージさせる。 ・引用や写真などの図表があることに気づかせ、今回の調査報告文に、これらを盛り込むことを確認する。 | を利用して、みんなが過ごしやすい町へ」を読んで、完成した報告する文章をイメージしましょう。 ○文章以外にどんな事柄を盛り込みますか。 ○調べていく中で、引用できそうな記述、あるとよい写真や図版があれば、記録しておきましょう。 | 大図 ワークシー ト [知識・技能 ②] 発言・観察 |
| 展開 | ③前時にまとめた調べ方の長所と注意点を振り返る。 ・前時にまとめた調べ方の長所と注意点について、掲示物を利用して簡単に振り返る。 | ○これからいよいよ自分の知りたいこと を調べていきます。どんなことに注意 するとよいですか。 | |
| | ④各自調査を進める。・報告する文章を書く時に用いる可能性がある情報は付箋紙にまとめる。・付箋紙の中で、重要なものには印を付けるなどし、後から整理しやすいようにする。 | ○それでは、それぞれが考えた調べ方で 調査を進めましょう。 ☆調査の進行は随時個別に確認するが、 難度が高い調査をする児童や苦手な児 童は特によく観察し、調べ方を助言し ながら進めるようにする。 | [思考・判 断・表現②] ワークシー ト・発言・観 察 |
| | ⑤調べたことを分類、整理し、伝えたいことの中心となる事柄を決める。 ・全体の状況を見て、ある程度のところで情報の整理や報告文の方向性を決める作業に移る。 | ○だいぶ情報が集まってきました。文章 の構成や内容を意識して,今ある付箋 紙を整理していきます。何を中心に伝えたいかを決めましょう。○もっと調べたいことは,追加で調べましょう。 | [思考・判断・表現③]ワークシート・観察 |
| 終末 | ⑤本時を振り返り、次時の見通しをもつ。・調査の際の工夫点などを記録しておくとよい。 | ○調べている中で気づいたことや調べ方 を工夫したところなどをまとめておき ましょう。 | |

目 標 報告する文章の構成の特徴を理解し、筋道の通った文章となるよう構成を考えることができる。

評価基準 ・報告する文章について、構成などの面から特徴を理解し、書くことにいかしている。[記述・発言]

・引用のしかたに注意しながら、筋道の通った文章となるよう構成を考えている。〔記述・観察〕

日 時 令和4年7月 日() 校時 第2次 5時

| | 主な学習活動とその意図・留意点 | 主な発問・指示(○)個別の支援(☆) | 評価方法等 |
|-----|--|---|---|
| 導 入 | ①本時の学習課題を確かめる。 報告する文章の構成を確認し、文章の 構成を知り、調べたことを報告するための構成メモを作ろう。 | ○今日は、これまで取材したことを基に、報告する文章の構成を考えます。まず、報告する文章の構成を確かめてイメージをもちましょう。そして、自分の文章の構成を考えましょう。 | ワークシート |
| 展開 | ②報告する文章の特徴を確認し、文章構成を共有する。 ・教科書 P76 の作例を確認し、調査報告文の特徴と構成を全員で分析し、構成メモにつなげる。 ・これらが調べたいことを正確に報告するための構成の工夫であることを捉えさせる。 ・文末表現にも着目できるよう声かけ、文末の書き表し方にも意識を向ける。 | ○調査報告書はどんな構成で書かれていましたか。気づいたことを話しましょう。○どうしてこういう書き方がされているのでしょう。 | - ワークシート ト [思考・判断・表現③] ワート・観察 |
| | ③付箋紙を基に、構成メモを書く。 ・前時整理した付箋紙を見ながら、中心的につたえたいことを意識して構成を検討していく。 ・教科書に示された構成を基にした「構成メモ」を用いて、どこでどんな内容を盛り込むかを検討する。 ・特に、「調べて分かったこと」に、いくつの事柄を書くのか、整理するようこえをかける。 ・どんな図表や引用を乗せるのかも検討し、メモしておきたい。 | ○前回整理した付箋紙を見て、文章のそれぞれのまとまりの中でどんな内容を書くか、考えましょう。 ○そのとき、前回決めた、中心的に伝えたいことを大切にして、組み立てを考えていきましょう。 ○引用するところについても、一緒に考えてメモしておきましょう。 ☆調べたことから、構成に結び付けられない児童には、「調べてみて、いちばん伝えたいことは」等と問いかけながら、構成と対応させていくとよい。 | |
| | ④友達と交流して構成を確認するとともに、引用するところについて助言し合う。・引用個所については、目的を明確にするために、自分が報告したいこととの対応を説明させる。・教科書 P70「目的に応じて引用するとき」を参照する。 | ○二人組になって、構成メモを見せ合って気づいたことを伝え合いましょう。○引用するところについては、どうしてその部分を引用するのか、説明し合いましょう。 | |
| 終末 | ⑤本時の学習を振り返り、次時への学習の見通しをもつ。・調査報告文の構成を理解できたか、それを基に自分の文章の構成をどう工夫したか確認する。 | ○報告する文章の組み立てと、自分が組み立てで工夫したところを振り返りましょう。○次の時間は、下書きを書いていきます。 | |

目 標 報告したいことが伝わるよう、引用するなど書き方を工夫して下書きすることができる。

評価基準 ・適切な引用のしかたについて理解し、自分の文章に取り入れている。〔記述・観察〕

・報告したいことが伝わるように工夫して下書きをしている。〔記述・観察〕

日 時 令和4年7月 日() 校時 第2次 6・7時

| | ナね学羽洋動レスの辛回・切辛占 | 主な発問・指示(○)個別の支援(☆) | 亚 届七光学 |
|-------|---|---|---------------|
| | 主な学習活動とその意図・留意点 | | 評価方法等 |
| 導 | ①本時の学習課題を確かめる。 | │ ○前回は,友達と話し合いながら,文章 │ の組み立てを考えてきましたね。 | |
| 入 | 引用のしかたを確かめて、報告したい | ○今日からは、いよいよ報告する文章を | |
| | ことが伝わるよう工夫して下書きしよ | 書いていきます。まずは下書きです。 | |
| | Ó. | | |
| 展 | ②調査報告文を書くときに気を付けるこ | ○教科書75ページの上段をみんなで読 | ワークシー |
| 開 | と、長文を引用するときの方法を確認 | んで、報告する文章を書くときに気を | - |
| 12.14 | する。 | つけることを確かめます。 | |
| | ・教科書 P75 上段を読んで、ポイントを 確かめさせる。 | ○最初と最後に書いてあることが対応していないと、読み手はどんな印象を受 | .t□ → #/. |
| | ・引用のきまりなどの既習事項は、掲示 | ていないと、配み子はこんな印象を支 けますか。 | 掲示物 |
| | 物にして、いつでも確認できるように | ○これで書くときのポイントが分かって | [知識・技 |
| | しておく。 | きました。教科書75ページの下段に | 能②] |
| | ・最初に挙げた話題と最後のまとめとが | は、これまでにやったことがなかった、 | リークシ ート |
| | 対応していると、筋道の通った文章と | 長い文章の引用の例が出ています。必要 | |
| | して読める。このように、作例などを | に応じて参考にしましょう。 | |
| | 基に具体的に押さえたい。 | | |
| | ・教科書 P75 下段を参照し、長文を引用 | | |
| | するときの注意点についても, 押さえ させたい。 | | |
| | C & /CV '0 | | |
| | ③構成メモを基にして、下書きをまとめ | ○それでは,構成メモを基に,気をつけ | |
| | ていく。 | ることを意識して文章を書きましょ | |
| | ここまでにまとめてきた構成メモや付 | う。 | |
| | 箋紙を見ながら,下書きを書き進め | ○もう少し調べる必要があれば、再調査 | |
| | る。 | しましょう。 | 話型が書か |
| | ・ここまでの過程で不足する情報があれば、再取材することも大切であること | ☆なかなか書き進められない児童には, 調査報告文でよく使う話型などを示し | れたヒント |
| | を児童に伝える。 | 両重報ログでよく使り間望などを外し て支援する。 | カード |
| | で儿童に囚んる。 | | |
| | ④書き進んだところまでを読み合い, 困 | ○書き進んだところまでを読み合い,困 | [思考・判 |
| | っていることや気づいたことを助言し | っていることや気づいたことを伝え合 | 断・表現④〕 ワークシー |
| | 合う。 | いましょう。 | ト・発言・観 |
| | ・時間ごとに読み合う時間、助言し合う | | 察 |
| | 時間を作り、ペアで協力して書いてい | | |
| | くようにする。 | | |
| | ・引用のしかたや、調査報告文で気をつけることなどは、掲示物を参照して二 | | |
| | 人で確かめる。 | | |
| 終 | ⑤本時の学習を振り返り、次時への学習 | ○文章を書き始めて困ってこと、アドバ | |
| 末 | の見通しをもつ。 | イスをもらって納得したことなどを共 | |
| 木 | ・進捗状況を確かめ、次時は、交流の時 | 有しましょう。 | |
| | 間であることを伝える。再調査が必要 | ○再調査が必要だと思って人は,空いて | |
| | な児童については、具体的な時間など | いる時間で行い,下書きを完成させま | |
| | を示しておく。 | しょう。 | |

目 標 調査報告文の下書きを読み合い、構成や展開について意見を伝え合って見直すことができる。

評価基準 ・調査報告文の構成や展開の特徴を踏まえて、友達の下書きに意見を述べている。〔発言・ 記述〕

・友達と意見を伝え合う中で修正点を見付つけ、自分の下書きを見直している。〔記述・観察〕

日 時 令和4年7月 日() 校時 第2次 8時

| | 主な学習活動とその意図・留意点 | 主な発問・指示(○)個別の支援(☆) | 評価方法等 |
|--------|---|---|--------------------------------|
| 導 入 | ①本時の学習課題を確かめる。 下書きを読み合って意見を伝え合い, よりよくなるように見直そう。 | ○前回までで下書きが完成しました。○今日は、今まで書いてきた文章をさらによくするために、ペアで読み合ってアドバイスし合います。 | |
| 展開 | ②意見を伝え合う観点を共有する。 ・「筋道の通った文章にすること」「適切に引用すること」「図表を使って見やすくすること」というポイントを確認し、観点を共有する。 | ○読み合うときのポイントは、前回確認した3点です。これを意識して、友達の文章を読んで意見を伝え合いましょう。○ペアはこれまでとは違う人と組みましょう。 | |
| | ③観点に沿った音を記された。 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で | ○友達とととととととととととととととととととととととところによって、いっというできない。 ○するとは、うのでするとは、しまで、すっとのです。 ・大きながら、ですが、いったででで、でで、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で | [思考・判 断・表現⑤] ワ・発言・観 察 |
| 終末 | ④本時の学習を振り返り、次時への学習の見通しをもつ。・3点のポイントに基づいて、助言を受けた内容や自分がどう直したかを振り返る。 | ○今日は、3点のポイントに基づいて、 友達の文章を読み合って意見を伝え合いました。 ○次の時間は、今回出された意見を基に 報告する文章を修正して、清書しましょう。 | |

目 標 引用や図版の使い方を意識し、筋道の通った文章となるよう気をつけて、清書することが できる。

評価基準 ・友達の意見を基に、引用や図版の使い方を意識し、筋道の通った文章となるように修正 している。[記述]

・引用時の表記のきまりを意識し、表現の工夫をいかして清書している。〔記述〕

日 時 令和4年7月 日() 校時 第2次 9時

| 戊用 | | | |
|----|---|---|--|
| | 主な学習活動とその意図・留意点 | 主な発問・指示(○)個別の支援(☆) | 評価方法等 |
| 導入 | ①本時の学習課題を確かめる。 友達の意見をもとに下書きを見直し、 報告する文章を清書しましょう。 | ○前の時間では文章をそれぞれ読み合い、どこを修正するか話し合いましたね。○今日は実際に修正して、報告する文章を仕上げましょう。 | ワークシート |
| 展開 | ②下書きを再度見直す。 ・時間が経ったところで、もう一度下書きを見直し、読みやすくなっているか確かめる。 ・修正が完了できていない児童はここで、修正できるようにする。 ・ただし、清書に時間をかけるため、ここでは、大きな見直しではなく、清書するための表記の確認程度に留めたい。 | ○前の時間に話し合った箇所について, うまく修正できているか確認しましょう。時間が経つと違って見えてくることがあります。 ○まだ修正しきれていない人は,この時間に修正を終わらせましょう。 ○修正が終わったら,表記の間違いがないように確認しましょう。 ☆必要に応じて,既習事項をまとめた,ひょうきん推敲の観点を提示し,見直しをさせる。 | ワークシー ト [思考・判 断・表現③, ④] ワークシ ート |
| | ③清書する。 ・下書きが完成したら清書するが、報告する相手と自分が報告したい内容を改めて確かめることで、丁寧に書く意欲につなげたい。 ・下書きを写すだけではなく、これまでに大切にしてきた箇所を掲示しておき、確認しながら清書する。 | ○これで下書きができました。いよいよ 清書して、報告する文章が完成しま す。○清書する前に、報告する相手と、報告 したいことをみんなで確認しましょ う。 | [主体的に学習に取り組む態度②]ワークシート・観察 |
| | ④文章が完成したら、下書きを確認し合ったペアで読み合う。・そう修正されたかを確かめ、読みやすくなったところについてコメントし合う。 | ○完成したら,まず,助言してくれた友 達に読んでもらいましょう。読んだ人 は,よくなったところを伝えましょ う。 | |
| 終末 | ⑤本時の学習を振り返り、次時への学習の見通しをもつ。・書いた文章を自分で読み直し、よかったところ、修正して改善したところなどをまとめておく。 | ○これで清書が完成しました。これまでに何回もいろいろな人と読み合って修正してきました。がんばったところをノートに書いておきましょう。○次は最後の時間です。文章を交換して読み合い、調べたことをみんなに報告しましょう。 | |

目 標 調査報告文に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。

評価基準 ・互いの調査報告文を読み合い、内容や表現について、感想を伝えている。〔記述・発言〕

- ・友達からの感想や自分の振り返りを基に、自分の文章のよいところを見つけている。〔記述・発言〕
- 日 時 令和4年7月 日() 校時 第2次 10時

| 12 [7] | | | |
|--------|--|--|--------------|
| | 主な学習活動とその意図・留意点 | 主な発問・指示(○)個別の支援(☆) | 評価方法等 |
| 導 | ①本時の学習課題を確かめる。 | ○前の時間は報告する文章を清書し,文 | |
| 入 | 報告する文章を友達と読み合って、内 | 方が完成しました。 ○今日は、みんなで文章を読み合って、 | |
| | 容や読みやすかったところについて感 | 内容や表現のしかたについて感想を交 | ワークシー |
| | 想を伝え合おう。 | 流しましょう。 | 1 |
| | | | |
| | | | |
| 展 | ②交流のポイントを確認する。 | ○どのようなことに気をつけて読み合 | ワークシー |
| 開 | ・ここまで、3点のポイントに着目して | い、感想を伝えるとよいでしょうか。 | - |
| 12.13 | 進めてきたので、感想交流でもそうし | ○3点のポイントはもちろん大事です | |
| | た視点が出ることが予想されるが, こ こでは, 内容面での感想も伝え合いた | し、報告の内容にも注目したいです ね。 | |
| | こでは、FI存面での窓心の内だらいた。 | 400 | |
| | ・それぞれが,これまでの学習の記録を | | |
| | 残しておくと、読み合って感想を交流 | | |
| | する際に役立つ。 | | [思考・判 |
| | ③感想を交流する。 | ○それでは,文章を交換して読み合い, | 断・表現⑤] |
| | ・できるだけ多くの児童に意見をもらえ | 表現や内容について感想を伝え合いま | 発言・観察 |
| | るように,テンポよく交換して読んで | しょう。友達の文章で,まねしたいと | |
| | いきたい。 | ころがあれば、それも記録しておきま | |
| | ・友達の文章のまねしたいところなども 記録させておくと, 今後の学習にいか | しよう。 | |
| | 記録させておくと、「一後の子首にVinition」 すことができる。 | ○お互いに感想を言い合ったら、次のペーアを見つけて、また読み合いましょ | |
| | ・授業後も交流できるよう,文章を掲示 | j. | |
| | しておき、自由に付箋紙等でコメント | ☆感想が伝えられない児童には, おもし | |
| | がつけられるようにしておきたい。な | ろかったところとその理由など、伝え | |
| | お,別の学級の児童とも交流できると よい。 | るときの型を示す。 | |
| 終 | ④単元の学習を振り返り,今後へのいか | ○いろいろな人と、感想を交流すること | |
| 末 | しかたを考える。 | ができました。「たいせつ」「ふりかえ | [主体的に |
| 不 | ・教科書 P77「たいせつ」「ふりかえろ | ろう」を読んで、学習を振り返りまし | 学習に取り 組む態度③] |
| | う」を参照して、本単元で身についた カな垢り返り、なかめる | よう。 | ワークシー |
| | 力を振り返り,確かめる。 ・教科書 P77「いかそう」を参考に,今 | ○単元全体を振り返って、できるように なったことやこれからもっとがんばり | ト・発言・観 |
| | 後、どんな学習でいかせるか、話し合 | たいことなどをノートに書きましょ | 察 |
| | う。 | う。 | |
| | | ○身についた力はどんなところでいかせ | |
| | | とうですか。出し合ってみましょう。 | |

考えてみよう!



だれに伝えるのかな?

)



何について書くのかな?



調べたことを書いたふせんを左のわくの中へはりましょう。調べたことから考えたこと、分かったことをふせんに書いて右のわくの中にはりましょう。

| 調べたこと | 考えたこと・分かったこと |
|-------|--------------|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

補助資料3 7月のワークシート

調べたことや考えたことを文章に書きましょう。どの順番で書くと相手に伝わりやすいかを考えてみま しょう。

| しょう。 | | |
|--------------------|--------------------|-------------------------|
| タイトル | フ. / たがほご! ぬせい m ^ | 線のところに言葉を入れてもいいね。 |
| | みんなが過ごしやすい町へ | |
| 名前 | | 右につめて書きます。 |
| 1. 調べたきっかけ | | どうして調べようと 思ったのかを書こう。 |
| | | 文末 ~した。 |
| | | どのように調べたの |
| 33 73 | | か教えてあげよう。 |
| | | 文末~である。 |
| | | ~した。 |
| 3. 調べて分かったこと | | 調べたことに |
| | | はったふせんを、並び |
| | | 替えてはってみよう。 |
| | | どの順序がいいのか |
| | | な? |
| | | 引用が分かるように |
| | | しておこう。 |
| | | 文末 |
| | | ~した。 |
| | | ~そうだ。 |
| | | ~と書いてあった。 |
| | | ~と聞いた。 |
| | | ~と教えていただ |
| | | いた。 |
| 4. まとめ | | 調べて分かったこと |
| | | や考えたことを書い |
| | | たふせんをはろう。 |
| | | 文末 |
| | | <u>~</u> した。 |
| | | ~だと思った。 |
| | | ~と考えた。 |
| 〈参考〉 | | 参考にした資料の名前とペ |
| | | ージを書こう |
| | | |

第5学年 国語科学習指導案

単元名・めざす言語能力

「読み手が納得する意見文を書こう」 〜伝えたいことを明確にして、

自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く~

第5学年

[知識及び技能](1)カ[思考力,判断力,表現力等]B書くこと(1)ア・ウ・カ言語活動例 B(2)ア

1 単元の目標

- (1) 文の中での語句の係り方や語順,文と文との接続の関係,話や文章の構成や展開,話や文章の種類とその特徴について理解することができる。 [知識及び技能](1)カ
- (2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。

〔思考力,判断力,表現力等〕B(1)ア

(3) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

〔思考力,判断力,表現力等〕B(1)ウ

- (4) 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の 文章のよいところを見付けることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)カ
- (5) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを 伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

2 教材名

読み手が納得する意見文を書こう 「あなたは、どう考える」 (光村図書 5年 銀河)

3 児童の実態

男子13名,女子12名(知的障害学級在籍1名・肢体不自由学級在籍1名)計25名のクラスである。自身で実施した7月の授業では、一生懸命に取り組み、最後まで取り組もうとしている姿が見られた。一方で、課題を理解できずに諦めてしまったり、分からないことがあると、自分で考えずに友達に頼りっきりになってしまったりする児童もいた。

○国語科の学習に関わって

児童は、これまでの書くことの学習で、観察文や説明する文、報告文、手紙など、様々な文の種類の書き方の学習を繰り返し行ってきている。1学期に行った「みんなが過ごしやすい町へ」の単元で

は、調査報告文(引用しながら調べたことを正確に伝える文章)を書く学習を行っている。児童は、自分が伝えたい町の中にある物に関してインターネットや書籍から情報を探し、そのことについて書き抜くということができた。しかし、町の中の工夫の何を伝えたい報告文なのか目的が明確になっていないため、文章を読んでも児童の伝えたいことが分かりにくくなってしまった。また、調べる目的もあいまいなまま調べ学習をしてしまい、多くの児童が工夫された物を詳しく調べてしまい、報告文で書くべき内容とは違った文章を書き上げてしまった。

○事前アンケートの結果から

書くことに関するアンケート(6月9日実施)から、これまでに学習してきた文の種類(観察文、日記、俳句など)を多くの児童が知っていた。また、文章を書くことは、得意・どちらかといえば得意と答えた児童は、全体の半数、苦手・どちらかといえば苦手と答えた児童も、全体の半数だった。このことから、クラスの半数近くの児童が書くことに苦手意識をもっていることが分かった。しかし、7月に行った授業では、苦手・どちらかといえば苦手と答えた児童のほとんどが報告文を書くことができていた。その内容を見ると、まとめの段落に調べて分かったことを書くことができた。しかし、調べたことを基に、自分で思ったことや考えたことを伝えることができていなかった。これは、自分の伝えたいことを明確にしていないことが原因だと考える。このことから、本単元では、自分の考えを明確にし、児童の思ったことや考えたことが伝えられるようにしていきたい。

4 指導の内容と言語活動, 教材のかかわり

(1) 言語活動設定の意図

- ○目的意識 読み手が納得する意見文を書くために
- ○相手意識 クラスの友達に対して
- ○場面状況意識 主張や理由を書いたり体験したことや調べてきたことを書いたりする場面で
- ○方法意識 意見文を書くことを通して
- ○評価意識 自分の伝えたいことを明確にして、自分の考えが読み手に伝わるように工夫

して文章を書くことができた

(2) 教材の特徴

ア 教科書教材「あなたは、どう考える」

本教材は、初めに新聞の例を取り上げ、そこから順に意見文を書くための基本的なポイントがまとめられて示されている。教材のポイントが3つある。

まず、新聞の投書の例が示されていることである。これは、新聞の投書では、自分の意見を他者に伝えているということに触れ、児童の興味関心を高めている。そして、投書の記事から賛成・反対を考えて自分の意見を表現している。このように、意見文を書く時には、誰かの意見に対して、賛成か反対か、立場を明らかにすると書き進めやすい。また、その他者の意見自体が素材となり、反論ともなる。意見をもつための例として、新聞の投書の例が最初に示されている。

次に、意見文を書く時に、他の立場を想定することが促されていることである。これまで学習してきた意見文では、引用をして自分の主張をより説得力のあるものにするということを学んできた。今回の学習では、他の立場を考えることによって、自分の意見だけを主張するのではなく、読み手が抱く疑問や反論に対して配慮する態度を見せる。それとともに、客観的に検証されている文章であることを伝えることにもつながる。つまり、説得力が増すのである。5年生では、一人で他の立場につい

て考えることが難しいので、友達との交流を通して考えるようにしている。

三つ目に、理由と根拠を重視していることである。読み手を納得させるためには、よい理由が必要である。さらに、その理由を支える根拠が示されると説得力が増すのである。文例では、人の言葉やパンフレットからの引用を根拠として挙げている。このように、児童が意見文を書く時にも統計による数字、他者の言葉、自身の体験などを根拠として挙げることで、意見文の説得力を増していけるようにしたい。

根拠を述べるときに、それが自分の考えなのか、人の話したことなのか、何に書かれていたことなのかを区別して書く必要があるということに気を付けさせたい。文例では、「と言っていました。」、「講師の町田さんは、」、「けいび会社からもらった『子ども防犯ブック』には、」などの表現でその区別が分かるように書いてある。このような表現を、児童が意見文を書く時の参考となるようにしたい。

イ 意見文を書く題材について

意見文を書く題材としては、賛成や反対の二者に立場が明確に分かれるものが意見をもちやすい。 また、児童が書きたいと思える題材を用意することで、児童は意見をもちやすくなる。児童の関心を 考えながら、題材を示して選べるようにしたい。本来ならば、自分の興味関心がある題材を選び意見 文を書くところだが、意見文を書く経験が少ないこと、理由や意見をもちやすくすること、友達と交 流するときに助言しやすいことを考え、教師が題材を用意することとした。題材としては、次の3つ である。

- ①学校の昼食は、給食がいいかお弁当がいいか。
- ②本やマンガを読むのは、電子書籍がいいか紙がいいか。
- ③スマホは小学生から持つ方がいいか、持たない方がいいか。

この3つの中から、児童は自分の興味関心があるものを選び、意見文を書くようにしていく。

(3) 指導について

本単元は、意見文を書く学習である。意見文とは、ただ自分の思ったことを書くということではなく、読み手が納得するということ、すなわち、書き手と同じ考えになることを目ざして書く種類の文章である。本単元では、意見文を読む相手は、クラスの友達と設定し、クラスの誰が読んだとしても納得するように書くことを目ざす。そのための方法として、理由と根拠を具体的に示すこと、他の立場から主張を見直し考えを述べることを文章に取り入れて書いていく。

授業では、思考する時間や記述する時間の確保、机上を整理するなどの面から、ノートは使わずワークシートのみを使用する。しかし、学習したことを残していくことは大変重要である。毎時間の板書を一人一台端末のクラスルームにアップし、児童が端末でいつでも振り返れるようにしておく。調べ学習だけではなく、このような形でもICTを活用していく。

本単元の指導事項は、「B書くこと」領域のア,ウ,カである。本単元で、資質・能力を高めるために、次のことを工夫しながら指導する。

伝えたいことを明確にするために

- ・児童に提示する題材は、児童が意見を持ちやすいテーマや答えが二者となるものを選ぶ。そのこと で児童は自分事として考えやすくなる。児童の関心を考えながら、題材を選ぶ。
- ・理由や根拠を考えるときに、データや体験などが具体的で客観的なものになるように、タブレット

や書籍を使って調べ学習をしたり、自分の経験や体験を思い出させたりするために指導をする。

・既存のワークシートを活用した「学習ヒント集」を作成し、考え方に困ったときにそれを活用して 考えるようにする。

書き表し方を工夫するために

- ・教科書の文例を基に、意見文を書く時の構成や表現方法を意識させることで、文章を書くときのヒントにする。
- ・「学習ヒント集」では、理由や根拠が明確になるように、また構成を考える中で自分の考えが明確に なるようにするためのヒントを提示する。

自分の文章のよいところを見つけるために

- ・友達との意見の伝え合いの観点をしっかりともたせ、意識させながら交流をさせる。
- ・授業前に書いた文章と授業で意見文について学んだ後で書いた文章とを比べて,自分の文章で変わったところを見つける。

(4) 言語活動について

本単元では、児童に指導事項を身に付けさせるために、「B書くこと」の言語活動例「 \mathcal{T} 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動」から、言語活動を「読み手を納得させる意見文を書こう」と設定した。意見文を書いた経験は、4年生の時に1回のみで、5年生では初めて学習する。5年生では、説得力のある意見文にするために、反論とそれに対する考えを入れる。主張、理由、根拠、そして反論についてもよく考え、読み手が納得する文章にするために、考える時間を確保する。

意見文を書くことにあたっては、二つのポイントを示したい。一つは、自分の主張を見直すために、 友達に読んでもらうことである。5年生の児童にとって、一人で客観的な視点をもつのは難しい。友 達に読んでもらうことで、理由や根拠の選択に助言をもらうことができる。もう一つは、児童が学習 をしていくための手助けとなるワークシートを用意し、スムーズに学習が行えるようにすることであ る。また、拡大したワークシートのヒントを掲示することで、ワークシートに記入する時や構成メモ から文章にする時に、児童は自分の力で文章を書けるようになる。

5 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------|--------------------|----------------|
| ①文の中での語句の係り | ①「書くこと」において,目的や意図に | ①粘り強く,自分の考えが伝わ |
| 方や語順, 文と文との接 | 応じて, 感じたことや考えたことなど | るように書き表し方を工夫 |
| 続の関係,話や文章の構 | から書くことを選び, 集めた材料を分 | し,学習の見通しをもって, |
| 成や展開,話や文章の種 | 類したり関係付けたりして, 伝えたい | 意見文を書こうとしている。 |
| 類とその特徴について | ことを明確にしている。(B(1)ア) | |
| 理解している。 | ②「書くこと」において、目的や意図に | |
| ((1)力) | 応じて簡単に書いたり詳しく書いた | |
| | りするとともに,事実と感想,意見と | |
| | を区別して書いたりするなど, 自分の | |
| | 考えが伝わるように書き表し方を工 | |
| | 夫している。 (B(1)ウ) | |
| | ③「書くこと」において,文章全体の構 | |
| | 成や展開が明確になっているかなど, | |
| | 文章に対する感想や意見を伝え合い, | |
| | 自分の文章のよいところを見つけて | |
| | いる。(B(1)カ) | |

6 指導と評価の計画 (B「書くこと」31時間中の6時間)

| 次 | 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
|-------|--------|---|---|--|
| 第 1 次 | 1 | ○教科書 P175 の新聞の投書例を読み意見文について関心をもつ。○単元の見通しをもつ。○教科書 P175 と P178 の文例について、書き表し方の工夫を見つける。 | ・新聞の投書例から、意見文について 分かったことや考えたことを自由に 出させ、児童が意見文について関心 をもてるようにする。 ・単元の見通しをもてるようにする。 ・教科書の文例から、工夫を見つける ようにする。意見文を書くときに大 切な主張、理由、根拠について、そ の意味や文例の中で書かれている箇 所を確認しながら捉えさせる。 | [主体的に学習に取り 組む態度①] 記述・発言 文例と自分の書いたも の,文例と文例を比べ, 書き表し方の工夫を見 つけようとしている。 |
| | 2 【本時】 | ○文例と自分の書いたものを 比べて、違いについて考える。 ○教科書 P175 と P178 の文例 を読み、納得のできる書き 方はどちらの文か考える。 ○予想される反論とそれに対 する考えについて知る。 ○よりよい意見文にするには どのような観点が必要か知る。 | ・岡本さんと木原さんの文例を読み、 どちらの文章が納得できるか意見を 出させる。その時、児童にはどうし てそう思ったのか理由も聞くように する。 ・以前書いた文章の中に、意見文を書 く時に大切な主張、理由、根拠、文章 論が書かれているか確認させ、文章 をよりよくするためにはどうしたら よいかを考えさせ、ノートに書かせ る。 | 集めた材料を分類した り関係付けたりして, 伝 えたいことを明確にし ている。 |

| 第 2 次 | 3 | ○よりよい文章にするために、内容を考える。 ・理由や根拠を考える。 ・根拠を調べ選択する。 ○選んだ理由と根拠を友達と伝え合う。 ○予想される反論とそれに対する考えと理由をワークシートに書く。 | ・題材に対して、どのような理由や根拠が挙げられるか、考えたり調べたりする時間を設ける。 ・理由や根拠は、付箋紙に書かせる。 ・友達と伝え合うときの視点を伝え、友達と交流する場を設ける。 ・反論を想定し、それに対する考えを付箋紙にまとめさせる。 | [思考・判断・表現①] 記述 集めた材料を分類した り関係付けたりして, 伝 えたいことを明確にし ている。 |
|-------|---|--|--|---|
| | 4 | ○構成メモを作る。○友達と構成メモを読み合い,説得力があるか,付け足した方がよいことがあるか伝え合う。○意見文を書く。 | ・構成メモの作り方を確認し、構成メモを作らせる。 ・友達と構成メモを読み合う時の視点を確認し、交流させる。 ・構成メモを基に、言葉を足しながら文章を書く。文末を整えることや接続語を使うこと、書き出しの例や事例の述べ方の例など、実際に書くときの手立てを提示する。 | [知識・技能①] 記述 意見文の構成や特徴を 理解している。 |
| | 5 | ○意見文を書く。・構成メモを基に下書きをする。・推敲をする。・清書をする。 | ・構成メモを基に、言葉を足しながら 文章を書く。文末を整えることや接 続語を使うこと、書き出しの例や事 例の述べ方の例など、実際に書くと きの手立てを提示する。 ・下書きをした文章を読み直し、誤字 脱字がないか、文章が間違えていな いかを確認させる。 ・下書きを基に、清書させる。 | [思考・判断・表現②] 記述 目がや意図に応じてくい。 目ができいたとともに、区ででは、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一点では、一 |
| 第 3 次 | 6 | ○自分の意見文を読み、よさを考える。・友達と読み合い、感想を伝え合う。・以前書いた文章と読み比べ、自分の文章のよさに気づく。○学習を振り返る。 | ・文章のよいところを中心に伝え合い,できるようになったことを児童自身が感じられるようにする。また,自分で書いた文章を読み比べ,よくなったところに気づかせるようにする。 ・振り返りでは、身に付けた力を確認するとともに、これからの学習で生かしていきたいことを書くようにさせる。 | [思考・判断・表現③] 発言・記述 文章の説得力などの観 点で、感想を伝え合い、 自分の文章のよいとこ ろを見つけている。 |

- 7 各時間の展開
- 1時間目の展開
- (1) 日時 令和4年11月11日(金) 1校時 (8:50~9:35)
- (2)場所 5年教室
- (3) 本時の目標 意見文について関心をもち、文例を読んで、書き表し方の工夫を見つけることができる。

(4) 展開

| (4 |) 展開 | | |
|----|-----------------------|--------------------|--------|
| 過 | 学習内容 | 指導上の留意点 (・) | 資料 (※) |
| 程 | 予想される児童の反応 (○) | 研究に関するポイント(☆) | 評価 |
| | 1 新聞の投書例(教科書 P175)を読ん | ・投書例を読み、賛成、反対かなど簡単 | ※大型モニ |
| 導 | で、意見文について関心をもつ。 | な感想を出し合う中で、意見文につい | ター |
| 入 | ○私は、名前で呼んでほしいな。 | て関心を高めるようにする。 | ※ワークシ |
| 8 | ○私は、番号の方がいいな。 | | - F(I) |
| 分 | ○今は、番号が画面に出ていて自分で確 | ・岡本さんの投書例を児童に分かりやす | |
| | 認するよ。 | く提示することで、木原さんへの例文 | |
| | ○前に病院に行った時、番号が画面に出 | への意識を高めるようにする。 | |
| | ていて,看護師さんが名前でも呼んで | ☆ワークシート① (文例の提示) | |
| | くれたよ。 | | |
| | ○「投書」というものを知らなかった | | |
| | よ。 | | |
| | ○投書というのは,自分の経験したこと | | |
| | が書いてあるな。 | | |
| | ○最後に「よいのではないでしょうか」 | | |
| | と書いてあるから、読む人に呼びかけ | | |
| | ているようだな。 | | |
| | 2 単元の学習課題を設定する。 | ・これまでに意見を述べた文書を書いた | |
| | ○意見文は4年生の時にも書いたけど, | ことがあるか振り返り、書き方への関 | |
| | あまり覚えていないな。 | 心をもたせる。 | |
| | ○文章だから、「初め・中・終わり」で | | |
| | 書くのかな。 | ・児童は事前に,自分で文章を書いてい | |
| | ○読み手が納得する文章ってどういう文 | るので、その文章をより「説得力」の | |
| | 章なんだろう。 | ある文章にするように意欲をもたせ | |
| | ○書くのかあ。 | る。 | |
| | ○難しそうだな。 | ☆授業前に決めた題材で文章を書かせ | |
| | | る。(学習後の文章と比べるため) | |
| | 単元のめあて | | |
| | 読み手が納得する意見文 | を書こう。 | |
| | | | 1 |

| | 3 文例を読み、書き表し方の工夫を見 | | |
|-------------|---|---|---------------------|
| 展開 | つける。 | | |
| 30 | 本時のめあて | | |
| 分 | 意見文について知り, 書き表 | そし方の工夫を見つけよう。 | |
| | 岡本さんの投書例を読んで考える。○自分が経験したことが書いてある。○自分の考えを最初と最後に書いている。 | ・投書例の表記の仕方は、新聞の表記と同じなので、P178の木原さんの文例と同じ形にして、児童に視覚的に分かりやすくしておく。 ☆ワークシート①(文例の提示) | ※ワークシ |
| | ○お母さんの考えも書かれている。○4つの段落に分かれている。木原さんの文例を読んで考える。 | ・板書において2つの文例を視覚的に分かりやすく提示することで、児童が比較しやすいようにする。 | ート① ※ワークシ ート② |
| | ○自分が経験したことが書いてある。○自分の考えを最初と最後に書いている。○反対の考えも書かれている。 | ・文例にサイドラインを引き、主張、理由、根拠を視覚的に分かりやすくする。 | |
| | ○ 原内の考えも書かれている。○ 事実が書いてある。○ 言い切りの形で書いてある。○ 自信を持っているようだ。○ 本からの引用されたことが書いてあ | ・「反論」に関する発言が出たときは、 全体に広げて、工夫の1つとして意識 させる。 | |
| | る。 | ・岡本さんや木原さんの工夫をワークシート②に記入させる。 | [思考力・ 判断力・表 |
| | 岡本さんの投書例と木原さんの文例の共 通点を見つける。 ○4つの段落に分かれている。 | ◎岡本さんの投書例と木原さんの文例の 共通点を問う。 | 現力①] 記述・発言 |
| | ○自分の考えを最初と最後に書いている。○経験したことが書いてある。 | ・主張、理由、根拠について、その意味や文例の中で書かれている箇所を確認しながら、書き表し方の工夫をとらえさせる。 | |
| | 4 意見文の書き表し方の工夫についてまとめる。○意見文にはまず,自分の主張が書かれているな。○4つの段落の構成なんだな。 | ・意見文を書く時の観点を事後にも使えるように、ワークシートを活用させる。 ☆ワークシート①(文章の構成) | ※ワークシ ート① |
| | ○最後にも自分の考えが書いてあるから、その人の考えがよく分かるな。○経験したことが書いてある。○なんか違う考えも書いているな。 | ・反論の部分については次時に深めていくので、ここでは軽く触れておく程度にしておく。 | |
| 終 末 7 | 5 本時を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。○学習感想を書き、今日の学習を振り返る。○今後の学習の見通しをもつ。 | ・今日の学習で学んだことを振り返らせる。・次時は、自分の文章をより説得力のある文章にするにはどうするのかを考えていくことを確認する。 | ※振り返り ワークシー ト |
| 分 | - C 1 以い 1 日い元配 U E U 7。 | С • | |

意見文を書くときには、

主張・理由・根拠を示す。

四つの段落に分かれている。

大型モニター

なる。 この書き表し方の工夫で、より説得力のある文章に

板書計画

四つの段落に分けて書く。 中に違う意見も書く。

岡本さんの工夫

最初と最後に

四つの段落

最初と最後に自分の考えが書いてある。 つの文章の共通点

四つの段落

木原さんの工夫

最初と最後に

ワークシート①を拡大したもの

病院に・・・

名前でよんでほしい 岡本 ちひろ は番号がよい安全のために、 しは番号が・・・ ぼくは、病院のよび出木原 良 よび出し

十一月十一日

金)

「あなたは、どう考える」

単元のめあて

今日のめあて

意見文について知り、

書き表し方の工夫を見つけよう。

読み手が納得する意見文を書こう

教科書

一七五ページの文例

- 2時間目の展開(本時)
- (2) 場所 5年教室
- (3) 本時の目標 文例と最初に書いた文章を比べて、意見文の理解を深めることができる。
- (4) 展開

| 渦 | 学習内容 | 指導上の留意点(・) | 資料 (※) |
|----------|--|--|--|
| 程 | 予想される児童の反応(○) | 研究に関するポイント(☆) | 評価 |
| 導入 3 分 | 1 前時までの学習を振り返る。 ○意見文には、主張や理由や根拠ということが書かれていたな。 ○4つの段落に分かれていた。 ○意見文とは、題材や他の人の考えに対して、自分の考えをまとめて書いたものだ。 ○何か違うことがかいてあるところがあった。 | 単元のめあてを確認しながら、今日の 学習活動の目的を確認させる。 ・前時におさえた、主張、理由、根拠に ついて再度確認し、それ以外の部分 (反論とそれに対する考え)があることに気づかせる。 | ※大型モニ ター① |
| | 本時のめあて 教科書にある文例と自分の文章を比 | べながら,意見文について理解しよう | 0 |
| 展 開 35 分 | 2 文例と自分が書いた文章を比べて, 違いについて考える。○自分の文章に主張,理由は書かれている。○根拠に挙げていることが,はっきりしない。○理由と根拠の違いがよく分からない。○反論の部分がない。 | ・文例に引いたものと同じように,自分 の文章にサイドラインを引くことで, 文例がより説得力のある文章であるこ とに気づかせる。 | ※自分が書いた文章※ワークシート① |
| | 3 作例を読み、どちらの文例の方が納得できる文章か考える。 ○木原さんの文章の方が納得できるな。 ○本原さんの方が納得できるな。 ○木原さんの方が、言い切っていて自信がある感じがするから。 ○木原さんの根拠に学校の安全教室で聞いた話を書いているから、分かりやすい。 ○本原さんは、「子ども防犯ブック」に書かれている文章を引用しているから分かりやすい。 ○岡本さんの方が、優しく話しかけるように書いているから好きだな。 | ・教科書 P178 と P175 の文例を読み比べ、児童にどちらの文章の書き方が納得できるかを聞くことで、木原さんの文章の書き方のよさに気づかせる。 ・岡本さんの書き方を選んだ児童の考えも尊重するようにする。 ☆2つの文章の違いに気づくように、ワークシートを工夫する。 | |
| | 4 反論について考える。○反論が書かれていないと,説得力が弱まる感じがする。○自分の思ったことしか言っていないよ | ・反論については、児童が初めて学ぶことでもあるので、書き方ではなく、反論があることによる文章の効果が理解 | ※大型モニター② |

| 補助 | 資料4 検証授業学習指導案 | | |
|--------|--|---|--|
| | うな気かする。 ○なんだか物足りないような気がする。 ○反論が入っていると,説得力が増す感 | できるようにする。 | |
| | じがする。 | | |
| | 5 よりよい意見文にするには、どのような観点が必要か知る。 | ◎よりよい意見文にするためには、どのような観点が必要か問う。 | |
| | ○自分の文章は根拠の部分がよく分から ないから,もっと具体的に書いてみよ う。 | ☆ワークシートを使いながら,文章の構成に気付かせ,より説得力のある文章 にするには何が必要となるのか考えを | |
| | ○具体的に書くためには、何か資料が必要だな。 ○違う立場から意見を見つめ直してみる | 深められるようにする。 (ワークシート①, ②) | ※ワークシ ート①, ② |
| | と,読んだ人も納得してくれるかな。 ○木原さんみたいな引用できる資料はないかな。 | | |
| | ○岡本さんのように、家族の言葉も入れてもいいな。 | | |
| | ○自分が経験したことを書いてみると, 読んだ人により伝わりやすくなるな。 | | |
| | 6 よりよい文章にするために、理由と 根拠を選び、分類する。 | | ※ホワイト ボード |
| | ○この理由では納得してもらえないから、もっと考えてみよう。○理由に対する根拠が、もっと説得力の | ・タブレットを使い,資料を集められるようにする。・集めた理由や根拠は、付箋紙に書かせ | ※拡大した |
| | あるものになるように, 具体例を書いてみよう。 ○家族にも聞いてみて, 意見を聞いてみ | る。 理由…緑色の付箋 根拠…黄色の付箋 | ト③のヒン |
| | よう。 ○図書室に何か関係する資料があるか | ☆ホワイトボードにヒントを掲示し、調 | [思考力・ 判断力・表 現力①] |
| | な。 | ベ学習の手立てを示すようにする。 | 記述・発言 |
| 終 | 7 本時を振り返り、次時への学習の見通しをもつ。 | ・今日の学習で学んだことを振り返らせ | ※振り返り |
| 末 | ○学習感想を書き、今日の学習を振り返 | る。 | ワークシー |
| 7 | る。 ○今後の見通しをもつ。 | ・次時は、理由や根拠について考えていく ことを確認する。 | - |
| · 分 | | C C PERU / VO | |
| | | | |

板書計画

反論を入れる。

反論に対する考えを書く時に根拠を入れた方が、 説得力が高まる。

説得力が高まる。 ○自分の文章を読んでみよう。

もっと良い文章にす

るにはどうしたらよいか。

情報を探す。

・根拠を入れる。 根拠にはデータを入れるように、 理由をもっと入れる。

反論とそれに対する考えを書く。

のある文章になる。 主張・理由・根拠・反論を入れる工夫で、より説得力

大型モニター(1)

反論が入っている意味 ワークシート①を拡大したもの

先日、 病院に・・・

けがをして

名前でよんでほしい

岡本 ちひろ

は番号がよい 安全のために、

> よび 山

意見文について理解しよう。

教科書にある文例と自分の文章を比べながら、

しは番号が・・・ ぼくは、病院のよび出木原 良

大型モニター②

○意見文を書く時に大切なこと 主張・理由・根拠を示す。

中に違う意見も書く。 つの段落に分けて書く。

理由…どうしてそういえるのか自 分の考えのこと。

主張…自分の意見や思いのこと。

根拠:: 経験や体験、データ(数字)、 名言、知識・見聞きしたこと。

| 木原さんの文例 |
|---------|
|---------|

単元のめあて

「あなたは、どう考える」

今日のめあて

読み手が納得する意見文を書こう

+

月十四日

月

| かヒント | |
|------|--|
| ſ | |
| ークシー | |
| 3 | |
| | |

3時間目の展開

- (2) 場所 5年教室
- (3) 本時の目標 集めた理由や根拠を友達と読み合って、説得力のある理由や根拠を選ぶことができる。

(4)展開

| 過 | 学習内容 | 指導上の留意点(・) | 資料 (※) |
|--------|---|---|--|
| 程 | 予想される児童の反応(○) | 研究に関するポイント(☆) | 評価 |
| 導入 5 分 | 1 前時までの学習を振り返る。 ○意見文を書く時には、主張、理由、根拠、反論とそれに対する考えを書くといい。 ○反論を入れた方が、説得力が増す。 ○根拠は、具体的なデータや体験を書くと分かりやすい。 ○もっとよい意見文にするには、理由や根拠を探さなきゃ。 | 単元のめあてを確認しながら、今日の学習活動の目的を確認させる。 ・前時に学習した主張、理由、根拠、反論について思い出させ、理由や根拠にはどのようなものがよいのかを確認するようにする。 | ※大型モニター |
| | 本時のめあて集めた理由や根拠を友達と読み合っ | って,説得力のある理由や根拠を選ぼう | 0 |
| 展開①20分 | 2 文章に取り上げる理由と根拠を選ぶ。 ○家の人に聞いてきたから、それを書いてみよう。 ○理由をもっと考えてみよう。 ○木原さんみたいに根拠になるデータがあるかな。タブレットで調べてみよう。 ○これまで経験したことで、言えることが思い浮かんだから書いてみよう。 ○どの理由がいいかな。友達が分かりやすいのがいいかな。 ○根拠は、どちらがいいかな。具体的なデータの方がよかったな。 | ・前時のワークシートを見て,よい意見 文にするための考えを振り返り,理由 や根拠を集めさせる。 ・集めた理由や根拠は,付箋紙に書かせ る。 理由…緑色の付箋 根拠…黄色の付箋 セプークシートに付箋紙を貼りつけ,整 理しやすくする。 | ※ワークシート③※付箋紙※拡大したワークシート③ |
| 展開②15分 | 3 友達と読み合って助言し合い、他の立場から自分の主張を見直す。 ○どうしてそう考えたかが理由と根拠からわかったよ。 ○根拠は、具体的なことが書いてあって分かりやすいね。 ○僕も同じことを感じたことがあるから、言いたいことが分かるよ。 ○私は、そのことについて分からないから、もう少し詳しく教えて。 ○その意見は、こう考えられるんじゃな | ◎どのような助言をすればよいか考えさせる。 ・友達と交流する時のポイントを確認し、できるだけ多くの友達と交流させる。 《話すときのポイント》 ・選んだ理由と根拠について説明をする。 ・なぜ、その理由と根拠を選んだのか。 | ※大型モニターター※ワークシート③ |

| | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | | |
|------|---|--|------------------------------|
| | いかが。 | ・選ばなかったものの訳を話す。《聞くときのポイント》・理由や根拠に説得力があるか。・分かりにくい言葉はないか。・付け足した方がよいところはないか。・こんな考え方もあるよ。 | ※ワークシ |
| | 4 よりよい意見文にするために、反論とそれに対する考えを書く。 ○違う立場から意見を考えてみよう。 ○反論を考えるのが難しそうだな。 ○さっきの交流で友達が言っていたことが反論に使えそうだな。 | より説得力のある文章にするために、 反論とそれに対する考えを書くことを 助言する。 | ート④ ※拡大した ワークシー ト④ |
| | ○反論に対する考えを考えるのが難しそうだ。 | ☆ワークシート④のヒントを掲示することで、反論を考えやすくする。 | [思考力・ 判断力・表 現力①] 記述 |
| 終末7分 | 5 本時を振り返り、次時への学習の見通しをもつ。○学習感想を書き、今日の学習を振り返る。○今後の見通しをもつ。 | ・今日の学習で学んだことを振り返らせる。 ・次時は、反論を仕上げて、構成メモを 作成し、文章を書き始めることを確認 する。 | ※振り返り ワークシー ト |

板書計画

| | 「あなたは、どう考える 十一月十五日(火) |
|--|------------------------|
|--|------------------------|

大型モニター

単元のめあて

○友達と構成メモを読み合おう

《話すときのポイント》
る。

☆なぜ、その理由と根拠について説明をする。
か。

☆母かりにくい言葉はないか。
☆付け足した方がよいところはないか。
か。
か。

☆こんな考え方もあるよ。

ホワイトボード



4時間目の展開

- (2)場所 5年教室
- (3) 本時の目標 説得力のある文章になるように、文章全体の構成を考え、意見文を書くことができる。

(4) 展開

| (4 |) 展開 | | |
|---------|---|--|--|
| 過 | 学習内容 | 指導上の留意点(・) | 資料 (※) |
| 程 | 予想される児童の反応 (○) | 研究に関するポイント(☆) | 評価 |
| 導入 3 分 | 1 前時までの学習を振り返る。 ○違う立場から意見を考えてみたよ。 ○反論を考える時は、もし○○だったらと考えるといいね。 ○反論だけではなく、それに対する考えを書くんだね。 ○今日は、反論とそれに対する考えを考える続きだな。 本時のめあて 説得力のある文章になるように | ・単元のめあてを確認しながら、今日の学習活動の目的を確認させる。 ・前時におさえた反論とそれに対する考えを書くことを思い出させ、反論を考えることを意識させる。 本構成を考え、意見文を書こう。 | ※大型モニター |
| | が付分の人手になるように | 一冊成を与え、思光スを自こう。 | |
| 展開 35 分 | 2 よりよい意見文にするために、反論とそれに対する考えを書く。 ○反論に対する考えは、どのようなことにしようかな。 ○昨日の友達のアドバイスをヒントに、反論を考えてみよう。 ○岡本さんみたいに、お母さんが言っていたことを書こうかな。 ○反論に対する考えが難しいな。 | ・反論を想定し、それに対する自分の考えをまとめさせ、付箋紙にかかせる。 反論…青色の付箋 理由…緑色の付箋 根拠…黄色の付箋 材したりするようにする。 | ※拡大したワークシート④※ワークシート一トの一、表力・表現力①記述 |
| | 3 自分で構成メモを作る。 ○たしか教科書の文章は、初め・中・終わりの順で書いていたな。 ○初めと終わりは、主張を書いていたな。 ○反論は、理由と根拠の後に書くよ。 ○初めのすぐ後ろに反論があると、変な感じがするな。 ○これでは、説得力がないような感じがする。 ○自分の考えを言った後に反論を持ってきた方がいいな。 | ◎どうすれば説得力のある文章になるか構成を考えさせる。 ・どうしてその順に並べたのかを考えさせる。また、全員が文例のような順に並べられた時には、反論を初めのすぐ後ろに並べさせ、説得力がある文章になるかを考えさせる。 | ※ワークシート③④⑤[知識・技能①]記述 |

| | 4 自分の伝えたいことが伝わるように | ・完成させた構成メモを見ながら,自分 | ※作文用紙 |
|---|--------------------|--------------------|---------|
| | 工夫しながら構成メモから文章にす | の伝えたいことが伝わるように工夫し | |
| | る。 | ながら文章を書くようにする。 | |
| | | ・児童に質問をしながら、説明を加え、 | |
| | | 気を付けることを確認していく。 | |
| | | ☆1・2時間目にまとめた観点を確認す | |
| | | る。 | |
| 終 | 5 本時を振り返り、次時への学習の見 | ・今日の学習について、振り返りワーク | ※振り返り |
| _ | 通しをもつ。 | シートにまとめさせる。 | D. A.S. |
| 末 | ○反論を考えることができた。 | ・次時は、意見文を完成させることを確 | ワークシー |
| 7 | ○意見文の文章の構成の仕方は、初め・ | 認する。 | F |
| 分 | 中・終わりで書く。主張,理由と根 | | |
| | 拠,反論,主張の順で書くと説得力が | | |
| | 高まる。 | | |

板書計画 ○意見文を書こう。 ○構成メモを作ろう 根拠…黄色の付箋 理由…緑色の付箋 反論…青色の付箋 今日のめあて 十一月十六日 ○反論とそれに対する考え 自分の考えに対して、「でも―」と反論してみる。 他の立場から見直すとき 文を書こう。 説得力のある文章になるように構成を考え、 主張、 四段落で書こう。主張、 文末をそろえよう。 初め、中、終わりの順で書く。 「あなたは、どう考える」 反論は、理由と根拠の後の方が分かりやすい。 反論を入れることで、 だれが読んでも分かりやすい理由や根拠になってい 「もし―だったら」と考えてみる。 るかな。 理由と根拠、 (水) 反論、 説得力が増す。 理由と根拠、 主張の順で並べる。 反論、 主張 意見

大型モニター

② 文 末 事実 こと。 ⑤接続語 引用する時は、 ④引用の仕方 空ける。 四段落で書く。 ③段落構成 敬体…~です。 常体…~だ。 考え 自分が考えたことや思った 単元のめあて ①事実と意見を分ける 付けること ○構成メモから文章にする時に気を 反論のときに「しかし」を使う。 読み手が納得する意見文を書こう 出来事や調べたことなど。 段落の最初は 「」を付ける。 ~である。 ~ます。 ママ ス

5時間目の展開

- (1) 日時 令和4年11月17日(木) 6校時 (14:45~15:30)
- (2)場所 5年教室
- (3) 本時の目標 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し意見文を書くことができる。
- (4) 展開

| 過 | 学習内容 | 指導上の留意点(・) | 資料 (※) |
|--------|--|--|-----------------------------|
| 程 | 予想される児童の反応(○) | 研究に関するポイント(☆) | 評価 |
| 導入 3 分 | 1 前時までの学習を振り返る。○意見文を書くための構成メモを作った。○どのように並べれば自分の伝えたいことが伝わるか考えた。めあて自分の考えが伝わるように書き | ・単元のめあてを確認しながら、今日の 学習活動の目的を確認する。 ・前時に出来上がった構成メモを基に、 意見文を書いていくことを確認させ る。 表し方を工夫し意見文を書こう。 | |
| 展 | 2 自分の伝えたいことが伝わるように | ◎教科書の文例を見直し、文章のポイン | [思考力・ |
| 開 | 工夫しながら構成メモから文章にす | トを探す。 | 判断力・表 現力②] |
| 35 | る。 | ・教科書の文例を見させ、どのように書 | 現力②] 記述 |
| 分 | ○事実と意見を分ける。 | けばよいのかを確認するようにする。 | |
| | ○文末をそろえるようにする。 | | ※大型モニ |
| | ○段落は4段落で書く。 | ☆ワークシート①を使い、意見文を書く | ター |
| | ○引用するときには、「」を使う。 | 時に必要なことを思い出させる。 | ※ワークシ |
| | ○接続語を使う。 | | 一ト①⑤ |
| | ○段落の始まりは1マス空ける。 | | ※作文用紙 |
| | 3 下書きを推敲する。○字が間違えていないかな。○もう少し分かりやすい言葉にしようかな。○考えと事実は分けられているかな。○自分の伝えたいことが伝わるようになっているかな。 | ・「構成メモから文章にする時に気を付けること」の観点や誤字脱字がないかなどをチェックさせる。 | ※作文用紙 |
| | 4 清書をする。 | ・見直しが済んだら,きれいに清書させ て,意見文を完成させる。 | [主体的に 取り組む態 度②] 記述 |

 終
 5
 本時を振り返り、次時への学習の見通しをもつ。

 末
 の立張 理力 担地 ロネイストでまる。

- ○主張,理由,根拠,反論を入れて書く ことができた。
- ○根拠に経験を入れて書けた。
 - ○文末をそろえて書くことができた。

・記述の際に気をつけたこと, うまく書けたと思うところなどを, 振り返りワークシートにまとめさせる。

・次時は、意見文を友達と読み合うことを確認する。

※振り返り ワークシー ト

板書計画

7

分

| (書計画 | | |
|-------------|--|-----------------------------|
| ワークシート①の拡大図 | | 今日のめあて「あなたは、どう考える」十一月十七日(木) |

大型モニター

単元のめあて

○構成メモから文章にする時に気を付けること

○構成メモから文章にする時に気を付けること

②事実と意見を分ける

事実 出来事や調べたことや思ったこと。

事実 出来事や調べたことや思ったこと。

③段落構成

四段落で書く。段落の最初は一マス空ける。

④引用の仕方

⑤接続語

「〕を付ける。

6時間目の展開

- (1) 日時 令和4年11月18日(金) 1校時 (8:50~9:35)
- (2) 場所 5年教室
- (3) 本時の目標 友達と意見文を読み合って、自分の書いた意見文のよさを知ることができる。

(4) 展開

| 渦 | 学習内容 | 指導上の留意点(・) | 資料 (※) |
|---------|---|---|---|
| 程 | , , , , , , , | | |
| 住 | 予想される児童の反応(○) | 研究に関するポイント(☆) | 評価 |
| 導 入 3 分 | 1 前時までの学習を振り返る。○意見文が書き終わったよ。○友達はどんなことを書いているのか知りたいな。○文章のよさって何だろう。 | ・単元のめあてを確認しながら、今日の 学習活動の目的を確認する。・前時に仕上がった意見文を、友達と読み合ったり、自分で読んだりすること で、文章のよさに気付くことを確認させる。 | |
| | めあて 友達と意見文を読み合って, | 自分の文章のよさを知ろう。 | |
| 展開35分 | 2 ペアで意見文を読み合い,感想を伝え合う。○言いたいことが分かるよ。○字が上手だね。○4段落で書けているね。○何を伝えたらよいのか分からない。 | ◎文章のよさとは何か気づかせる。・最初は、何も視点を与えずに交流させる。視点をもって読むことの大切さを実感できるようにする。 | ※作文用紙 |
| | 全体で交流したことを出し、どのような 視点がよいか考える。 ○字の丁寧さを教えてほしいわけじゃな い。 | ☆意見文を書く時に大切なことを確認す る。 | |
| | ○納得できたかどうかを知りたいな。○説得力があったところはどこか知りたいな。 | ・「納得できる書き方だと思ったところ」など、よいところを中心に伝え合うようにする。内容と書き方の両面から感想を伝え合えるようにする。 | |
| | もう一度、ペアで意見文を読み合い、感想を伝え合う。 〇主張、理由、根拠が書かれていて、伝えたいことがよく分かったよ。 ○反論とそれに対する考えが書かれているところが説得力があるな。 ○根拠が具体的なデータになっているから説得力があるね。 ○説得力がある構成になっている。 ○分かりやすい言葉を使っているから、納得できたよ。 | ・よく書けている児童の意見文を全員で 共有する。また、授業後は、掲示して おき、全員の意見文を読み合うことが できるようにする。 | ※ワークシート⑥[思考力・割力・表現力・表現力・リー・作文用 |
| | 3 授業前に書いた文章と今回書いた文章を読み比べて、自分の文章が変わったところを見つける。○前に書いた文章に比べて、主張も理由も根拠も入っている。 | ・授業前に書いた文章と今回書いた文章 を読み比べるようにし、自分の文章の 変わったところに気づくようにする。 | |

| | ○反論とそれに対する考えが書けている。○読み手を納得させることができる文章なんじゃないかな。 | ☆授業前に書いた文章と今回書いた文章 を比べることで、自分の成長を感じら れるようにする。 | |
|---------|--|---|---------------------|
| 終 末 7 分 | 4 単元の学習を振り返る。 ○できるようになったことを書こう。 ○自分の文章のよさはどこかな。 ○友達が言ってくれたことを書こう。 | ・P179「たいせつ・いかそう」を参照して、本単元で身に付いた力を確かめさせる。 ・P179「ふりかえろう」を参照し、本単元の活動全体を振り返る。考えと事実の区別のしかたや納得するための工夫についてまとめさせる。 | ※振り返り ワークシー ト |

板書計画 付けたことは何ですか。 ☆考えと事実を区別するために、 今日のめあて ☆どのようなことが、 ☆説得力のある意見文になるように、どのような工夫 ○単元をふりかえろう ☆上手に書けたところ。 ☆前と比べて変わったところ。 ○自分の文章を読み比べてみよう ○意見文を読み合うときのポイント ○文章のよさとは 十一月十八日 ・事実と意見を分けて書いている。 ・主張、 を知ろう。 友達と意見文を読み合って、 $\stackrel{\wedge}{\sim}$ $\stackrel{\wedge}{\bowtie}$ 根拠が具体的なデータになっている。 「あなたは、どう考える」 たと思いますか。 をしましたか。 「いいな」と思うところをさがす。 「説得力があるな」と思うところをさがす。 理由、 根拠、 金 自分の考えを深めるのに役立 反論がはいっている。 自分の文章のよさ 言葉の使い方で気を

大型モニター

② 文末 事実 考え ⑤接続語 引用する時は、 ④引用の仕方 四段落で書く。 ③段落構成 敬体…~です。 常体…~だ。 単元のめあて ①事実と意見を分ける ○構成メモから文章にする時に気を付けるこ 反論のときに「しかし」を使う。 読み手が納得する意見文を書こう 自分が考えたことや思ったこと。 出来事や調べたことなど。 「」を付ける。 段落の最初は ~である。 ~ます。 マス空ける。

- 2時間目の展開(本時)
- (2) 場所 5年教室
- (3) 本時の目標 文例と最初に書いた文章を比べて、意見文の理解を深めることができる。
- (4)展開

| (4 |)展開 | | |
|-------|---|---|--|
| 過 | 学習内容 | 指導上の留意点(・) | 資料 (※) |
| 程 | 予想される児童の反応 (○) | 研究に関するポイント(☆) | 評価 |
| 導入3分 | 1 前時までの学習を振り返る。 ○意見文には、主張や理由や根拠ということが書かれていたな。 ○4つの段落に分かれていた。 ○意見文とは、題材や他の人の考えに対して、自分の考えをまとめて書いたものだ。 ○何か違うことがかいてあるところがあった。 | ・単元のめあてを確認しながら、今日の 学習活動の目的を確認させる。 ・前時におさえた、主張、理由、根拠に ついて再度確認し、それ以外の部分 (反論とそれに対する考え)があることに気づかせる。 | ※大型モニ ター① |
| | 本時のめあて 教科書にある文例と自分の文章を比 | べながら,意見文について理解しよう | 0 |
| 展開35分 | 2 文例と自分が書いた文章を比べて, 違いについて考える。○自分の文章に主張,理由は書かれている。○根拠に挙げていることが,はっきりしない。○理由と根拠の違いがよく分からない。○反論の部分がない。 | ・文例に引いたものと同じように,自分の文章にサイドラインを引くことで, 文例がより説得力のある文章であることに気づかせる。 「自分が書いた文章にも,サイドラインを引いてみよう。何か気が付くことがあるかな。」 | ※自分が書いた文章※ワークシート① |
| | 3 作例を読み、どちらの文例の方が納得できる文章か考える。 ○木原さんの文章の方が納得できるな。 ○岡本さんの方が納得できるな。 ○木原さんの方が、言い切っていて自信がある感じがするから。 ○木原さんの根拠に学校の安全教室で聞いた話を書いているから、分かりやすい。 | ・教科書 P178 と P175 の文例を読み比べ、児童にどちらの文章の書き方が納得できるかを聞くことで、木原さんの文章の書き方のよさに気づかせる。 ・岡本さんの書き方を選んだ児童の考えも尊重するようにする。 ☆ 2つの文章の違いに気づくように、ワークス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ | |
| | ○木原さんは、「子ども防犯ブック」に書かれている文章を引用しているから分かりやすい。○岡本さんの方が、優しく話しかけるように書いているから好きだな。4 反論について考える。 | ークシートを工夫する。 「引用のこと」「講師の話」「文末のこと」「最初と最後に主張が書いてある」「違う立場から意見を書いている」などを挙げたら、これが読み手を納得させる工夫にもつながるので、文例を確認しながら板書する。 | |
| | ○反論が書かれていないと、説得力が弱 | ・反論については,児童が初めて学ぶこ | ※大型モニ |

| LIII TA) | 具件件 快碰技术于日阳等米 | | |
|----------|---|---|--|
| | まる感じがする。 自分の思ったことしか言っていないような気かする。 ○なんだか物足りないような気がする。 ○反論が入っていると、説得力が増す感じがする。 5 よりよい意見文にするには、どのような観点が必要か知る。 ○自分の文章は根拠の部分がよく分からよう。 ○具体的に書くためには、何か資料が必要だな。 ○具体的に書くためには、何か資料が必要だな。 ○違う読んだ人もからま見を見つめ直してみる。と、読んだ人もからに、家族の言葉も入れいな引用できる資料はないな。 ○首が経験したことを書いてみると、読んだ人により伝わりやすくなるな。 | とでもあるので、書き方ではなく、反論があることによる文章の効果が理解できるようにする。 「反論がない文からは、どのように感じるかな。」 ◎よりよい意見文にするためには、どのような観点が必要か問う。 ☆ワークシートを使いながら、文章の構成にするには何が必要となるのか考えを深められるようにする。(ワークシート①) 主張、理由、根拠、反論を学習したので、それを自分の文章に生かしていきたいと思うようにする。 | ター② ※ワークシ ート② |
| | 6 よりよい文章にするために、理由と根拠を選び、分類する。 ○この理由では納得してもらえないから、もっと考えてみよう。 ○理由に対する根拠が、もっと説得力のあるものになるように、具体例を書いてみよう。 ○家族にも聞いてみて、意見を聞いてみよう。 ○図書室に何か関係する資料があるかな。 | ・タブレットを使い、資料を集められるようにする。 ・集めた理由や根拠は、付箋紙に書かせる。 理由…緑色の付箋 根拠…黄色の付箋 、☆ホワイトボードにヒントを掲示し、調べ学習の手立てを示すようにする。 | ※ホワイトボードボード大クのとりカ・リカ・・表力・一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次一次< |
| 終末7分 | 7 本時を振り返り、次時への学習の見通しをもつ。○学習感想を書き、今日の学習を振り返る。○今後の見通しをもつ。 | ・今日の学習で学んだことを振り返らせる。・次時は、理由や根拠について考えていくことを確認する。 | ※振り返り ワークシー ト |
| (5 |)評価規準 | | |

(5) 評価規準

評価規準B: 文例と最初に書いた文章を比べ、よりよい意見文にするために何が必要となるかを考え、 自分の経験や体験を付箋紙に書いている。

評価規準 A: 文例と最初に書いた文章を比べ、より説得力のある意見文にするために根拠と理由を考 え、タブレットや書籍から情報を集め付箋紙に書いている。

C への手立て: 文例やワークシートにまとめたこと、ヒントを基に、よりよい意見文にするために必要 なことを考えることができるようにする。

・根拠を入れる。

理由をもっと入れる。

板書計画

のある文章になる。 主張・理由・根拠・反論を入れる工夫で、より説得力 反論とそれに対する考えを書く。反論を入れる。 根拠にはデータを入れるように、

反論が入っている意味 説得力が高まる。

反論に対する考えを書く時に根拠を入れた方が、 説得力が高まる。

るにはどうしたらよいか。 ○自分の文章を読んでみよう。 もっと良い文章にす

大型モニター(1)

根拠:: 理由…どうしてそういえるのか自 経験や体験、データ(数字)、 名言、知識・見聞きしたこと。 分の考えのこと。

主張…自分の意見や思いのこと。

情報を探す。

大型モニター②

○意見文を書く時に大切なこと

中に違う意見も書く。 主張・理由・根拠を示す。 つの段落に分けて書く。

木原さんの文例 (反論を抜いた文章)

単元のめあて

「あなたは、どう考える」

今日のめあて

読み手が納得する意見文を書こう

意見文について理解しよう。

ワ

クシー

ト①の拡大図

教科書にある文例と自分の文章を比べながら、

一

月十四日

月

| の抗 | |
|-------------|--|
| 上大 | |
| ンし | |
| のヒント | |
| | |
| - ク シ | |
| シ | |
| ļ Ļ | |
| - 3 | |
| | |
| | |

補助資料5 検証授業のワークシート

名前をよんでほしい 意見文ワークシート① 月 В 名前 安全のために、よび出しは番号がよい

②本やマンガを読むのは、電子書籍がいいか紙がいいか。 ①学校の昼食は、給食がいいかお弁当がいいか。

にOをつけよう。そして、それ上の題材から一つ選んで、番号

③スマホは小学生から持つ方がいいか、持たない方がいいか、

岡本ちひろ (11)

すが、わたしは、名前でよばれるほうがいいと思 では、しんさつのときに番号でよび出されるので 先日、けがをして病院に行きました。その病院

いるのになかなか気づきませんでした。「三二三 がいは起こりません。 した。名前をよんでくれれば、このようなかんち 眷を、三三二眷だと思っていた。」と言っていま そばに近所のお年寄りがいたのですが、よばれて 番号でよばれるのは、分かりにくく感じます。

ないようにするほうがいいだろう。

ありません。それに、名前であれば、本人が聞き られるというよい点もあります。 のがしても、周りの知り合いが気づき、声をかけ と言いますが、住所や電話番号が分かるわけでは 母は、「名前を知られたくない人もいるから。」

すのは、名前がよいのではないでしょうか。 りやすいはずです。病院でかんじゃさんをよび出 多くの人にとって、名前でよばれるほうが分か

線を引いてみよう。それぞれの文章の主張、 根拠、 理由に

理由…緑線(——

根拠…黄線(

主張…赤線(——

ことも、大切な個人情報である。他の人に知られ ります。」とおっしゃっていた。病院も、だれが や住所、電話番号など、個人に関する情報を公開 の話を聞いた。講師の町田さんは、「インターネ いるか分からない場所だ。名前も、通院している すると、個人が特定され、悪用されるおそれがあ ットは、だれが見るか分からないものです。名前 この間、学校の安全教室で、個人情報について ぼくは、病院のよび出しは番号がよいと考える。 木原

院でのよび出しは、名前のほうが分かりやすいと かるだけでも、安全面で心配があるといえる。病 知り合いかと思って油断してしまう。持ち物の記 防犯ブック」には、「名前でよびかけられると、 ない。しかし、けいび会社からもらった「子ども を比べると、安全面のほうが大切なのではないだ いう意見も理解できるが、分かりやすさと安全面 名場所には注意しよう。」とある。 顔と名前が分 名前だけならだいじょうぶだと思うかもしれ

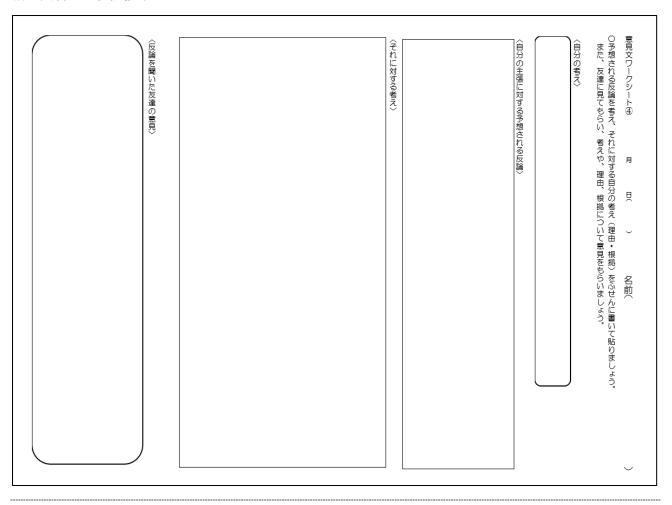
のよび出しは、番号のほうがよい。 多くの人の個人情報を守るという点から、病院

補助資料5 検証授業のワークシート

| ○ 関本さんの文例 本原さんの文例 本原さんの文例 | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| ○自分の文章をもっとよくするためこは、どうすればよいかな。 | () に記号を書きましょう。 |
| 者えた書きましょう。 | 主張() |
| | 根拠(|
| | 理由() |
| | 反論() |
| | ア 考えに対するわけ。 |
| | ること。 相手の論や批判に反対の意見を述べ |
| | ウ 自分の意見や思いのこと。 |
| ○とのようなところを工夫して書いたか説明しましょう。 | 知識・見聞きしたこと。 王 経験や体験、データ(数字)、名言、 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

| 理 由 4 | 理 由 2 | 理 由 1 | 意見文ワークシート③ 月 日()意見文ワークシート③ 月 日()意見文ワークシート③ |
|--------------------|-------------|-------------|--|
| 接 模 | 模 | 模 拠 1 | 月 日() 付けましょう。 普籍がいいか紙がいいか。 |
| | | | 夕自分の考えを書き出し、主張をはっきりさせましょう。 |
| | | | でつ当りさせましょう。 |

補助資料5 検証授業のワークシート



| 終わり | ф | 初め 構成 | 集り |
|-----|---|----------------|---|
| | T | 初め 構成メモを作ろう | 〇集めた情報や、参考になる反達の発言などの中から、どの順で書くとよいか考え、構成メモを作りましょう。意見文ワークシート⑤ 月 日() 名前(|
| | | | しょう。 |

補助資料5 検証授業のワークシート

| 売んだ人 | 氏名(|) | 読んだ人 | 氏名 (|) |
|---------|---------------|--------------------------|--|-----------------------|----------|
| 友達の意見文は | 納得できる文章だった。 😃 | • | 友達の意見文は | は納得できる文章だった。 | <u>:</u> |
| どんなところか | よかったのか伝えよう。 | | どんなところた | がよかったのか伝えよう。 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | 0 | | |
| | | in E | へ る 注 意 読んだ人 | 氏名 (| |
| | | いいと ころは ところ ところ | O Signification 表示の意見をものの意見をものの意見をものの意見をある。 | 氏名 (文は納得できる文章だった。 | · · |
| | | いいところはどこですか。 | O & a in least view of the l | | <u></u> |
| | | | | 文は納得できる文章だった。 | <u></u> |
| | | まとめてみまし | | 文は納得できる文章だった。 | <u>.</u> |
| | | まとめてみ ま | 自分の文章を読み直しま | 文は納得できる文章だった。 | <u></u> |
| | | まとめてみまし | | 文は納得できる文章だった。 | · · |

| | 学習の振り返りを書こう | 計画を書こう | 3 2 7 | 9 |
|--|-------------|---|------------------|-------------------|
| | ①11月 11日(金) | ①11月 11日(金) | 習 の の | の 学 |
| | | 意見文の構成を知り、書き表し方の工夫を見つけよう。 | ③学習の振り返りを書きましょう。 | ①この学習のめあてを書きましょう。 |
| | ②11月 14日(月) | ②11月 14日(月) | 章 き 学 ま 習 | ·盖 |
| 振り返りの書き方》 の①~⑤の中のどれかを書くように よう。 | | 数科書にある例文と自分の書いた文章を 比べながら、意見文について理解しよう。 | しょう。 | ましょう。 |
|)今日の学習で分かったことを書く。 | ③11月 15日(火) | ③11月 15日(火) | ちま | |
| ②反達の意見でよかったところを書 く。 | | 集めた理由や根拠を友達と読み合って、説 得力のある理由や根拠を探そう。 | しょう。 | |
| る を を を は に に に に に に に に に に に に に | | | | |
| 変えたり、つけたしたりしたところ などを書く。 | ④11月 16日(水) | ④11月 16日(水) | | |
| D気が付いたところを書く。 | | 説得力のある文章になるように構成を考 え、意見文を書こう。 | | |
| ③次の授業の時にやってみたいことや | | | | |
| 直していきたいことを書く。 | ⑤11月 17日(木) | ⑤11月 17日(木) | | |
| | | 自分の考えが伝わるように書き表し方を 工夫し意見文を書こう。 | | |
| | ©11月 18日(金) | ©11月 18日(金) | | |
| | | 友達と意見文を読み合って、自分の文章の よさを知ろう。 | | |
| | | | | |

補助資料5 検証授業のワークシート

| | | 終わり | | | | | | | | | | ф | | | | | | | | | 初 | <u>め</u> | | | 題名・ | 氏名 | |
|---|----|----------|--|-----|------|------|---|---|---|-------|---------|---|-----|--------|---|----------|-----|------|--|-------|-----|----------|--------|------|----------|-----|---|
| | | | | | | | | ļ | | | | | | | | | | | | | | | | | <u> </u> | | ļ |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | - | | : :- | | | | -11 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | : : | | | | 1 !- | | | | -11 | | | | | | 1 [| | | | -11 | ! | | 11 | | | | |
| | | | | | | - 1 | | | | - 1 | | | | | | 11- | | | | | | | | | 11- | | |
| | | | | - | | - | | | | - | | | | | | 1 | | | | - | | | 11- | | | | |
| | } | | | - | | - | | | } | -{ } | | | | | } | | | | | - { } | | | 11- | | | | |
| | } | } } | | - | | - | | | } | - { } | | | | | } | | | | | - { } | | | - - | | | | |
| | | ¦ | | - | | - | | ļ | } | - ; ; | | | | | ļ | | - | | | - ; ; | | ļ | - - | | | | |
| | | | | | | - 1 | | | | - | | | | | | ļ ļ | | | | | | | 44- | | l | | |
| | | i i | | | | | | ļ | ļ | - | | | | | | 11 | | | | | | ļ | . | | i | | |
| | | | | | | | | | l | | | | | | | | | | | | | ļ | | | i i | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | - | | | | | | | | | | | | |
| | | | | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ; | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 11 | | | | | | | | | П | | |
| | | | | | | 1- | | | | | | | | | | | | | | | (| | | | | | |
| | } | | | - | | - | { | | | -{ | | | | 11 | } | 1 | | | | - | | | | | H | | |
| | ;; | ¦ | | - | | - | | | | - | | | | | | 1 | | | | - | | | | | | | |
| | | | | | | - | | | | - ; ; | | | | | | 1 | 1 | | | - ; ; | | | | | | | |
| | | | | - | | - | | | | - | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | <u> </u> | | | | - | | | | | <u></u> | | | | | <u> </u> | | | | | | | 11- | | | | |
| | | | | - | | - | | ļ | | - | | | | ļ | | | | | | - | | ļ | H | | | | |
| إ | | ¦ | | - | | - | | | ļ | - | | | | | | } | - | | | .;; | | ļ | 4 | | | | |
| | }} | } } | | - | | - | | | } | - { } | | | | } | } | } } | | | | - { } | { | ļ | 44 | | | | |
| - | | | | - [| 1 | | | 1 | | | | 1 | - 1 | | 1 | | 1 1 | 1 | | | - 1 | 1 | 11 | | | - 1 | 1 |

| | | | - | - | - | | | - | - | - | - | - | | | | | | | | | | | | | | | | | П | | - | | | | | |
|----------|-----|---|-----|---|---|-----|----------|------|---|---|---|-----|--------|---|-------|---|----------|--------|---|---|------|---|--|---|------|-----|---------|---|---|---|-----|---|------|---|---|--|
| | | | | | | | | | - | | - | | | | | | П | | | | | | | - | - | | П | | | | ľ | | | | | |
| | | ! | | | | | | | | | | | | | | | 11 | - | | | | | | - | | 1 | 1 | | | | - [| | - | ! | | |
| | | ! | | | | | | | | | | | ļ | | | | | - | | | | | | | | | | ! | - | ! | - | | - | | | |
| | ļ., | | ļ., | | | | | | | | | | ļ | | | | | - | | ļ | | | | | | | | | | | - | | - | | | |
| <u>.</u> | ļ | { | | | ļ | . | - | | | { | | - { | ļ } | . | - | | | }- | | ļ | | | | | | | | | - | | - | | - | İ | | |
| | } | | | | | - | - | | | { | | -{ | } | - | | | - | }- | | } | | | | | | | | | - | | - | | | | | |
| | | | | | | - | - | | | | | - { | ļ | - | | - | - | - | | ļ | | | | | | | | | - | | - | | | | | |
| | | | | | | - | - | | | | | | ļ | 4 | | | 1 - | - | | | | | | | | | | | - | | - | | - | | | |
| | | | | | | -!! | - | | | | | | | - | | - | | - | | | | | | | | | | | - | | - | | - | | | |
| | | | | | | | - | | | | | - | | | | | | - | | | | | | | | | | | - | | - | | - | | | |
| | ļ | | ļ | | | | | | | | | | ļ | | | | - | - | | | | | | | | | | | - | | - | | - | | | |
| | | ! | ļ | | | | - | | | | | | ļ | - | | | - | - | | } | | | | | | | ! ! | | - | | - | | - | | | |
| | } | | | | | | - | | | { | | - { | | | | | - | }- | { | | | | | | | | } | | | | - | | | | | |
| | } | { | | | | | - | | | { | | - { | } | | | | | }- | { | } | | | | | | | | | | | - | | | | | |
| | | { | | | | | - | | | | | | | | | | - | - | | | | | | | | | | | | | - | | | | | |
| ; | | i | | | | | | | j | | | i | | | | | | - | i | [| | | | - | | | | | | | i | | j- · | | - | |
| | | ! | | - | | | | | | | | - 1 | | | | | | - | 1 | | | | | - | | - 1 | 1 [| | | ! | - | ! | - | ! | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |] |] [| | | | | | | ! | | |
|] | | | | | | | | | | | |] | | | | | Щ | | | | | Щ | | | |] | H | | | | | | | | | |
| | | | Ĺ., | | ļ | | Н. |) | | J | | | l | | | | Ш | | | | | Н | | | | | | | | | | | | | | |

補助資料6 12月の児童へのアンケート

国語の書くことアンケート (FORMS)

- 1. 国語の授業は楽しかったですか?
- ④楽しかった ③まあまあ楽しかった ②あまり楽しくなかった ①楽しくなかった
- 2. 意見文の書き方(主張、理由、根拠、反論を入れて書く)が分かりましたか?
- ④よく分かった ③まあまあ分かった ②あまり分からなかった ①分からなかった
- 3. 意見文には、どのような根拠を入れて書きましたか?
- ①経験や体験 ②データ(数字など) ③見聞きしたこと、知識 ④名言
- 4. ふせんを使った活動は、自分の考えをまとめるために役に立ちましたか?
- ④役に立った ③まあまあ役に立った ②あまり役に立たなかった ①役に立たなかった
- 5. ワークシートは、意見文の書き方を学ぶのに役立ちましたか?
- ④役に立った ③まあまあ役に立った ②あまり役に立たなかった ①役に立たなかった
- 6. 自分の意見を深めるとき、友達との意見交流は役に立ちましたか?
- ④役に立った ③まあまあ役に立った ②あまり役に立たなかった ①役に立たなかった
- 7. 相手(クラスの仲間)を意識しながら意見文を書きましたか?
- ④意識した ③まあまあ意識した ②あまり意識しなかった ①意識しなかった
- 8. クラスの仲間の意見文を読んで、納得できたと思うところがありましたか?
- ④あった ③まあまああった ②あまりなかった ①なかった
- 9. 自分の意見文を比べて読んで、内容がよくなったなぁと思うところがありましたか?
- ④あった ③まあまああった ②あまりなかった ①なかった
- 10. ワークシートを活用してみて、使いやすかったところはどこでしたか? (自由記述)
- 11. ワークシートのここを直してほしいと思ったところはどこでしたか? (自由記述)